

EPSON
EXCEED YOUR VISION

取扱説明書

Offirio
オフイリオ プロジェクター

EB-G5750WU

マニュアル中の表示の意味

• 安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

• 一般情報に関する表示

注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。  p.144
操作	操作方法や作業の順番を示しています。 番号順に操作して目的の作業を行ってください。
[(表記名)]	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：[戻る]ボタン
「(メニュー名)」 明るさ(太字の表記)	環境設定メニューの項目を示しています。 例： 画質調整メニュー - 「明るさ」を選びます。 画質調整メニュー - 明るさ

マニュアル中の表示の意味 2

はじめに

本機の特長 8

天吊り設置時の使い易さを徹底的に追求	8
安心の信頼性	8
幅広いニーズに対応	8
充実したセキュリティー機能	9
扱いやすさを満載	9
監視・制御機能	9
ネットワークに接続してフル活用	9

各部の名称と働き 10

前面/上面	10
底面	11
背面	11
インターフェイス	12
操作パネル	13
リモコン	14
電池の入れ方	15
リモコンの操作範囲	17

便利な機能

投写映像を調整する 19

テストパターンを表示する	19
投写映像の位置調整(レンズシフト)	20
投写映像のゆがみを補正する	20
Quick Corner	21
タテヨコ補正	23

投写映像を切り替える 25

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)	25
リモコンで目的の映像に切り替える	26

投写映像のアスペクト比を切り替える 27

アスペクトモードを切り替える	27
ビデオ機器の映像、HDMI入力端子からの映像を投写しているとき	27
コンピューターの映像を投写しているとき	27

映り具合を選ぶ(カラーモードの選択) 29

2種類の映像を同時に投写する(2画面) 30

2画面で投写できる入力ソース	30
操作方法	30
2画面で投写する	30
左画面/右画面を入れ替える	31
左画面/右画面の画面サイズを切り替える	31
2画面を終了する	32
2画面で投写中の制限事項	32
操作に関する制限事項	32
映像に関する制限事項	32

投写を効果的にする機能 34

映像と音声を一時的に消す(AVミュート)	34
映像を停止させる(静止)	34
説明箇所を指し示す(ポインター)	34
映像を部分的に拡大する(Eズーム)	35

複数台利用時に操作対象プロジェクターを限定する 37

プロジェクターのIDを設定する	37
プロジェクターIDの確認方法	37
リモコンのIDを設定する	38

複数台設置時の色差補正(マルチスクリーンカラーアジャストメント) 40

補正手順の概要	40
補正の方法	40

ユーザーロゴの登録 42

セキュリティー機能 44

利用者を管理する(パスワードプロテクト)	44
----------------------------	----

パスワードプロテクトの種類	44
パスワードプロテクトの設定方法	44
パスワードの認証	45
操作を制限する(操作ボタンロック)	46
盗難防止用ロック	47
ワイヤロックの取り付け方	47
投写レンズの盗難防止	47

環境設定メニュー

環境設定メニューの操作	50
画質調整メニュー	51
映像メニュー	53
設定メニュー	55
拡張設定メニュー	57
ネットワークメニュー	59
ネットワークメニュー操作上のご注意	60
ソフトキーボードの操作	60
基本設定メニュー	61
無線LANメニュー	62
セキュリティーメニュー(オプション品の無線LANユニット装着時に有効)	64
WEP選択時	65
WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)選択時	66
EAP-TLS選択時	67
EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-Fast/GTC選択時	68
有線LANメニュー	69
メールメニュー	70
その他メニュー	71
初期化メニュー	72

情報メニュー(表示のみ)	73
初期化メニュー	74

困ったときに

ヘルプの見方	76
故障かなと思ったら	77
インジケータの見方	77
⏻ インジケータが赤色点灯/点滅時	78
⚠ インジケータが点滅/点灯時	79
インジケータを見てもわからないとき	81
映像に関するトラブル	82
投写開始時のトラブル	86
その他のトラブル	87
Event IDの見方	89

メンテナンス

各部の掃除	91
本機の掃除	91
レンズの掃除	91
エアフィルターの掃除	91
消耗品の交換方法	94
ランプの交換	94
ランプの交換時期	94
ランプの交換方法	94
ランプ点灯時間の初期化	96
エアフィルターの交換	97
エアフィルターの交換時期	97
エアフィルターの交換方法	97
輸送時のご注意	99
近くへの移動	99

輸送する場合	99
梱包の準備	99
梱包と輸送の注意	99

監視と制御

EasyMP Monitor について	101
Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)	102
Web制御を表示する	102
Web Remoteを表示する	102
メール通知機能で異常を通知する	104
異常通知メールの見方	104
SNMP を使って管理する	105
ESC/VP21コマンド	106
シリアル接続	106
通信プロトコル	106
コマンドリスト	106
PJLink について	108
Crestron RoomView[®] について	109
コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する	109
操作画面を表示する	109
操作画面の使い方	110
Tools画面の使い方	111

ネットワーク関連機能

「ネットワークプロジェクターへの接続」で投写する	114
WPS(Wi-Fi Protected Setup)で無線LANアクセスポイントに接続する	115

接続設定の方法	115
プッシュボタン方式で接続する	116
PINコード方式で接続する	117

設置と接続

いろいろな設置方法	121
設置モードを切り替える	121
映像機器との接続	123
コンピューターとの接続	123
ノート型コンピューターの映像出力切り替え	125
ビデオ映像機器との接続	125
外部機器との接続	128
LANケーブルの接続	128
外部モニターとの接続	128
外部スピーカーとの接続	128
オプション品・同梱品の取り付け	129
投写レンズユニットの取り外しと取り付け	129
取り外し方	129
取り付け方	129
無線LANユニット(ELPAP03)の取り付け	130
取り付け方	130
無線LANインジケータの見方	131
ケーブルカバーの取り付け、取り外し	131
取り付け方	131
取り外し方	132

各種一覧

オプション・消耗品一覧	134
オプション品	134
消耗品	134

スクリーンサイズと投写距離	136
投写距離	136
対応解像度一覧	138
対応解像度	138
コンピューター映像 (アナログRGB)	138
コンポーネントビデオ	138
コンポジットビデオ/S-ビデオ	138
DVI-D入力端子、HDMI入力端子からの入力信号	138
仕様一覧	140
本機仕様	140
外形寸法図	143
用語解説	144
一般のご注意	146
本製品について	146
表記について	146
商標について	147
索引	165



はじめに

ここでは、本機の特長と各部の名称について説明しています。

天吊り設置時の使い易さを徹底的に追求

レンズセンターの形状

レンズがプロジェクター本体の中央にありますので、重量バランスが取りやすく天吊り設置の作業を容易にします。また、スクリーンと本機の位置合わせが簡単に行えます。

上下、左右レンズシフト搭載

映像の投写位置を上下方向と左右方向に調整できるレンズシフトを搭載していますので、設置の自由度がグンと広がります。  [p.20](#)

5種類のオプションレンズを用意

投写距離や目的に合わせて最適なレンズを選べます。オプションレンズはバヨネット式で簡単・手軽に交換、装着できます。  [p.129, p.134](#)

お使いになる環境になじみ、設置作業もしやすいデザイン

洗練された本体デザインに加えて、ケーブルカバーが本体と一体化しているため雑然としたケーブル類をきれいに包み隠しスッキリと綺麗に見せます。

メンテナンスの容易さ

ランプは本機の側面のカバーを開けてそのまま水平に引き抜いて交換できます。
エアフィルターも本体前面からスッと抜き差しするだけで交換できます。

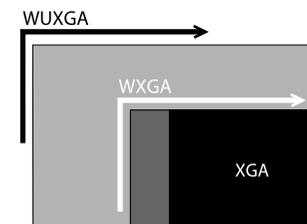
安心の信頼性

吸気システムに大型静電フィルターを採用しています。天吊りなど常設使用の環境において、本体へのほこりの進入を低減させ、温度上昇によるシャットダウンを防ぎます。

幅広いニーズに対応

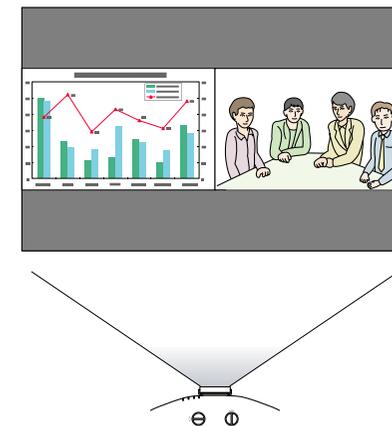
超高解像度のWUXGAパネルを搭載

圧倒的な情報量を大画面で提供できます。頻繁に画面を切り替えたり、スクロールする必要もなく一瞥性に富んだ、見る人に負担のない情報伝達ができます。



2種類の映像を同時に投写(2画面)

2種類の映像ソースを同時に並列投写できます。プレゼンテーションの資料を投写しながらビデオ会議を行うなど、用途の幅が広がります。  [p.30](#)



医用画像を鮮明に再現

エックス線写真などの医用画像を投写するためのカラーモード「DICOM SIM」を搭載しています。医用画像をDICOM規格に近似した画質で再現できます。(本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。)  [p.29](#)

こだわりの色調整

カラーモードに加えて、映像の絶対色温度やRGB各色の強さの調整ができます。さらに、RGBCMYごとに、色相、彩度、明度を調整できますので、細部にわたって優れた深さとカラーマッチングで映像を作り出すことができます。

充実したセキュリティー機能

利用者を制限・管理するパスワードプロテクト

パスワードを設定して、本機を使用する人を制限・管理することができます。

☛ p.44

操作パネルのボタン操作を制限する操作ボタンロック

イベントや学校などで使用する際に本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。☛ p.46

多様な盗難防止の機構を装備

本機には機器そのものを持ち出されないように、次の機構が備わっています。

☛ p.47

- セキュリティースロット
- セキュリティーケーブル取付け部
- レンズユニット取り外しボタン固定ネジ

扱いやすさを満載

ダイレクトにパワーオン/オフ

会議室など電源を集中管理している部屋でも管理元の主電源を入れる/切るとして本機の電源をオン/オフすることができます。

クールダウン不要ですばやい片付け

使用後、本機の電源ボタンを押せばクールダウンを待つことなく電源ケーブルを抜き片付けられます。

監視・制御機能

エプソン製のアプリケーションソフトEasyMP Monitorをはじめ、複数の監視・制御用プロトコルに対応しています。お使いのシステム環境に合わせて本機をご利用いただけます。☛ 「監視と制御」 p.100

ネットワークに接続してフル活用

4画面同時投写でより活発な会議を演出

同梱のアプリケーションソフトEasyMP Multi PC Projectionを使うと、ネットワークを介して接続しているコンピューターの映像を、4画面で同時に表示できます。接続しているコンピューターから誰でも自由に、そして簡単に投写できますので、活発な会議・議論を行えます。☛ 『EasyMP Multi PC Projection 操作ガイド』

ネットワークを利用した画面・音声転送

同梱のアプリケーションソフトEasyMP Network Projectionを使ってネットワーク上のコンピューターと接続し、画像や音声、動画を転送できます。多彩な転送機能を使うことで、プレゼンテーションの幅が広がります。☛ 『EasyMP Network Projection 操作ガイド』

「ネットワークプロジェクターへの接続」で投写

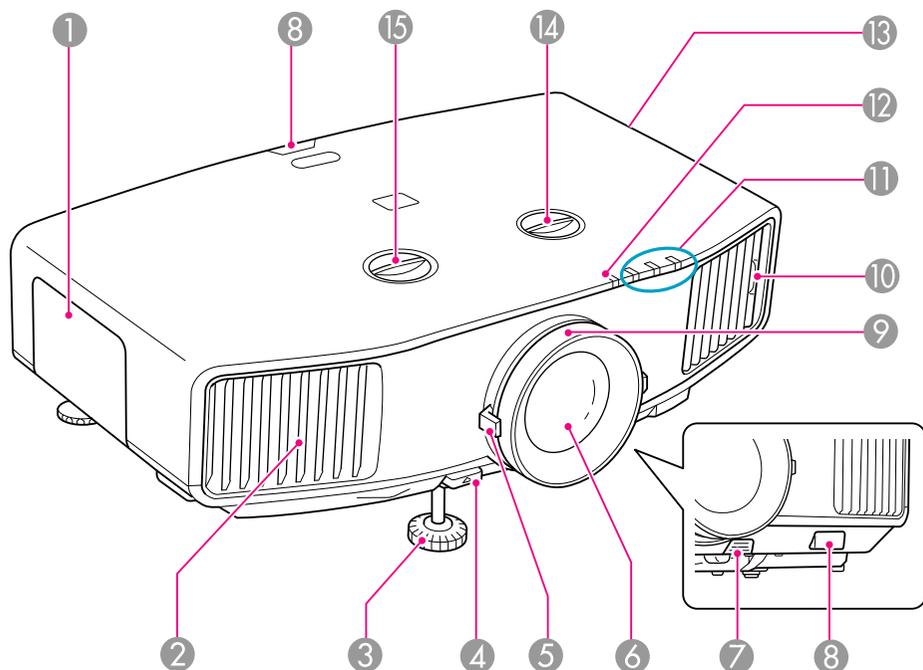
Windows Vista/Windows7に標準搭載のネットワークプロジェクター機能を使うと、本機をネットワークに接続してネットワーク上の複数のユーザーが共有プロジェクターとして利用できます。☛ p.114

クイックワイヤレスでかんたんネットワーク接続

オプション品のクイックワイヤレス用USBキーを抜き差しするだけで、ネットワーク上のコンピューターとプロジェクターを簡単に接続できます。(Windows搭載のコンピューターのみに対応しています。)☛ p.134

前面/上面

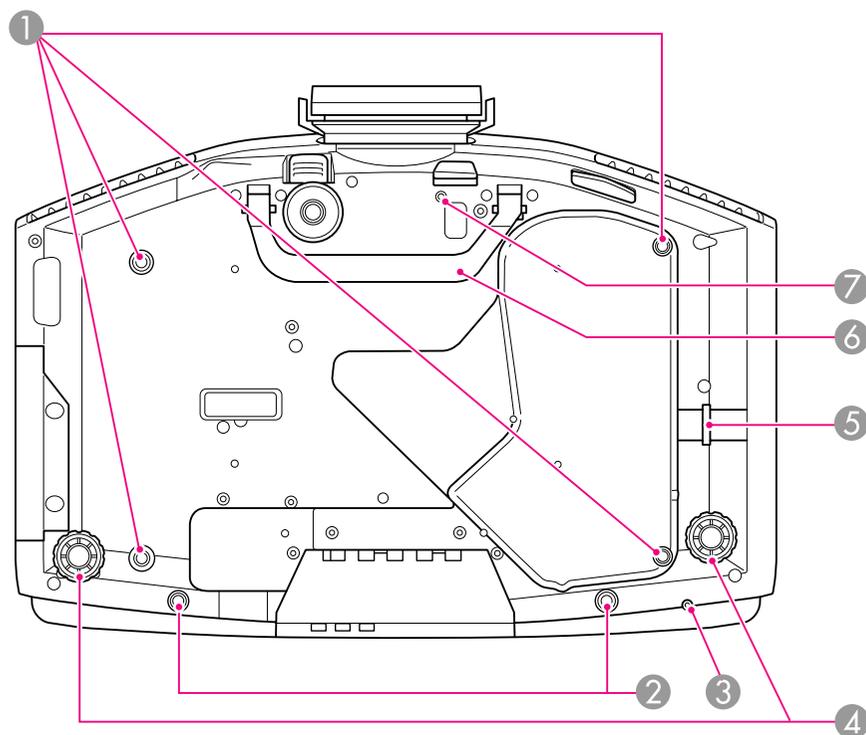
標準ズームレンズを装着しているときのイラストになっています。



名称	働き
① ランプカバー	ランプ交換時に、このカバーを開けて中のランプを交換します。☛ p.94
② 排気口	本機内部を空冷した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は、排気口の付近に、熱で変形したり、悪影響を受けるものを置いたり、手や顔を近づけたりしないでください。

名称	働き
③ フロントフット	机上に設置したとき、本機を傾けて映像の位置を上調整するときに伸ばします。☛ 『セットアップガイド』
④ フットレバー	フットレバーを引いて、フロントフットを伸縮させます。☛ 『セットアップガイド』
⑤ ズームリング	映像のサイズを調整します。☛ 『セットアップガイド』
⑥ 投写レンズ	ここから映像を投写します。
⑦ レンズユニット取外しボタン	レンズユニット交換時に、このボタンを押してレンズユニットを取り外します。☛ p.129
⑧ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。☛ p.17
⑨ フォーカスリング	映像のピントを合わせます。☛ 『セットアップガイド』
⑩ エアフィルタータブ	エアフィルターの掃除または交換時に、このタブに指をかけてエアフィルターを引き抜きます。☛ p.91, p.97
⑪ 状態インジケータ	本機の状態を色や点灯・点滅で示します。☛ p.77
⑫ 無線LANインジケータ	オプション品の無線LANユニット装着時に、ネットワークへのアクセス状況をお知らせします。☛ p.131
⑬ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を空冷するための空気を取り込みます。ここにホコリがたまると内部の温度が上昇し、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。エアフィルターは定期的に清掃してください。☛ p.91
⑭ 上下レンズシフトダイヤル	ダイヤルを回して投写映像の位置を上下に移動します。☛ p.20
⑮ 左右レンズシフトダイヤル	ダイヤルを回して投写映像の位置を左右に移動します。☛ p.20

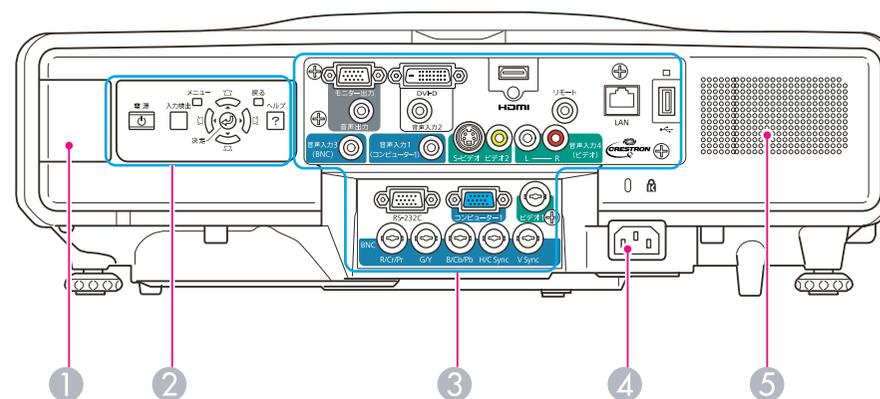
底面



名称	働き
① 天吊り固定部 (4箇所)	天井から吊り下げて使うとき、オプションの天吊り金具を取り付けます。☛ p.134, p.121
② ケーブルカバー固定ネジ穴	ケーブルカバーを固定するネジの穴です。☛ p.131
③ 無線LANユニット固定ネジ穴	オプション品の無線LANユニットを装着したとき、紛失などを避けるために無線LANユニットを固定するネジの穴です。☛ p.130
④ リアフット	机上設置時に、水平方向の傾きを調整するとき回転して伸縮させます。☛ 『セットアップガイド』

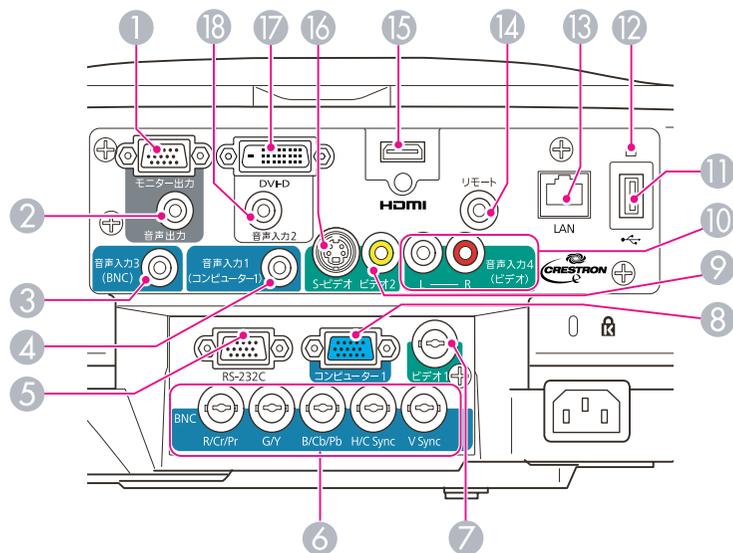
名称	働き
⑤ セキュリティーケーブル取付け部	市販の盗難防止用ワイヤロックをこの部分に通して施錠します。☛ p.47
⑥ ハンドル	本機を持ち運ぶときは、このハンドルを持って移動してください。
⑦ レンズユニット取り外しボタン固定ネジ穴	レンズユニットを装着したとき、レンズユニット取り外しボタンを固定するネジの穴です。☛ p.47

背面



名称	働き
① 無線LANユニット装着部	オプション品の無線LANユニットをここに装着します。装着時はカバーを取り外してください。☛ 「無線LANユニット(ELPAP03)の取り付け」 p.130
② 操作パネル	☛ 「操作パネル」 p.13
③ インターフェイス	☛ 「インターフェイス」 p.12
④ 電源端子	電源ケーブルを接続します。☛ 『セットアップガイド』
⑤ スピーカー	

インターフェイス

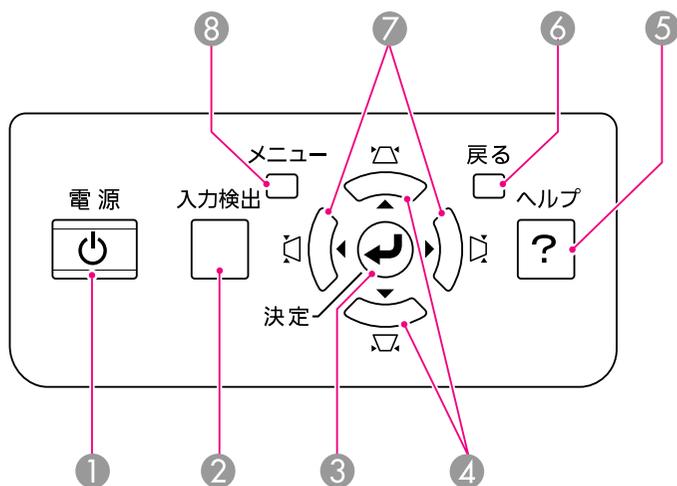


名称	働き
① モニター出力端子	外部モニターと接続し、コンピューター1入力端子、BNC入力端子から入力しているコンピューターのアナログRGB信号を出力します。他の端子から入力している信号やコンポーネントビデオ信号は出力しません。
② 音声出力端子	現在投写している映像の音声を外部スピーカーに出力します。
③ 音声入力3端子	BNC入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。
④ 音声入力1端子	コンピューター1入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。

名称	働き
⑤ RS-232C端子	コンピューターから本機を制御するときにRS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。制御用の端子で通常は使用しません。☛「ESC/VP21コマンド」p.106
⑥ BNC入力端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⑦ ビデオ1入力端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
⑧ コンピューター1入力端子	コンピューターのアナログRGB信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⑨ ビデオ2入力端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
⑩ 音声入力4端子	S-ビデオ入力端子、ビデオ1入力端子、ビデオ2入力端子に接続した機器のうち、本機から音声を出力したい機器の音声出力端子と接続します。
⑪ USB(TypeA)端子	USBストレージやデジタルカメラを接続し、画像・動画ファイル、シナリオを投写します。☛『PC Free 操作ガイド』
⑫ USBインジケーター	USB(TypeA)端子に接続しているUSB機器の状態を以下のようにお知らせします。 消灯：USB機器未接続 オレンジ点灯：USB機器接続時 緑点灯：USB機器動作中 赤点灯：異常
⑬ LAN端子	LANケーブルを接続し、ネットワークに接続します。
⑭ リモート端子	オプション品のリモコンケーブルセットを接続し、リモコンからの信号を入力します。リモコンケーブルをこのリモート端子に差し込むと本機のリモコン受光部は機能しなくなります。
⑮ HDMI入力端子	HDMI™に対応したビデオ機器やコンピューターの映像信号を入力します。本機はHDCP▶▶に対応しています。

名称	働き
⑬ S-ビデオ入力端子	ビデオ機器のS-ビデオ信号を入力します。
⑭ DVI-D入力端子	DVI-D出力端子を持つコンピュータのデジタルRGB信号を入力します。本機はHDCP▶▶に対応していません。
⑮ 音声入力2端子	DVI-D入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。

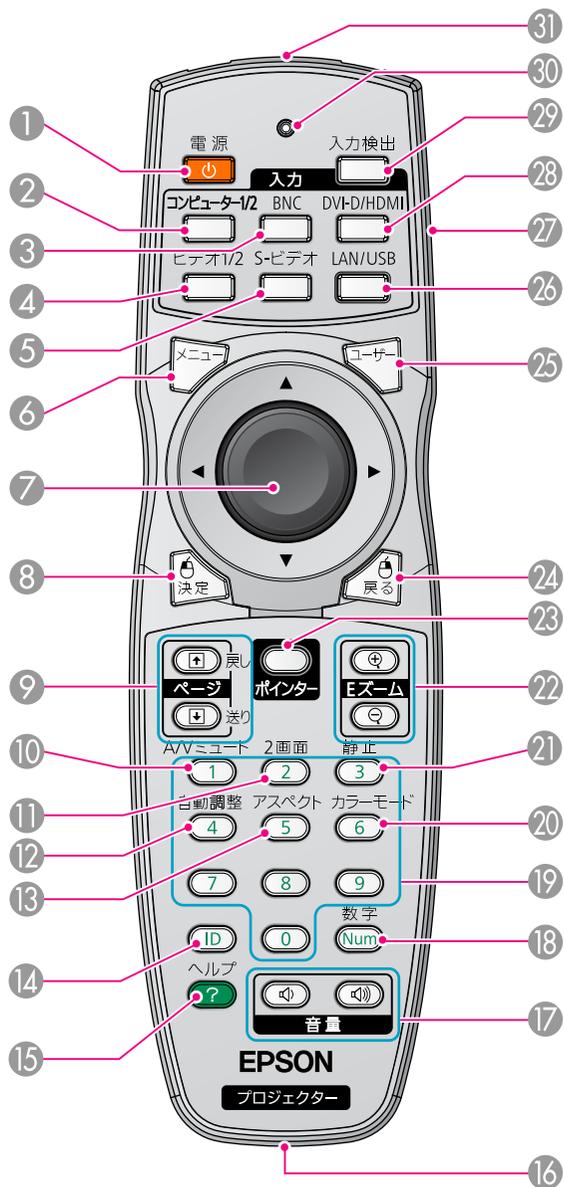
操作パネル



名称	働き
① [⏻]ボタン	電源をオン/オフします。▶▶『セットアップガイド』
② [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替えます。▶▶ p.25

名称	働き
③ [決定]ボタン	コンピュータのアナログRGB信号を投写中に押すと、最適に映るようにトラッキング・同期・表示位置が自動調整されます。 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。▶▶ p.50
④ [△/▲][▽/▼]ボタン	タテ台形補正するときには押します。▶▶ p.23 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、[▲][▼]ボタンとして機能し、メニュー項目や設定値を選択します。▶▶ p.50 PC Freeで投写しているときや、「ネットワークプロジェクターへの接続」で投写しているときは、[▲][▼]ボタンとしてのみ機能します。
⑤ [ヘルプ]ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。▶▶ p.76
⑥ [戻る]ボタン	実行中の機能を終了します。 環境設定メニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。▶▶ p.50
⑦ [◀][▶]ボタン	ヨコ台形補正するときには押します。▶▶ p.23 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、[◀][▶]ボタンとして機能し、メニュー項目や設定値を選択します。▶▶ p.50 PC Freeで投写しているときや、「ネットワークプロジェクターへの接続」で投写しているときは、[◀][▶]ボタンとしてのみ機能します。
⑧ [メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。▶▶ p.49

リモコン



名称	働き
① [電源]ボタン	本機の電源をオン/オフします。☛『セットアップガイド』
② [コンピューター1/2]ボタン	コンピューター1入力端子からの映像に切り替えます。
③ [BNC]ボタン	BNC入力端子からの映像に切り替えます。
④ [ビデオ1/2]ボタン	押すたびに、ビデオ1入力端子、ビデオ2入力端子からの映像に切り替えます。
⑤ [S-ビデオ]ボタン	S-ビデオ入力端子からの映像に切り替えます。
⑥ [メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。☛ p.49
⑦ [D-pad]ボタン	環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。☛ p.50, p.76 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時は、ボタンを押した方向(8方向)にマウスポインターが移動します。
⑧ [決定]ボタン	環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。☛ p.50, p.76 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時は、マウスの左ボタンとして機能します。
⑨ [ページ]ボタン [↑][↓]	ネットワークを介して本機と接続しているコンピューターからの映像を投写しているときに、Page UP/Page Downの操作ができます。PC Freeで投写しているときは、画面の切り替え操作ができます。オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時に、Page UP/Page Downの操作ができます。
⑩ [AVミュート]ボタン	映像と音声を一時的に消去/解除します。☛ p.34
⑪ [2画面]ボタン	画面を2つに分割して、2種類の映像を同時に投写するときに押します。☛ p.30
⑫ [自動調整]ボタン	コンピューターのアナログRGB信号を投写中に押すと、最適に映るようにトラッキング・同期・表示位置が自動調整されます。

名称	働き
⑬ [アスペクト]ボタン	押すたびに、アスペクト比▶が切り替わります。 ☛ p.27
⑭ [ID]ボタン	リモコンIDを設定するときに押します。☛ p.38
⑮ [ヘルプ]ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。 ☛ p.76
⑯ リモート端子	オプション品のリモコンケーブルセットを接続し、 リモコンからの信号を出力します。 リモコンケーブルをこのリモート端子に差し込むと リモコン発光部は機能しなくなります。
⑰ [音量]ボタン [◀][▶]	[◀]音量を下げます。[▶]音量を上げます。 ☛ 『セットアップガイド』 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">⚠ 注意 初めから音量を上げすぎないでください。 突然大きな音が出て、聴力障害の原因になる ことがあります。電源を切る前に音量(ボ リューム)を下げておき、電源を入れた後で 徐々に上げてください。</div>
⑱ [数字]ボタン	パスワードの入力やネットワークメニューでIPアド レスなどを入力するときに使います。
⑲ テンキーボタン	パスワード入力やリモコンIDの指定、ネットワー クメニューでIPアドレスなどを入力するときに使いま す。
⑳ [カラーモード]ボタン	押すたびにカラーモードが切り替わります。 ☛ p.29
㉑ [静止]ボタン	映像を一時停止/解除します。☛ p.34
㉒ [Eズーム]ボタン [⊕][⊖]	[⊕]ボタンを押すと、投写サイズを変えずに映像を 拡大します。 [⊖]ボタンを押すと、[⊕]ボタンで拡大した結果を縮 小します。☛ p.35

名称	働き
㉓ [ポインター]ボタン	投写中の映像をポインターで指し示すときに押しま す。☛ p.34
㉔ [戻る]ボタン	実行中の機能を終了します。環境設定メニューを表 示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☛ p.50 オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時 は、マウスの右ボタンとして機能します。
㉕ [ユーザー]ボタン	環境設定メニューの項目のうち良く使われる6項目 から任意に項目を選択して、このボタンに割り当て ることができます。ボタンを押すと割り当てたメ ニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるので ワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ☛ p.55 初期設定ではテストパターンが割り当てられていま す。
㉖ [LAN/USB]ボタン	押すたびに、ネットワークを介して本機と接続して いるコンピューターからの映像、USB(TypeA)端子に 接続したUSB機器からの映像に切り替えます。
㉗ IDスイッチ	リモコンのID設定の有効(On)/無効(Off)を切り替える スイッチです。☛ p.37
㉘ [DVI-D/HDMI]ボタン	押すたびに、DVI-D入力端子、HDMI入力端子から の映像に切り替えます。
㉙ [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替 えます。☛ p.25
㉚ インジケーター	リモコン信号を出力しているときに発光します。
㉛ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

電池の入れ方

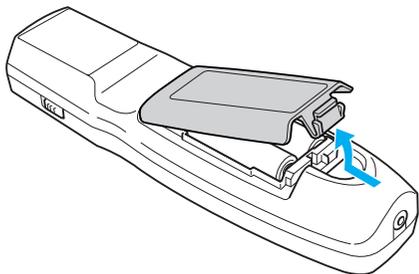
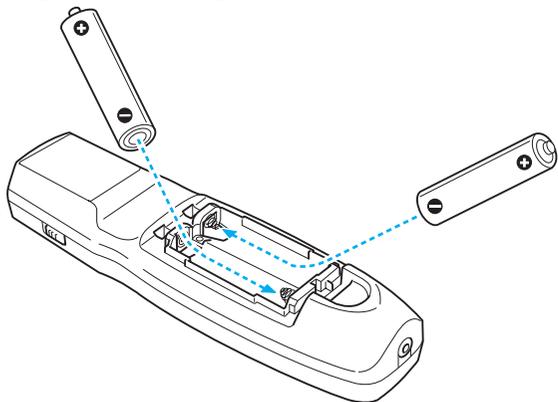
お買い上げ時は、リモコンに電池はセットされていません。同梱の乾電池(単3形アルカリ乾電池2本)をセットしてからお使いください。

注意

電池を取り扱う前に、別冊の『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。 ●『安全にお使いいただくために』

操作**1** 電池カバーを外します。

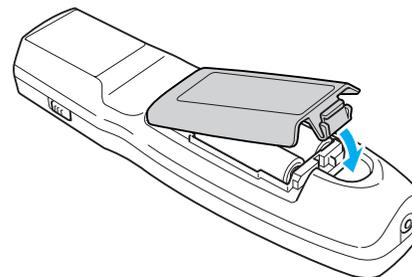
電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。

**2** 乾電池を正しい向きで入れます。**⚠ 注意**

電池ホルダ内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。

3 電池カバーを取り付けます。

カチッと音がするまでカバーを押し込みます。

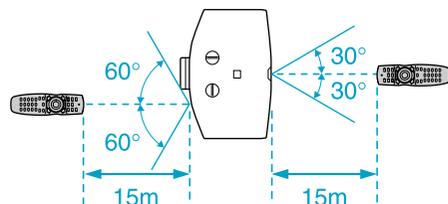


使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形アルカリ乾電池2本を用意してください。単3形アルカリ乾電池以外の電池は使用できません。

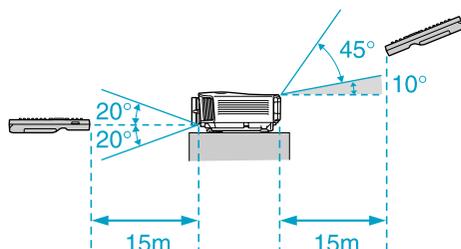
リモコンの操作範囲

リモコン発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けてご使用ください。本機に添付のリモコンの操作可能範囲は以下のとおりです。

操作可能範囲 (左右)



操作可能範囲 (上下)



- リモコンからの操作信号の受信を制限するときは、**設定メニュー**のリモコン受光部で設定します。☞ p.55
 - 他のエプソンプロジェクターに添付のリモコンで本機を操作するときは、**拡張設定メニュー**のリモコン種類で設定します。☞ p.57
- ただし、お使いのリモコンにより操作可能範囲は異なります。



便利な機能

ここでは、プレゼンテーションなどに効果的な機能と、セキュリティー機能について説明しています。

テストパターンを表示する

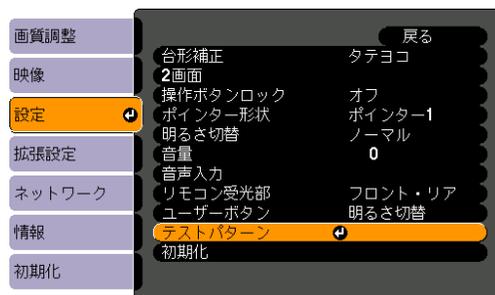
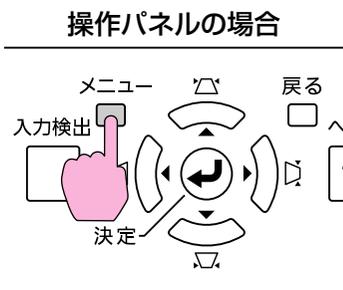
テストパターンを表示させると、映像機器を接続せずに投写状態を調整できます。プロジェクターを設置するときに便利です。



リモコンの[ユーザー]ボタンをテストパターンに設定しているときは、[ユーザー]ボタンを押すとテストパターンが表示されます。(初期値はテストパターンに設定されています。)

操作

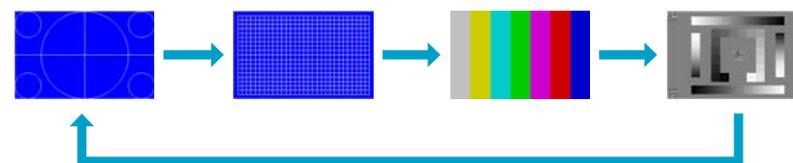
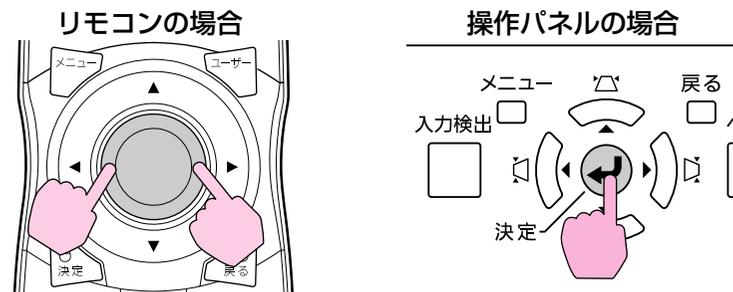
- 1 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押します。設定メニュー - 「テストパターン」を選択して[決定]ボタンを押します。



【戻る】:戻る 【↔】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- 2 リモコンの[◉]ボタンを[▶]方向に押し、または操作パネルの[決定]ボタンを押してテストパターンを切り替えます。

ひとつ前のテストパターンを表示するときは、リモコンの[◉]ボタンを[◀]方向に押します。



テストパターン表示中は、以下の調整を行えます。

- ズーム、フォーカス調整 ➡ 『セットアップガイド』
- 投写映像の位置調整 ➡ p.20
- 投写映像のゆがみ補正 ➡ p.20
- 映り具合(カラーモード)の選択 ➡ p.29
- 明るさの調整 ➡ 画質調整メニュー - 明るさ p.51
- シャープネス調整(スタンダードのみ) ➡ 画質調整メニュー - シャープネス p.51
- 色温度の調整 ➡ 画質調整メニュー - 絶対色温度 p.51
- カラー調整 ➡ 画質調整メニュー - カラー調整 p.51



テストパターンを表示中に設定できないメニュー項目の設定や、投写映像の細かい調整は、接続機器からの映像を投写して行ってください。

3

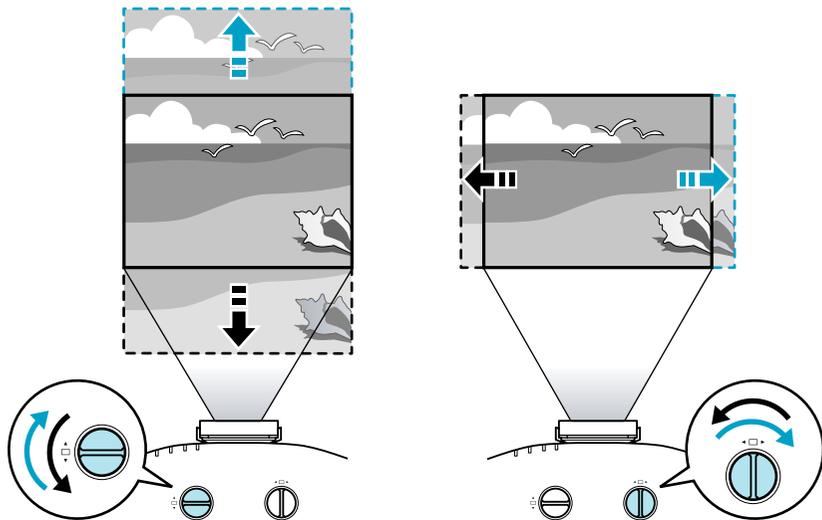
[戻る]ボタンを押してテストパターンの表示を終了します。

投写映像の位置調整(レンズシフト)

スクリーンの正面に本機を設置できないときや、映像の位置を調整したいときは、レンズシフトを使い映像の位置を上下左右に移動できます。

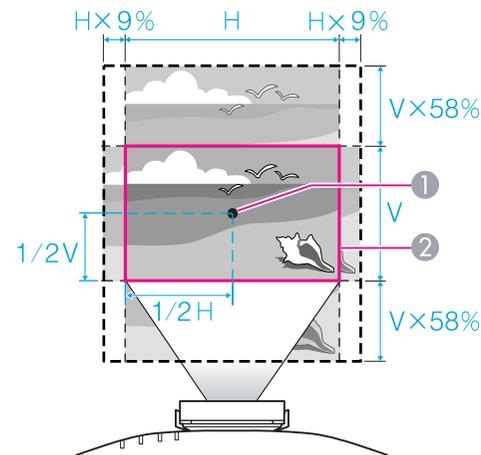
操作

本体の上下レンズシフトダイヤル、左右レンズシフトダイヤルを回して、投写映像の位置を調整します。



レンズシフトダイヤルを上下、左右とも中央に合わせたときがもっとも鮮明な映像となります。

レンズシフトで映像を移動できる範囲は、以下のとおりです。



- ① レンズの中心
- ② レンズシフトを中央に設定したときの投写映像

投写映像のゆがみを補正する

投写映像のゆがみを補正するには、以下の2通りの方法があります。

- Quick Corner
スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。
☛ 「Quick Corner」 p.21
正確に台形補正を行うときは、Quick Cornerで行うことをお勧めします。

• タテヨコ補正

タテ方向の台形ゆがみ、ヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。タテヨコ補正は、本体操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンで簡単に補正できます。☞「タテヨコ補正」 p.23

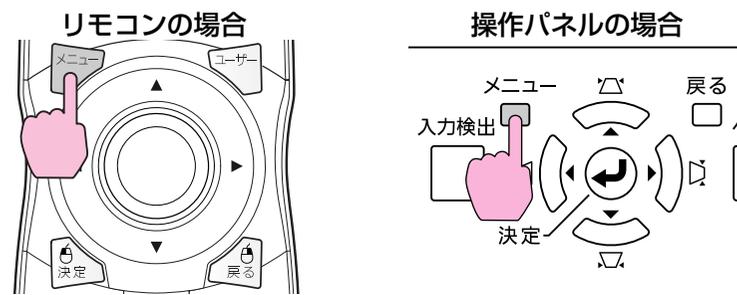
Quick Cornerとタテヨコ補正は併用できません。環境設定メニューの**台形補正**で使用する補正方法を選択すると、選択した補正方法が操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンに割り当てられます。初期設定では**台形補正**が**タテヨコ**に設定されているので[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンを押すとタテヨコ補正が実行されます。

Quick Corner、タテヨコはテストパターン投写中にも実行できるので、準備作業にコンピューターなどの接続が不要です。

Quick Corner

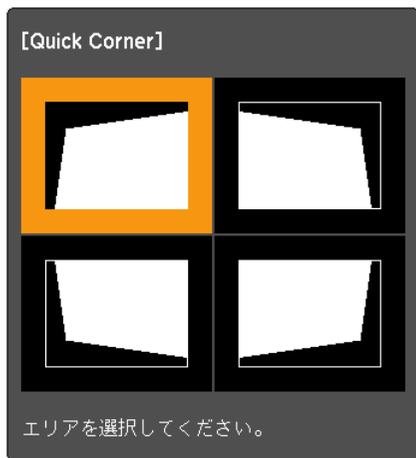
操作

- 1 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押します。設定メニュー - 「台形補正」を選択し[決定]ボタンを押します。☞「環境設定メニューの操作」 p.50



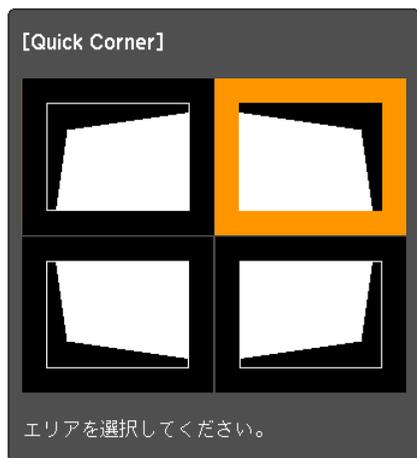
【戻る】:戻る 【◆】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- 2 「Quick Corner」を選択し[決定]ボタンを押します。もう一度[決定]ボタンを押すと、次の4つのコーナーを選択する画面が表示されます。

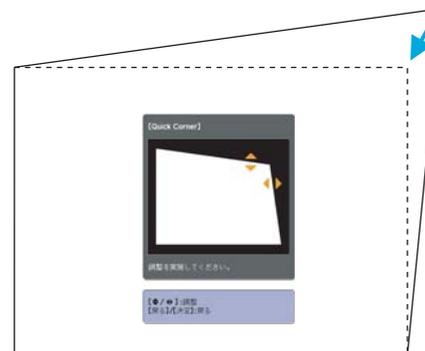


[◆/◇]: 選択
 [決定]: 決定
 [戻る]: 戻る(2秒間押下で初期化/切替)

- ③ 補正するコーナーをリモコンの[◆]ボタンまたは操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンで選択して[決定]ボタンを押します。



- ④ リモコンの[◀]ボタンまたは操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◂/◃] [▶/▸]ボタンでコーナーの位置を補正します。



補正中に以下の画面が表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



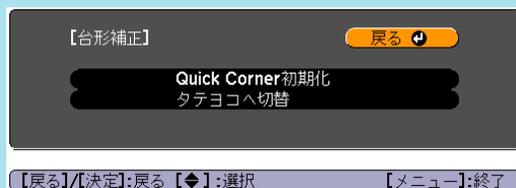
- ⑤ 手順3と4を繰り返して、補正が必要なコーナーすべてを補正します。

6 補正を終了するには、[戻る]ボタンを押します。

環境設定メニューの**台形補正**で補正方法を**Quick Corner**に変更したので、以降は操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンを押すと、手順2のコーナーを選択する画面が表示されます。操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンを押したときにタテヨコ補正したいときは、環境設定メニューの**台形補正**を**タテヨコ**に変更してください。☞ p.55



Quick Cornerで補正中に[戻る]ボタンを約2秒間押し続けると、以下の画面が表示されます。



Quick Corner初期化：Quick Cornerで補正した結果を初期化します。

タテヨコへ切替：補正方法を**タテヨコ**に切り替えます。☞ 「タテヨコ補正」 p.23

タテヨコ補正

操作

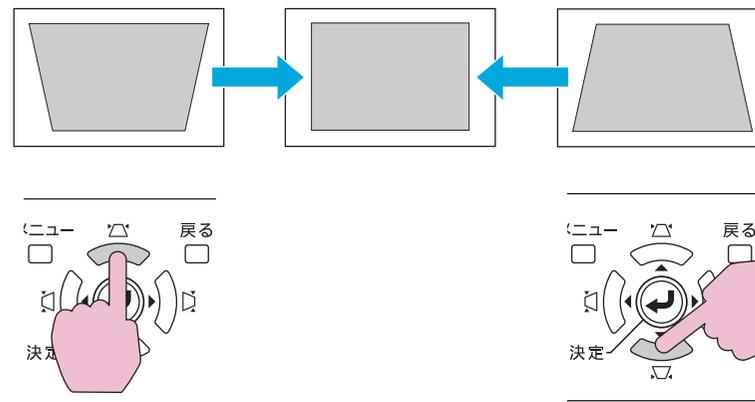
操作パネルの[△/▲] [▽/▼] [◀/◂] [▶/▸]ボタンを押して、タテ方向、ヨコ方向の台形補正をそれぞれ行います。



設定メニューの**タテヨコ**からも行えます。☞ p.55

● タテ方向の台形補正

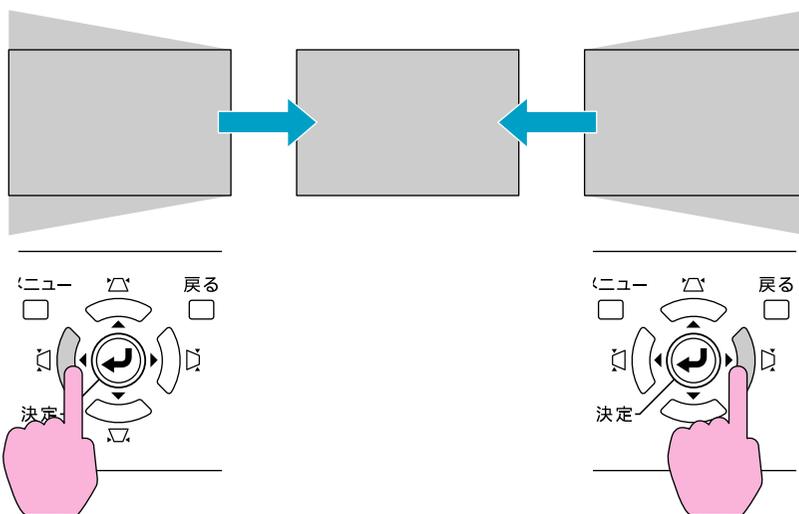
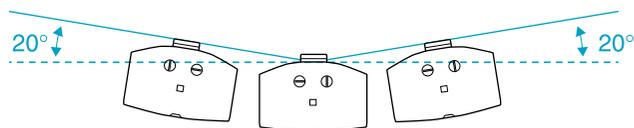
スクリーンに対して本機の上下方向の傾斜角度が約30°までであれば補正できます。本機自体を30°以上傾けてお使いになると、故障や事故の原因となります。



[△/▲] [▽/▼]ボタンを同時に1秒以上押すと、初期状態に戻ります。

• ヨコ方向の台形補正

本機の左右方向の傾斜角度が約20°までであれば補正できます。



[◀/▶] [↶/↷]ボタンを同時に1秒以上押すと、初期状態に戻ります。



タテヨコ補正は、レンズシフト位置を以下の状態にして行ってください。レンズシフト位置が以下と異なるときは正しく補正できません。☛「投写映像の位置調整(レンズシフト)」 p.20

- 左右レンズシフトを中央に合わせる。
- 上下レンズシフトを最上、または最下に合わせる。

ズームの調整値によっては正しく補正できないことがあります。また、補正を行うと投写画面サイズが小さくなる場合があります。設置の際は投写距離にご注意ください。

投写映像をスクリーンに正確に合わせたいときなど、細部の補正を行うときはQuick Cornerで補正します。☛「Quick Corner」 p.21

投写する映像を切り替えるには以下の2通りの方法があります。

- 入力検出で切り替える
本機に接続している機器から映像信号が入力されているかを自動検出し、映像信号が入力されている入力端子からの映像を投写します。
- ダイレクトに目的の映像に切り替える
リモコンから目的の入力端子のボタンを押して切り替えます。

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)

[入力検出]ボタンで切り替えると、映像信号が入力されている入力端子からの映像にのみ切り替わりますので、目的の映像をすばやく投写できます。

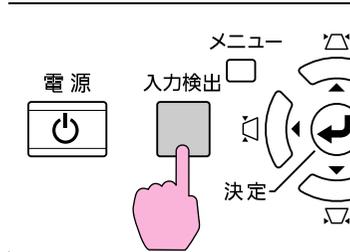
操作

ビデオ機器を接続しているときは、再生状態にしてから操作を開始してください。複数の機器を接続しているときは、目的の映像が投写されるまで[入力検出]ボタンを繰り返し押します。

リモコンの場合



操作パネルの場合



[入力検出]ボタンを押すと、以下の順で映像信号が入力されている入力端子を検出します。(映像信号が入力されていない入力端子は飛び越します。)



LANに切り替わったときは、ネットワークを介して接続しているコンピューターの映像が投写されます。



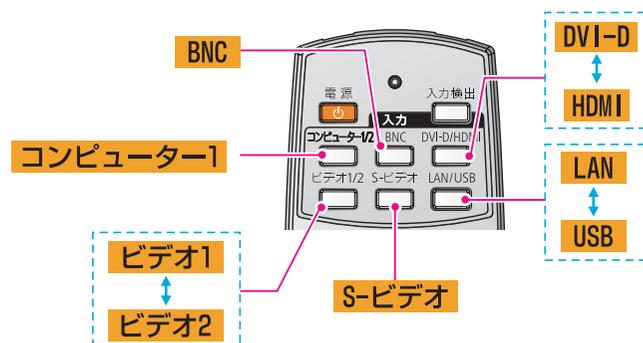
現在投写中の映像信号しか入力されていないときや映像信号がまったく入力されていないときは、映像信号の状態を示す以下の画面が表示されたままになります。この画面では投写したい機器を接続している入力端子を選択することができます。何も操作しないと、約10秒で画面は消えます。



リモコンで目的の映像に切り替える

以下のリモコンのボタンを押すと、目的の入力端子からの映像に直接切り替えることができます。☞「リモコン」 p.14

LANに切り替えると、ネットワークを介して接続しているコンピューターの映像が投写されます。

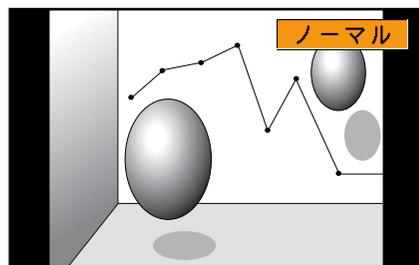


入力信号の種類、縦横比、解像度に合わせてアスペクトモードを選択し、投写映像の[アスペクト比](#)を切り替えます。アスペクトモードの種類は以下のとおりです。投写している映像の種類により、設定できるアスペクトモードは異なります。

アスペクトモード	説明
ノーマル	入力した映像のアスペクト比のまま投写サイズいっぱいになるように投写します。
オート	入力した信号の情報に基づき適切なアスペクト比で投写します。
16:9	16:9のアスペクト比で投写サイズいっぱいになるように投写します。
フル※	投写サイズいっぱいになるように投写します。
ズーム	入力した映像のアスペクト比のまま横方向が投写サイズいっぱいになるように投写します。投写サイズをはみ出した分は投写されません。
リアル	入力した映像の解像度そのまま投写サイズの中央に投写します。よりはっきり投写したいときに適しています。

※ 1080i信号入力時にフルに設定するときは、環境設定メニューの**プログレッシブ変換をオフ**に設定してください。☞ p.53

操作



ボタンを押すと、画面上に現在のアスペクトモード名が表示されます。アスペクトモード名が画面上に表示されている間にボタンを押すと、次のアスペクトモードに切り替わります。



環境設定メニューの映像メニュー - **アスペクト**からも設定できます。

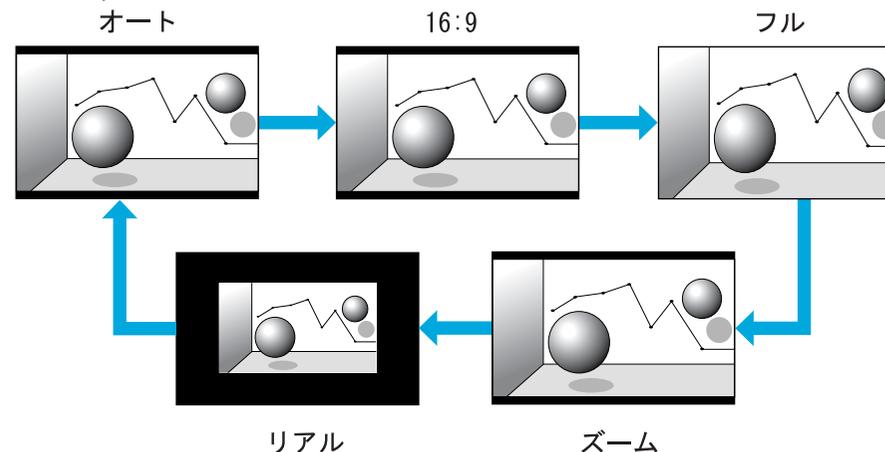
☞ p.53

アスペクトモードを切り替える

ビデオ機器の映像、HDMI入力端子からの映像を投写しているとき

リモコンの[アスペクト]ボタンを押すたびに、アスペクトモードが、**オート**、**16:9**、**フル**、**ズーム**、**リアル**の順で切り替わります。☞ p.27

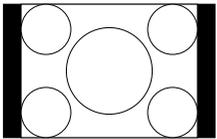
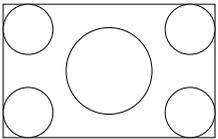
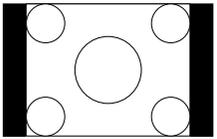
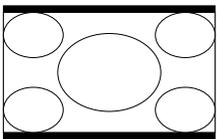
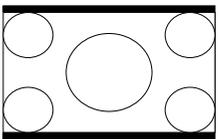
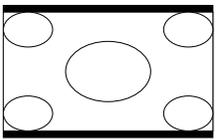
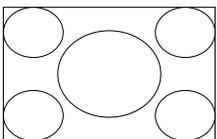
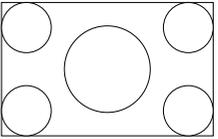
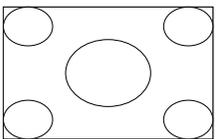
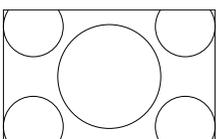
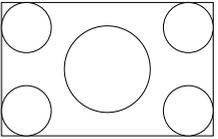
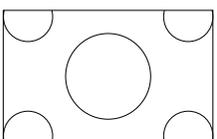
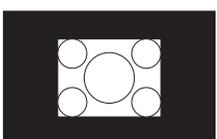
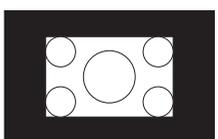
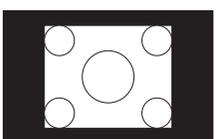
例：720p信号入力時(解像度1280X720、アスペクト比16：9)



コンピューターの映像を投写しているとき

リモコンの[アスペクト]ボタンを押すたびに、アスペクトモードが、**ノーマル**、**16:9**、**フル**、**ズーム**、**リアル**の順で切り替わります。☞ p.27

各アスペクトモードに切り替えたときの投写例は以下のとおりです。

アスペクトモード	入力信号		
	XGA 1024X768(4:3)	WXGA 1280X800(16:10)	SXGA 1280X1024(5:4)
ノーマル			
16:9			
フル			
ズーム			
リアル			



投写映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターのパネルサイズに合わせて環境設定メニューの**入力解像度をワイド**または**ノーマル**に設定してください。  p.53

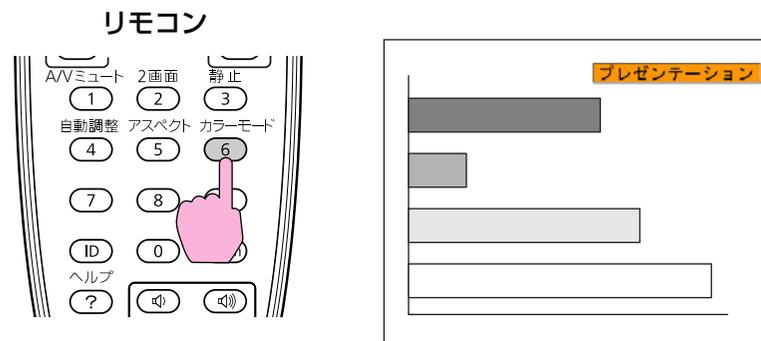
投写時の環境に応じて次の設定から選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが変わります。

モード名	使い方
ダイナミック	明るい部屋での使用に最適です。一番明るいモードです。
プレゼンテーション	明るい部屋で、カラーの資料を使ってプレゼンテーションを行うのに最適です。
シアター	暗い部屋で、映画を楽しむのに最適です。本来の映像ソースに迫る色表現になります。
フォト※1	明るい部屋で、写真などの静止画像を投写するのに最適です。鮮やかで、コントラストのある映像になります。
スポーツ※2	明るい部屋で、テレビ番組などを楽しむのに最適です。鮮やかで、臨場感のある映像になります。
sRGB	sRGB▶▶に準拠した映像になります。
DICOM SIM※1	エックス線写真などの医用画像を投写するのに最適です。陰影のくっきりした映像になります。 なお、本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。
カスタム	環境設定メニューの カラー調整 で R,G,B,C,M,Y の調整をするときは事前に カスタム を選択しておきます。

※1 RGB信号入力時と、入力ソースがUSB/LANのときに選択できます。

※2 コンポーネントビデオ信号、S-ビデオ信号、コンポジットビデオ信号入力時に選択できます。

操作



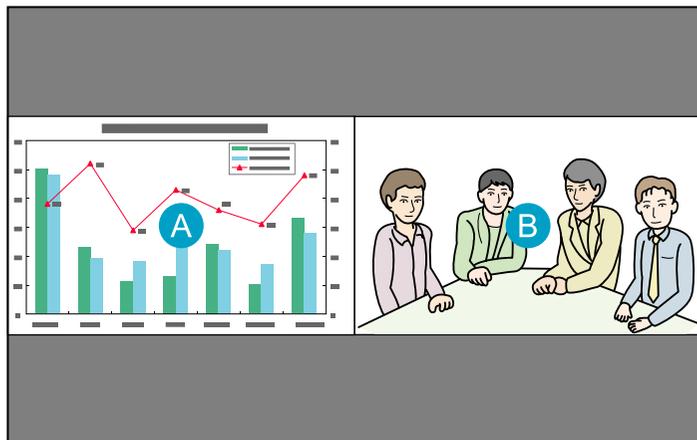
ボタンを押すと画面上に現在のカラーモード名が表示されます。

カラーモード名が画面上に表示されている間にボタンを押すと、次のカラーモードに切り替わります。



環境設定メニューの**画質調整**メニュー - **カラーモード**からも設定できます。▶▶ p.51

2画面では、画面を左画面(A)と右画面(B)に分割して2種類の映像信号を同時に投写することができます。



2画面で投写できる入力ソース

2画面で投写できる入力ソースの組み合わせは以下のとおりです。

ネットワークを介して本機と接続しているコンピューターの映像や、USB(TypeA)端子からの映像は、2画面では投写できません。

片方の画面	もう片方の画面
DVI-D HDMI	コンピューター1 BNC S-ビデオ ビデオ1 ビデオ2

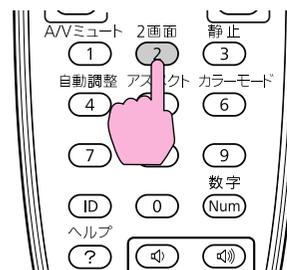
操作方法

2画面で投写する

操作

- 1 本機で投写中にリモコンの[2画面]ボタンを押します。
2画面を開始するときを選択している入力ソースの映像が左画面に投写されます。

リモコン



環境設定メニューの2画面からも2画面を開始できます。▶ p.55

- 2 リモコンまたは操作パネルの[メニュー]ボタンを押します。
2画面設定が表示されます。



[◀]:選択 [決定]:決定

[メニュー]:終了



リモコンまたは操作パネルの[入力検出]ボタンを押したときや、リモコンで各入力ソースのボタンを押したときも、**2画面設定**が表示されます。

3 左画面の投写映像を切り替えるときは「左画面入力ソース」を、右画面の投写映像を切り替えるときは「右画面入力ソース」を選択して[決定]ボタンを押します。

4 投写する入力ソースを選択して[決定]ボタンを押します。
投写できる組み合わせの入力ソースのみ選択できます。☛「2画面で投写できる入力ソース」 p.30
2画面で投写中に各画面の投写映像を切り替えるときは、手順2の操作から始めます。



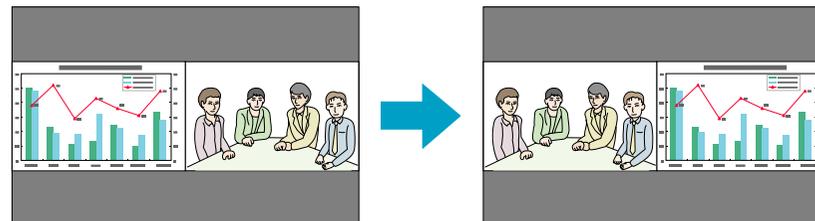
- 左画面で選択している入力ソースの音声が本機から出力されません。
- 左画面で**コンピューター1**、**BNC**を選択しているときは、左画面の映像を外部モニターに表示できます。(アナログRGB信号入力時のみ) ☛ p.128

左画面/右画面を入れ替える

画面の左右を入れ替えるときは、以下の操作を行います。

操作

- 1** 2画面で投写中にリモコンまたは操作パネルの[メニュー]ボタンを押します。
- 2** 「左右画面入替」を選択して[決定]ボタンを押します。
画面の左右が入れ替わります。



左画面/右画面の画面サイズを切り替える

操作

- 1** 2画面で投写中にリモコンまたは操作パネルの[メニュー]ボタンを押します。
- 2** 「画面サイズ」を選択して[決定]ボタンを押します。
- 3** 表示したい画面サイズを選択して[決定]ボタンを押します。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

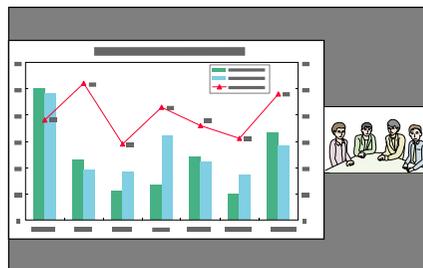
- 4** [メニュー]ボタンを押して設定を終了します。

画面サイズ設定後の投写イメージは以下のとおりです。

均等



左拡大



右拡大



- 左画面、右画面の両方を同時に拡大することはできません。
- 片方の画面を拡大したときは、もう片方の画面は縮小されます。
- 入力している映像信号によっては、**均等**に設定しても左右の画面が同じサイズに見えない場合があります。

2画面を終了する

操作

2画面を終了するときは、リモコンまたは操作パネルの[戻る]ボタンを押します。

以下の操作でも2画面を終了できます。

- リモコンの[2画面]ボタンを押す。
- **2画面設定**で**2画面終了**を選択して[決定]ボタンを押す。

2画面で投写中の制限事項

操作に関する制限事項

2画面で投写中は、以下の操作はできません。

- 環境設定メニューの設定
- Eズーム
- アスペクトモードの切り替え(アスペクトモードは**ノーマル**が適用されます。)  [p.27](#)
- リモコンの[ユーザー]ボタンでの操作

ヘルプを表示できるのは、映像信号が入力されていないとき、または異常・警告通知が表示されたときのみです。

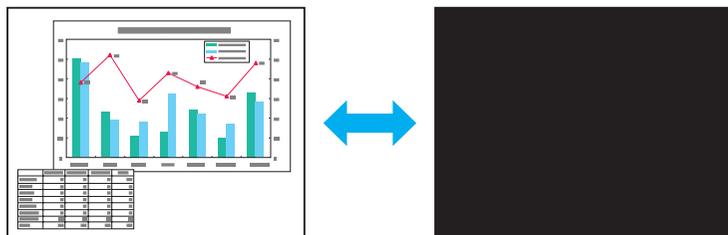
映像に関する制限事項

- 右画面の映像には、**画質調整**メニューの初期値が適用されます。ただし、**カラーモード**、**絶対色温度**、**カラー調整**は、左画面で投写している映像の設定値が適用されます。また、**シャープネス-アドバンスト**(高域強調、低域強調)の設定値は、両画面ともに無効になります。 [p.51](#)
- **プログレッシブ変換**、**ノイズリダクション**、**2-2プルダウン**の設定値は**オフ**が適用されます。  映像メニュー [p.53](#)
- **オーバースキャン**の設定値は初期値が適用されます。  映像メニュー - **オーバースキャン** [p.53](#)
- 映像信号が入力されていないときの表示画面は**青**になります。

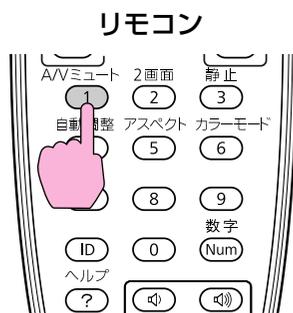
- AVミュートを実行したときの表示画面は黒になります。

映像と音声を一時的に消す(A/Vミュート)

スクリーンの映像を消して聴衆を話しに集中させたいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。



操作



ボタンを押すたびにA/Vミュートが実行/解除されます。

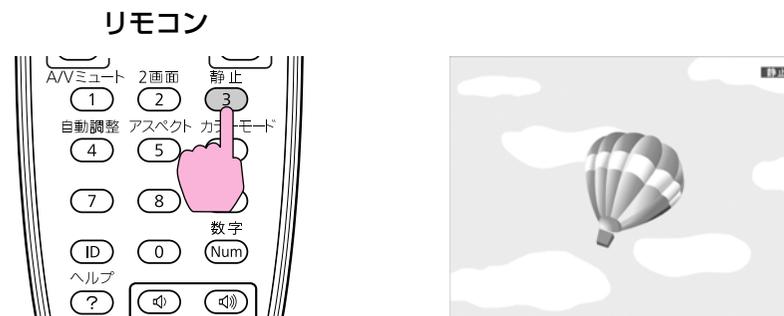


- 動画の場合は、A/Vミュート中も映像と音声は進んでいますので、消したときの場面からは再開できません。
- A/Vミュート中の表示状態を**拡張設定メニュー**の**A/Vミュート**で**黒**、**青**、**ロゴ**の中から選ぶことができます。👁️ p.57
- A/Vミュート中もランプは点灯していますので、ランプ点灯時間に累積されます。

映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

操作



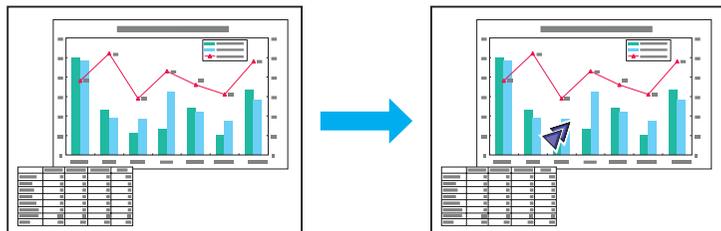
ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。



- 音声は停止しません。
- 動画の場合は、静止を実行している間も映像は進んでいますので、消したときの場面からは再開できません。
- 環境設定メニューやヘルプを表示中に[静止]ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。
- Eズーム実行中も、静止を行えます。

説明箇所を指し示す (ポインター)

ポインターで映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使います。



操作

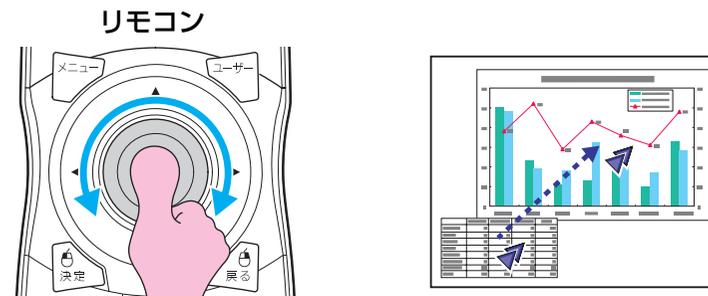
① ポインターを表示します。

リモコン



ボタンを押すたびに表示/非表示が切り替わります。

② ポインターアイコン(➤)を移動します。

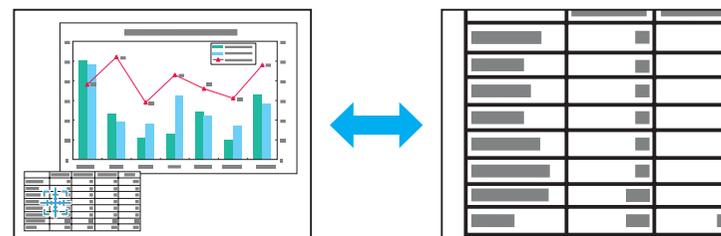


環境設定メニューの**設定メニュー** - **ポインター形状**でポインターアイコンの形状を3種類(➤・✕・➤)から設定できます。

🖱️ p.55

映像を部分的に拡大する (Eズーム)

グラフや表の細目などを拡大して見せたいときに便利です。



操作

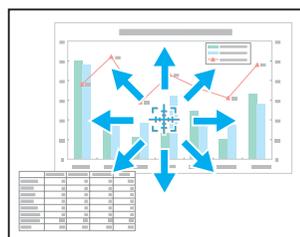
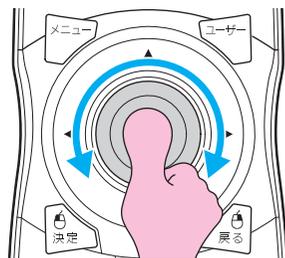
① Eズームを開始します。

リモコン



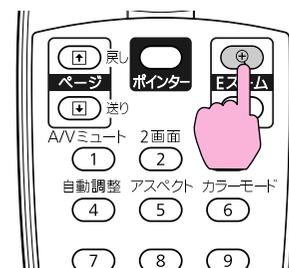
② 拡大表示したい部分にターゲットスコープ(📏)を移動させます。

リモコン



③ 拡大します。

リモコン



ボタンを押すたびに拡大されます。ボタンを押し続けると、すばやく拡大できます。

[Q]ボタンを押すと拡大した結果を縮小します。

解除するには[戻る]ボタンを押します。



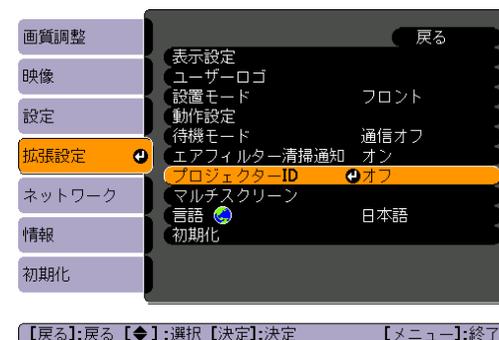
- 画面上に倍率が表示されます。1～4倍まで、25段階で拡大できます。
- 拡大後は[Q]ボタンで映像をスクロールできます。
- Eズームで拡大表示すると、プログレッシブ変換とノイズリダクションは一時的に解除されます。
- 台形補正や自動調整などの機能を使うとEズームは解除されます。

プロジェクターとリモコンにIDを設定するとIDが一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになり、本機を複数台並べて使用するとき便利です。

すべてのプロジェクターをリモコンで同時に操作するときは、リモコン側面のIDスイッチをOffにします。



- リモコンの操作範囲内にあるプロジェクターのみ、リモコンで操作できます。☞「リモコンの操作範囲」 p.17
- 環境設定メニューの動作設定でリモコン種類を簡単に設定しているときはリモコンIDは設定できません。 p.57
- プロジェクターIDがオフ、またはリモコンのIDが0のときは、IDは無効になります。



② IDとして使用する数字(1から9まで)を1つ選び、[決定]ボタンを押します。



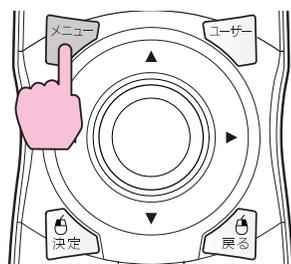
③ [メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

プロジェクターのIDを設定する

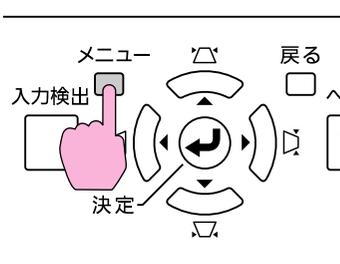
操作

① 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから拡張設定メニュー - 「プロジェクターID」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.50

リモコンの場合



操作パネルの場合

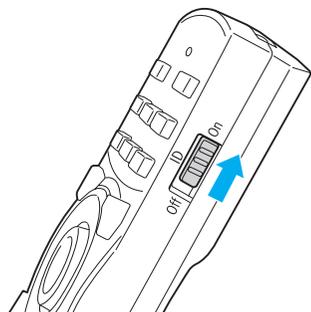


プロジェクターIDの確認方法

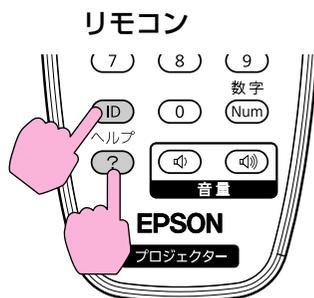
設定されているプロジェクターIDの確認は以下の操作で行います。

操作

- 1 リモコンのIDスイッチをOnに設定します。



- 2 本機で投写中に、[ID]ボタンを押したまま[ヘルプ]ボタンを押します。

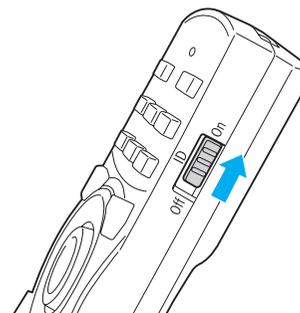


ボタンを押すと、投写画面上に現在のプロジェクターIDが表示されます。表示は約3秒で消えます。

リモコンのIDを設定する

操作

- 1 リモコンのIDスイッチをOnに設定します。



- 2 [ID]ボタンを押したまま、操作するプロジェクターのIDと同じ数字のボタンを押します。☞「プロジェクターIDの確認方法」p.37



設定が終了するとリモコンから操作できるプロジェクターが限定されます。



リモコンIDの設定はリモコンに記憶されます。記憶したID設定は、リモコンの電池交換などで、リモコンからいったん電池を外しても残ります。ただし、電池を取り外した状態で長期間放置すると初期値(ID0)に戻ります。

本機を複数台並べて投写するとき、各投写映像の明るさと色合いの違いを手動で補正することができます。

マルチスクリーンカラーアジャストメント機能は、各プロジェクターのカラーモードを同一にした状態でお使いください。

補正を行ってもそれぞれの映像の明るさと色合いは完全に一致しないこともあります。

補正手順の概要

複数台設置されているプロジェクターの中で補正が必要なプロジェクターに対して1台ずつ以下の操作を行い補正します。

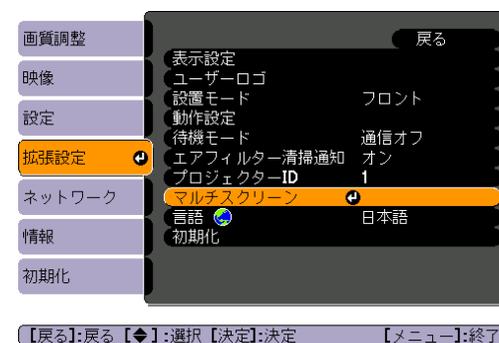
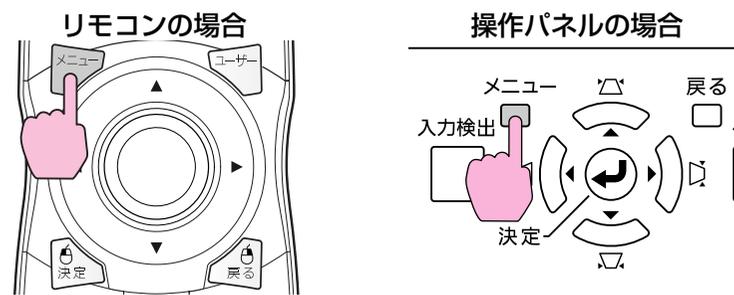
1. プロジェクターIDとリモコンIDを設定する
補正対象のプロジェクターに限定して操作できるように、対象となるプロジェクターにプロジェクターIDを設定し、リモコンIDも一致するように設定します。 p.37
2. 色差補正を行う
複数台を投写した状態で色差補正を行います。黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1～5と呼び、この5レベルすべてに対して次の2点の補正を行います。
 - 明るさの補正
映像の明るさが揃うように補正します。
 - 色の補正
映像の色味が合うように**色補正(緑-赤)**と**色補正(青-黄)**を補正します。

補正の方法

複数台を投写した状態でプロジェクターごとの明るさと色合いの差が縮まるように補正します。

操作

- 1 [メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから拡張設定メニュー - 「マルチスクリーン」を選びます。 「環境設定メニューの操作」 p.50



- 2 「調整レベル」で補正するレベルを選択します。



【戻る】:戻る [↩] :選択 [↔] :調整 【メニュー】:終了

- レベルを選択するたびに、選択したレベルのパターンが表示されます。
- どのレベルから調整を始めてもかまいませんが、通常は1から5あるいは5から1のように暗い順あるいは明るい順に補正します。

3 「明るさ補正」で明るさの補正をします。

- レベル5を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も暗い映像に合わせます。
- レベル1を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も明るい映像に合わせます。
- レベル2～4を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち中間の明るさの映像に合わせます。
- [決定]ボタンを押すたびにパターン表示/通常の映像表示が切り替わりますので、実際の映像で補正結果の確認や補正を行うこともできます。

4 「色補正(緑-赤)」と「色補正(青-黄)」を補正します。

[決定]ボタンを押すたびにパターン表示/通常の映像表示が切り替わりますので、実際の映像で補正結果の確認や補正を行うこともできます。

5 すべてのレベルを補正し終わるまで、手順3 ~ 5を繰り返し行います。

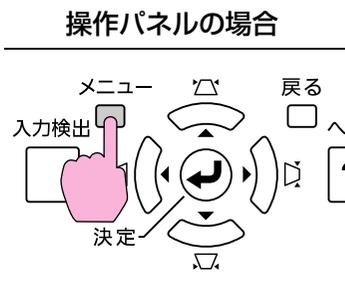
6 補正がすべて終了したら、[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。
登録したユーザーロゴは、映像信号が入力されていないときやAVミュート中の表示画面として使用することができます。

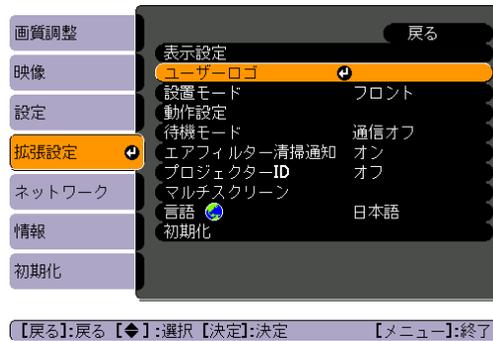
ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。

操作

1 ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、[メニュー]ボタンを押します。



2 環境設定メニューから拡張設定メニュー - 「ユーザーロゴ」を選びます。☛「環境設定メニューの操作」 p.50
使えるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。



• パスワードプロテクトでユーザーロゴ保護をオンに設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。ユーザーロゴ保護をオフにしてから操作してください。☛ p.44
• 台形補正、Eズーム、アスペクト、プログレッシブ変換を行っているときにユーザーロゴを選択すると、実行している機能は一時的に解除されます。

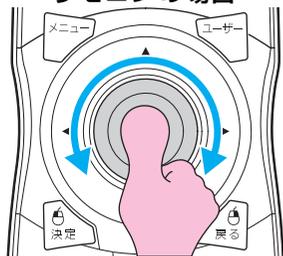
3 「現在投写されている映像の一部をユーザーロゴとして使いますか？」と表示されるので、「はい」を選択します。

リモコンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押すと、映像信号の実際の解像度に切り替わるため、信号によっては画面サイズが変わることがあります。

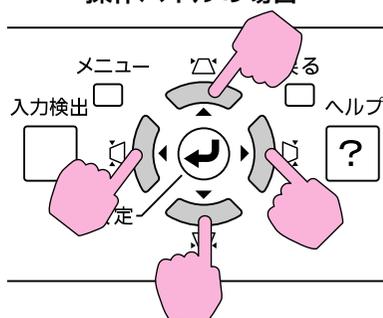
- 4 登録する映像と選択枠が表示されるので、ユーザーロゴとして使う位置を選択します。



リモコンの場合



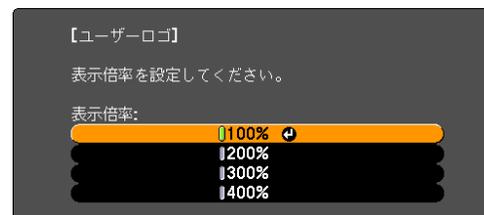
操作パネルの場合



登録できるサイズは400 × 300ドットです。

- 5 「この映像を使用しますか？」と表示されるので、「はい」を選択します。

- 6 表示倍率設定画面で倍率を選択します。



[戻る]:戻る [決定]:決定 [メニュー]:終了

- 7 「この映像を保存しますか？」とメッセージが表示されるので、「はい」を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザーロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



- 登録したユーザーロゴを表示画面として使用するには、**拡張設定メニューの表示設定**で設定します。 [p.57](#)
- ユーザーロゴの登録を実行すると、先に登録されているユーザーロゴは消去されます。
- 保存にはしばらく時間がかかります(約15秒)。保存している間は、本機や接続している機器を操作しないでください。故障の原因になります。

本機には、次の充実したセキュリティー機能が備わっています。

- **パスワードプロテクト**
本機を使用する人を制限・管理できます。
- **操作ボタンロック**
本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。
☞ p.46
- **盗難防止用ロック**
本機には機器そのものを持ち出されないように、多様な盗難防止の機構が備わっています。 ☞ p.47

利用者を管理する (パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の3種類の設定ができます。

1. 電源投入時

電源投入時をオンにすると、電源ケーブルで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーオンも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写は開始しません。

2. ユーザーロゴ保護

せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザーロゴを登録していても、ロゴ表示を変更されては意味がありません。**ユーザーロゴ保護**をオンにすると、ユーザーロゴに関する次の設定変更を禁止できます。

- ユーザーロゴのキャプチャ
- 環境設定メニューの**表示設定**で**背景表示**、**スタートアップスクリーン**、**AVミュートの設定変更**

3. ネットワーク保護

ネットワーク保護をオンにすると、環境設定メニューの**ネットワークメニュー**の設定変更を禁止できます。

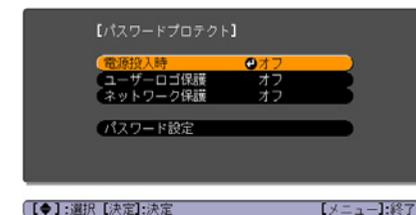
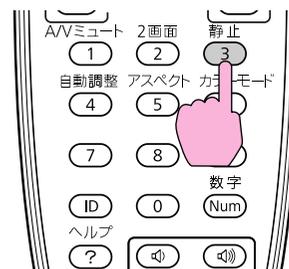
パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

操作

- 1 本機で投写中に**[静止]**ボタンを約**5秒間**押し続けます。パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

リモコン





- すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。☛ 「パスワードの認証」 p.45
- パスワード設定をしたときは、盗難防止の効果をさらに高めるために製品同梱のパスワードプロテクトシールを本機のお好きな位置に貼ってください。

2 「電源投入時」を有効にします。

- (1) 電源投入時を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

3 「ユーザーロゴ保護」を有効にします。

- (1) ユーザーロゴ保護を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

4 「ネットワーク保護」を有効にします。

- (1) ネットワーク保護を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

5 パスワードを設定します。

- (1) パスワード設定を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) 「パスワードを変更しますか?」と表示されるので、はいを選択し、[決定]ボタンを押します。初期設定でパスワードは0000に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。いいえを選択すると、手順1の画面に戻ります。
- (3) [数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。

リモコン



- (4) 入力したパスワードを再度入力します。「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら設定してあるパスワードをリモコンの数字ボタンを使って入力します。

操作

[数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。

正しいパスワードを入力し終わると投写が開始されます。

注意

- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報+正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報+正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- 間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「**プロジェクターの動作を停止します。**」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- 万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている「問い合わせコード: xxxxx」の番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。☎『**お問い合わせ先**』
- 上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「**プロジェクターの動作を停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。**」☎『**お問い合わせ先**』

操作を制限する(操作ボタンロック)

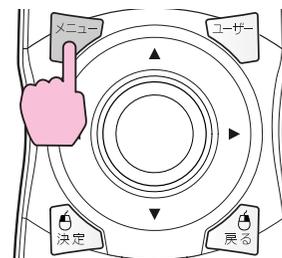
次のどちらかを選んで本機の実操作パネルのボタンをロックできます。操作ボタンロックを行ってもリモコンからは通常どおりに操作できます。

- 全ロック
操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。
- 操作ロック
操作パネルの[⏻]ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

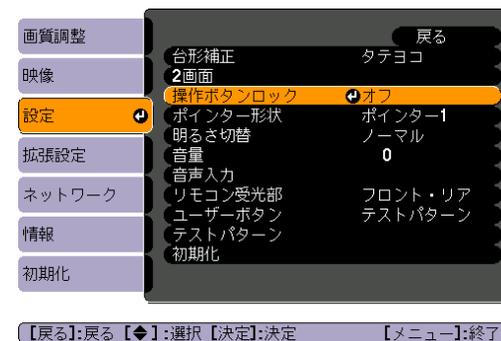
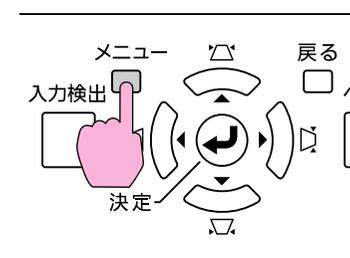
1

本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから設定メニュー - 「操作ボタンロック」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.50

リモコンの場合



操作パネルの場合



2

目的に応じて、「全ロック」または「操作ロック」を選択します。



3

確認のメッセージが表示されるので、「はい」を選択します。設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。



操作パネルのボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。

- リモコンを使って、環境設定メニューの**設定メニュー - 操作ボタンロックをオフ**に設定します。  p.55
- 操作パネルの**決定**ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

盗難防止用ロック

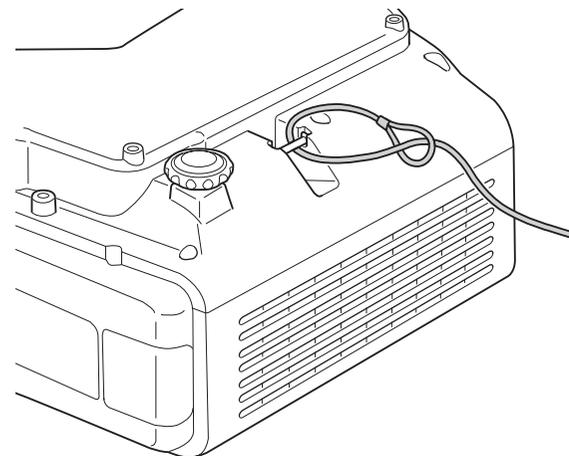
本機は無人になる部屋に天吊りなど固定設置されることが多いため、機器そのものを持ち出されないように次の機構があります。

- セキュリティスロット
Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティスロットです。マイクロサーバーセキュリティシステムの詳細は、Kensington のホームページ <http://www.kensington.com/>でご確認ください。
- セキュリティーケーブル取付け部
市販の盗難防止用ワイヤロックなどを通して、机や柱などに固定できます。
- レンズユニット取り外しボタン固定ネジ
同梱のネジで投写レンズがすぐに取り外せないようにレンズユニット取り外しボタンを固定できます。

ワイヤロックの取り付け方

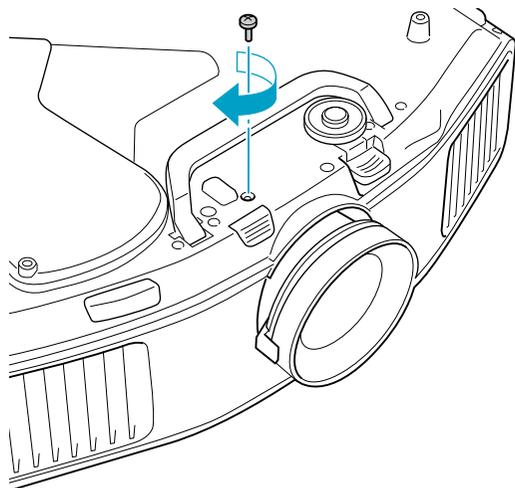
セキュリティケーブル取付け部に盗難防止用ワイヤロックのワイヤを通します。

ワイヤロックの施錠方法は、ワイヤロックに添付の『取扱説明書』をご覧ください。



投写レンズの盗難防止

本機の投写レンズはバヨネット式で簡単・手軽に交換ができます。盗難が心配な場合は、同梱のネジで固定しておくこととすぐに取り外せないため盗難防止に役立ちます。





環境設定メニュー

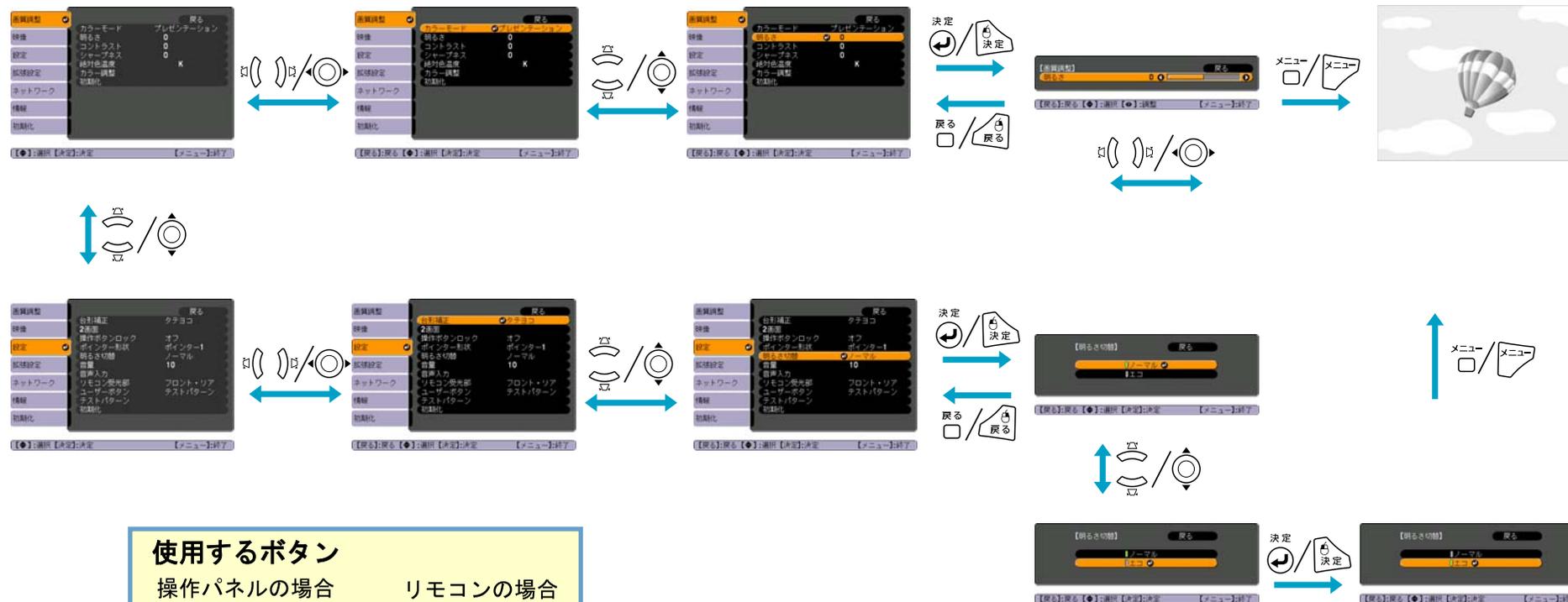
ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

1 トップメニューの選択

2 サブメニューの選択

3 各項目の設定

4 終了



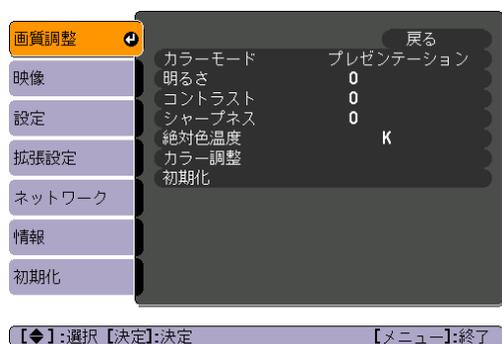
使用するボタン

操作パネルの場合

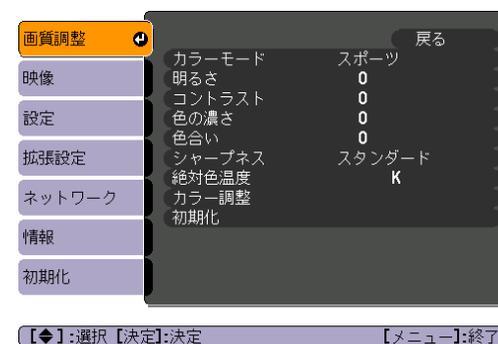
リモコンの場合

現在投写している映像信号や入力ソースにより、設定できる項目が以下の画面図のとおり異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

RGB信号/USB/LAN



コンポーネントビデオ信号▶▶ / コンポジットビデオ信号▶▶/S-ビデオ信号▶▶



サブメニュー	機能
カラーモード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。  p.29
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト▶▶	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い※1	映像の色合いを調整します。
シャープネス	<p>スタンダード：映像のシャープ感を調整します。より細部の調整は、アドバンストを選択して行います。</p> <p>アドバンスト※2：以下の4項目で設定を行います。</p> <p>高域強調：+側に設定すると、髪の毛や衣服の模様などの細かい部分が強調されます。</p> <p>低域強調：+側に設定すると、被写体全体の輪郭や背景などの粗い部分が強調され、くっきりとした映像になります。</p> <p>水平シャープネス：+側に設定すると、水平方向で画像を強調します。</p> <p>垂直シャープネス：+側に設定すると、垂直方向で画像を強調します。</p>
絶対色温度※3	映像全体の色合いを調整します。5000K～10000Kの10段階で調整することができます。高い値を選択すると青みがかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。
カラー調整	<p>以下のどちらかを選んで調整できます。</p> <p>赤、緑、青※4：各色の強さを個別に調整します。</p> <p>R、G、B、C、M、Y：R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンダ)、Y(イエロー)ごとに色相、彩度、明度を調整します。(カラーモードをカスタムに設定しているときだけ、本項目は設定できます。)</p>

サブメニュー	機能
初期化	画質調整メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.74

※1 コンポジットビデオ信号、S-ビデオ信号入力時は、NTSC系の信号入力時のみ設定可能。

※2 RGB信号入力時と、入力ソースが**USB/LAN**のときは設定不可。

※3 カラーモードを**sRGB**に設定しているときは設定不可。

※4 カラーモードを**sRGB**、**カスタム**に設定しているときは設定不可。

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が以下の画面図のとおり異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。
 入力ソースがUSB/LANのときは映像メニューの設定は行えません。

RGB信号

コンポーネントビデオ信号▶▶

**コンポジットビデオ信号▶▶/S-ビデオ信
号▶▶**

DVI-D/HDMI

【◀▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了
【▶▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了
【▶▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了
【▶▶】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

サブメニュー	機能
自動調整	入力信号が切り替わったときに、映像を最適な状態に自動調整する(オン)/しない(オフ)を設定します。
入力解像度	オート ：入力信号の解像度を自動で判別します。 ワイド、ノーマル ：オートに設定していて投写映像が欠けるときに設定します。接続しているコンピューターに応じて、ワイド画面はワイドに、4:3や5:4画面はノーマルに設定します。 マニュアル ：特定の入力解像度に設定できます。接続するコンピューターが固定のときに適しています。
トラッキング▶▶	映像に縦の縞模様が出るときに調整します。
同期▶▶	映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。
プログレッシブ変換 ※1※2※4	オフ ：IP変換を各フィールドの画面内で行います。動きの大きい映像をお楽しみいただくときに適しています。 ビデオ ：一般のビデオ映像に適しています。 フィルム/オート ：2-3プルダウンを行うことにより、映画フィルムやCG、アニメーション映像などの24/30フレームで記録された映像を最適なプログレッシブ信号に自動変換することで、映像が本来持っている自然な質感を再現します。
ノイズリダクション※2	映像のざらつきを抑えます。モードを2つ用意しています。お好みの設定でご覧ください。DVDなど映像ソースにノイズが少ないときは オフ に設定してご覧ください。

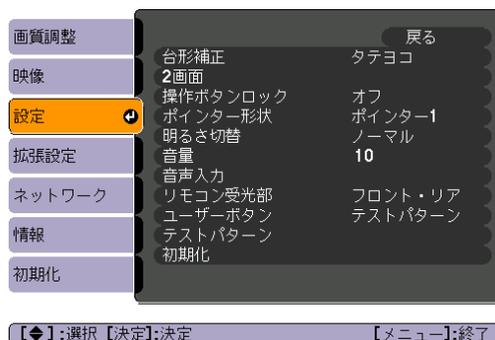
サブメニュー	機能
DVI/HDMIビデオレベル	本機のDVI-D入力端子、またはHDMI入力端子とDVDプレーヤーなどを接続しているときに、DVDプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定します。入力ソースが HDMI のときは、 オート ※3に設定すると、入力信号のビデオレベルを自動判別し設定します。 オート に設定して映像に黒つぶれや白とびが生じるときは、DVDプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定してください。DVDプレーヤー側の設定では、Normal(通常)、Expand(拡張)となっていることがあります。
入力信号方式	コンピューター1入力端子、BNC入力端子からの入力信号を選択します。 オート にすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を判別します。 オート に設定して色が正しく表示されないときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。
ビデオ信号方式	ビデオ1入力端子、ビデオ2入力端子、S-ビデオ入力端子からの入力信号を選択します。 オート にすると、ビデオ信号を自動認識します。 オート に設定して、映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きるときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。
アスペクト	映像の アスペクト比 ▶を設定します。  p.27
オーバースキャン※2	出画率(投写する映像の範囲)を変更します。トリミングする範囲の設定を、 オフ 、 4% 、 8% のいずれかに変更できます。入力ソースが HDMI のときは オート ※3が選択できるようになります。 オート を選択すると入力信号に応じて自動的に オフ あるいは 8% に切り替わります。
2-2プルダウン※2	1080p/24Hz信号が入力されているときのみ設定可能です。 オン に設定すると、映画などの毎秒24フレームで記録された映像を、フレーム補間せずに投写します。映像が本来持っている自然な質感を再現します。
初期化	映像メニュー のうち、 入力信号方式 を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.74

※1 コンポーネントビデオ信号、RGBビデオ信号入力時は、480i/576i/1080i 信号のみ設定可能。

※2 デジタルRGB信号入力時は設定不可。

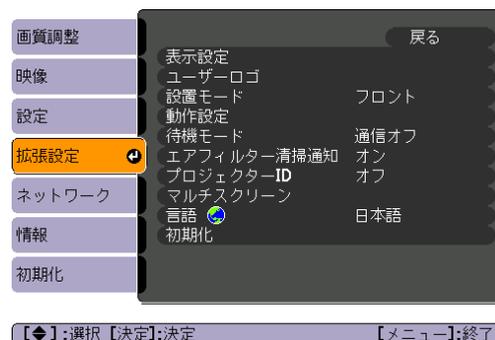
※3 接続機器のHDMI出力と本機のHDMI入力端子を接続しているときのみ設定可能。

※4 1080i信号入力時にアスペクトモードを**フル**に設定しているときは設定不可。



サブメニュー	機能
台形補正	台形にゆがんだ画面を補正します。 タテヨコ：縦・横方向のゆがみ補正を行います。タテ補正、ヨコ補正から選択します。  p.23 タテ補正、ヨコ補正は操作パネルの[▽/▲][□/▼][⏪/⏩][⏴/⏵]ボタンで補正するのと同様の補正ができます。 Quick Corner：投写映像の4つの角を選んで補正します。  p.21
2画面	2画面で投写します。  p.30
操作ボタンロック	本機操作パネルの操作制限を設定します。  p.46
ポインター形状	ポインターの形状を選択します。  p.34 ポインター1：  ポインター2：  ポインター3： 
明るさ切替	ランプの明るさをノーマル、エコの2段階で切り替えることができます。 暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎる時はエコに設定します。エコで使用すると、投写中の消費電力、ランプ寿命が次のように変わり、ファン回転音も低下します。消費電力：約16%減、ランプ寿命：約1.5倍
音量	音量を調整します。設定した内容は入力ソースとその映像信号ごとに保持されます。
音声入力	LAN音声入力 ：ネットワークを介して本機と接続しているコンピューターの映像を投写するときは、ここで選択した端子からの音声 が本機から出力されます。コンピューターの音声を本機に転送して出力するときは、 LAN に設定します。
リモコン受光部	リモコンからの操作信号の受信を制限します。 リモコンでの操作を禁止したいときやリモコン受光部の近くに蛍光灯が設置されていて、その影響でリモコンが誤動作してしまうときに影響を受けている受光部を使わないように設定できます。 リモコンまたは操作パネルの[メニュー]ボタンを15秒間押し続けると、初期設定に戻ります。

サブメニュー	機能
ユーザーボタン	リモコンの[ユーザー]ボタンに割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。[ユーザー]ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。[ユーザー]ボタンに割り当てることができるのは以下の項目です。 明るさ切替、情報、プログレッシブ変換、テストパターン、マルチスクリーン、入力解像度
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。  p.19
初期化	設定メニューのうち ユーザーボタン を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.74



サブメニュー	機能
表示設定	<p>本機の表示に関する設定を行います。</p> <p>メッセージ表示：オフに設定すると、次の表示がされなくなります。 入力ソースやカラーモード、アスペクトの切り替えと静止実行時の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告など警告表示。</p> <p>背景表示※1：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を黒、青、ロゴのいずれかで設定します。</p> <p>スタートアップスクリーン※1：投写開始時にユーザーロゴを表示するときはオンに設定します。</p> <p>A/Vミュート※1：A/Vミュート時に表示する画面を黒、青、ロゴのいずれかで設定します。</p> <p>メニューサイズ：環境設定メニューやヘルプ、その他のメッセージ表示のサイズを標準/拡大からお好みで選択できます。</p>
ユーザーロゴ※1	背景表示、スタートアップスクリーン表示時に表示するユーザーロゴを変更します。  p.42
設定モード	本機の設置状態に合わせて設定します。  p.121

サブメニュー	機能
動作設定	<p>ダイレクトパワーオン：ダイレクトパワーオンさせる(オン)/させない(オフ)を設定します。 オンに設定しているときは、停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると本機の電源がオンになりますので、注意してください。</p> <p>スリープモード：オンに設定すると、映像信号が未入力のまま、なにも操作しないときに自動で電源を切ります。</p> <p>スリープモード時間：スリープモードをオンにしたときに自動で電源を切るまでの時間を1～30分の範囲を1分単位で設定します。</p> <p>高地モード：標高約1500m以上でお使いの場合はオンにします。</p> <p>BNC同期終端：BNC入力端子からの信号の終端処理を設定します。通常はオフで使用します。スイッチャーなど、アナログ(75Ω) 終端が必要なときはオンに設定します。</p> <p>リモコン種類：本機を操作するリモコンの種類を標準/簡単から選択できます。 本製品に同梱のリモコンで操作するときは標準に設定します。簡単に切り替えると、他のエプソンプロジェクターに添付のリモコンで本機を操作できます。これまで使い慣れているリモコンを共用したいときに便利です。(EB-G5xxxシリーズ、EB-Z80xxシリーズに添付のリモコンをお使いになるときは、標準に設定してください。) ただし、簡単に切り替えた以降は本製品に同梱のリモコンで操作することができなくなります。本機を天吊り設置しているときなどは標準に戻す操作が困難なこともありますので、よくご確認いただいてから切り替えてください。また、本機やお使いのリモコンに搭載されていない機能はご利用になれません。</p> <p>方向ボタン反転：天吊り使用時は、オンに設定します。  p.121</p>
待機モード	<p>本機がスタンバイ状態のときも、ネットワーク経由で本機の状態を監視・制御する機能を働かせるときは、通信オンに設定します。</p>
エアフィルター清掃通知	<p>エアフィルターの清掃通知をする(オン)/しない(オフ)を設定します。オンに設定していると、エアフィルターの詰まりを感知した場合にメッセージを表示します。</p>
プロジェクターID	<p>1～9までのIDを設定します。オフはIDを設定していない状態です。  p.37</p>
マルチスクリーン	<p>本機を2台以上並べて投写した際の各映像の色合いや明るさの差を補正できます。  p.40</p> <p>調整レベル：黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1～5と呼び、この5レベルすべてに対して明るさ補正と色補正を行います。</p> <p>明るさ補正：製品ごとの明るさのばらつきを補正します。</p> <p>色補正(緑-赤)/色補正(青-黄)：製品ごとの色のばらつきを補正します。</p>
言語	<p>メッセージやメニューに表示する言語を設定します。</p>
初期化	<p>拡張設定メニューのうち、表示設定※2、動作設定※3、エアフィルター清掃通知の調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.74</p>

※1 パスワードプロテクトの**ユーザーロゴ保護**を**オン**にしていると、ユーザーロゴに関する設定の変更はできません。**ユーザーロゴ保護**を**オフ**にしてから設定を変更してください。  p.42

※2 ユーザーロゴに関する設定を除く

※3 方向ボタン反転、高地モード、リモコン種類は除く。

パスワードプロテクトでネットワーク保護をオンに設定していると、メッセージが表示され設定を変更することはできません。ネットワーク保護をオフにしてから操作してください。 [p.44](#)



サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 無線LAN ネットワーク情報 - 有線LAN	各ネットワークの設定情報が表示されます。
ネットワーク設定画面へ	ネットワークの設定を行う画面を表示します。 p.60



本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザーを利用して、コンピューターから本機の設定や制御が行えます。この機能を「Web制御」と呼びます。「Web制御」はキーボードを使って設定内容を入力できるので、セキュリティーの設定など文字の入力を伴う設定も容易に行えます。 [p.102](#)

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニューやサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず**設定完了**メニューを選択して、**はい**、**いいえ**、**キャンセル**のいずれかを選択します。**はい**あるいは**いいえ**を選択すると、環境設定メニューに戻ります。



- はい：** 設定を保存してネットワークメニューを終了します。
- いいえ：** 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。
- キャンセル：** ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。リモコンの[◉]ボタンまたは操作パネルの[▽/▲]、[◁/▼]、[◂/◀]、[▸/▶]ボタン、で目的のキーにカーソルを移動し、[決定]ボタンを押して入力しま

す。数字は、リモコンの[数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの[Finish]を選択すると入力が確定します。キーボードの[Cancel]を選択すると入力は取り消されます。



- [CAPS]を選択し[決定]ボタンを押すたびに、アルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- [SYM1/2]を選択し[決定]ボタンを押すたびに、枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

基本設定メニュー



サブメニュー	機能
プロジェクト名	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示しています。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。
PJLinkパスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。  p.108 半角英数字で最大32文字まで入力できます。
Web制御パスワード	Web制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で最大8文字まで入力できます。Web制御はネットワークで接続しているコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターから本機を設定・制御する機能です。  p.102
プロジェクトキーワード	オンに設定していると、本機とコンピューターをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これにより予定外のコンピューターからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常はオンに設定してお使いください。

無線LANメニュー

本機とコンピューターを無線LANで接続するときは、無線LANユニット(ELPAP03)を本機に取り付けてください。  [p.130](#)



サブメニュー	機能
無線LAN電源	本機とコンピューターを無線LANで接続して使用するときは オン に設定します。無線LANで接続しないときは、 オフ に設定しておく と他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。
接続モード	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを設定します。 アドホックモード ▶▶で接続するときには かんたんモード 、 インフラストラクチャーモード ▶▶で接続するときには マニュアルモード に設定します。EasyMP Multi PC Projectionで本機とコンピュー ターを接続するときには、 マニュアルモード に設定してください。
Wi-Fi Protected Setup	WPS(Wi-Fi Protected Setup) ▶▶対応の無線LANアクセスポイントを経由してネットワークに参加するとき、本機とアクセスポイント間の 接続とセキュリティの設定を簡単に行うことができます。  p.115
チャンネル設定	かんたんモードで接続するときには、802.11b/g方式で使用するチャンネルを選択できます。他の電波の干渉を受けるときは、別のチャ ンネルに設定してください。
無線LAN方式	無線LAN方式を設定します。マニュアルモードで接続するときには、 オート に設定するとお使いの環境に準拠した方式を自動的に選択 します。 802.11aに対応していない地域では、 802.11b/g のみ表示されます。
自動SSID設定	かんたんモードで接続するときには、 オン に設定すると複数のプロジェクターの中からより早く本機を検索することができ、接続性が 安定します。SSIDが自動的に生成されますので、以降のアドレスの設定はできなくなります。 1台のコンピューターから複数のプロジェクターに接続するときには オフ に設定してください。
SSID	SSIDを入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。

サブメニュー	機能
DHCP	DHCP▶▶を使用する(オン)/しない(オフ)を設定します ここで オン に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。
IPアドレス	本機に割り当てるIPアドレス▶▶を入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
サブネットマスク	本機のサブネットマスク▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255
ゲートウェイアドレス	本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶▶は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
MACアドレス	MACアドレスを表示しています。
SSID表示	LAN待機画面上にSSIDを表示させないときは、 オフ に設定します。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、 オフ に設定します。

セキュリティーメニュー (オプション品の無線LANユニット装着時に有効)

無線LANユニットを装着してマニュアルモードでお使いの際は、必ずセキュリティーの設定を行うことをお奨めします。



サブメニュー	機能
セキュリティー	<p>設定するセキュリティーの種類を1つ選択します。</p> <p>セキュリティーの設定は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従ってください。</p> <p>本機で使用できるセキュリティーの種類は以下のとおりです。</p> <p>WEP：暗号キー(WEPキー)を使ってデータの暗号化を行います。</p> <p>アクセスポイントとプロジェクター間で、暗号キーが一致しないと通信できない仕組みです。</p> <p>WPA/WPA2：WEPの弱点を補強しセキュリティー強度を向上させた暗号化規格です。WPAには数種類の暗号化方式がありますが、本機では「TKIP」と「AES」を使用します。</p> <p>また、WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。</p> <p>EAP：EAPは、クライアント-認証サーバー間のやりとりに用いられるプロトコルです。ユーザー認証に電子証明書を用いるEAP-TLS、ユーザー名とパスワードを用いるLEAP、EAP-TTLSなどがあります。</p>



EAPを使用する場合、認証サーバーに合わせた設定をプロジェクターで行う必要があります。RADIUSサーバーの設定については、ネットワークシステムの管理者にご確認ください。

WEP選択時



サブメニュー	機能
WEP暗号	WEP暗号化の暗号方式を設定します。 128Bit ：128(104)bit暗号化を使用します。 64Bit ：64(40)bit暗号化を使用します。
入力方式	WEP暗号キーの入力方式を設定します。 ASCII ：テキストで入力します。 HEX ：HEX(16進)で入力します。
キーID	WEP暗号IDキーを選択します。
暗号キー1/暗号キー2/暗号キー3/暗号キー4	WEP暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを半角文字で入力します。 WEP暗号 と 入力方式 の設定により、入力できる文字種・数が異なります。 下記でそれぞれ規制している文字数に満たなかったとき、あるいは文字数を超える部分は暗号化されません。 128Bit-ASCII の場合：半角英数字、13文字 64Bit-ASCII の場合：半角英数字、5文字 128Bit-HEX の場合：0～9とA～F、26文字 64Bit-HEX の場合：0～9とA～F、10文字
認証方式	WEP暗号化の認証方式を設定します。 Open ：アクセスポイントに接続する際に特に認証を行わずに接続する方式です。 Shared ：WEPキーを利用した認証方式です。

WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)選択時



サブメニュー	機能
PSK(暗号キー)	<p>PreSharedKey(暗号キー)を半角英数字で入力します。8文字以上、最大63文字まで入力できます。PreSharedKeyを入力し、[決定]ボタンで確定すると、設定値はアスタリスク(*)で表示されます。</p> <p>環境設定メニューでは32文字を超える入力はできません。32文字を超える設定をしたいときはWeb制御から入力します。</p> <p> p.102</p>

EAP-TLS選択時

認証用の電子証明書をプロジェクターに登録する方法は、次を参照してください。👉 [『PC Free操作ガイド』「電子証明書をプロジェクターに登録する」](#)



サブメニュー	機能
発行先/発行者/有効期間	証明書の情報が表示されます。入力はできません。

EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-Fast/GTC選択時



サブメニュー	機能
ユーザー名	認証に使用するユーザー名を半角英数字で入力します(スペースは使用できません)。最大64文字まで入力できます。 環境設定メニューでは32文字を超える入力是不可能です。32文字を超える設定をしたいときはWeb制御から入力します。 🖱️ p.102
パスワード	認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。最大64文字まで入力できます。パスワードを入力し、[決定]ボタンで確定すると、パスワードはアスタリスク(*)で表示されます。 環境設定メニューでは32文字を超える入力是不可能です。32文字を超える設定をしたいときはWeb制御から入力します。 🖱️ p.102

有線LANメニュー



サブメニュー	機能
DHCP	DHCP▶▶を使用する(オン)/しない(オフ)を設定します。 ここでオンに設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。
IPアドレス	本機に割り当てるIPアドレス▶▶を入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
サブネットマスク	本機のサブネットマスク▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255
ゲートウェイアドレス	本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶▶は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
MACアドレス	MACアドレスを表示しています。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、オフに設定します。

メールメニュー

プロジェクターが異常／警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。👉「異常通知メールの見方」 p.104



サブメニュー	機能
メール通知機能	メール通知を行う(オン)/行わない(オフ)を選択します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス▶を入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1～65535までの有効な数値を入力できます。
メールアドレス1/メールアドレス2/メールアドレス3	通知メールの送信先のメールアドレスを入力します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大64文字まで入力できます。環境設定メニューでは32文字を超える入力はできません。32文字を超える設定をしたいときはWeb制御から入力します。 👉 p.102
通知イベントの指定	メールで通知する本機の異常/警告を選択します。選択した異常/警告が本機で起きたときに、メールアドレスで指定したメールアドレスに異常/警告が発生したことを通知します。表示されている項目より、複数選択できます。

その他メニュー



サブメニュー	機能
SNMP	SNMP▶▶を使ってプロジェクターを監視するときは オン に設定します。 SNMPを使ってプロジェクターを監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。
トラップIPアドレス1/トラップIPアドレス2	SNMPをオン に設定したときは、SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。 ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
優先ゲートウェイ	優先ゲートウェイを 有線/無線 のどちらにするか選択します。
AMX Device Discovery	本機をネットワークに接続しているとき、 AMX Device Discovery▶▶ による本機の検出を有効にしたいときは オン に設定します。AMX社のコントローラーやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、 オフ に設定してください。
RoomView	Crestron RoomView®を使用して、ネットワーク経由で本機の監視・制御を行うときのみ オン に設定します。通常は オフ に設定してください。👁️「Crestron RoomView®について」 p.109 設定の変更は、本機を再起動したときに有効になります。 オン に設定したときは、以下の機能はご利用になれません。 <ul style="list-style-type: none"> • Web制御 • Message Broadcasting (EasyMP Monitorのプラグイン)

初期化メニュー

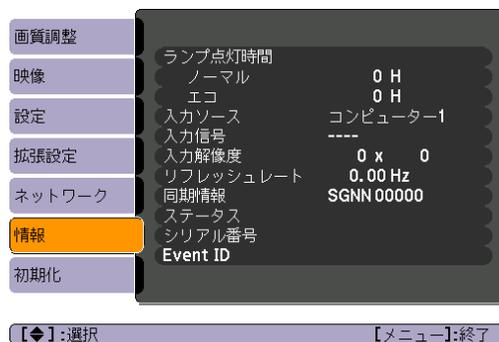
ネットワークの設定をすべて初期化します。



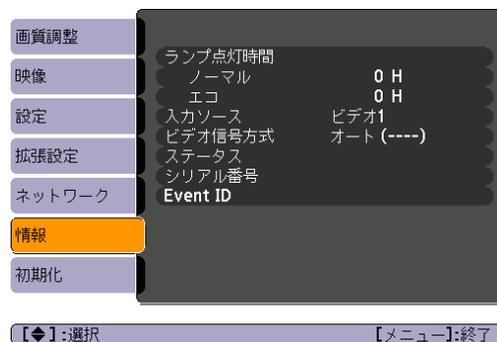
サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときには はい を選択します。初期化した後は、 基本設定 メニューに移行します。

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している映像信号や入力ソースにより表示される項目が以下の画面図のとおり異なります。

RGB信号/コンポーネントビデオ▶▶信号



コンポジットビデオ▶▶信号/S-ビデオ▶▶信号

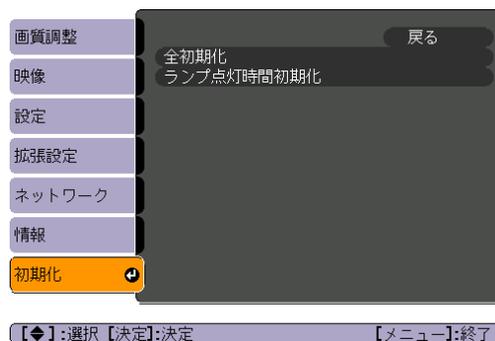


USB/LAN



サブメニュー	機能
ランプ点灯時間	ランプの累積使用時間※1を表示しています。 ランプ寿命警告時間に達すると、文字が黄色に変わります。
入力ソース	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示しています。
入力信号	映像メニューの入力信号方式 の設定内容を入力ソースに応じて表示しています。
入力解像度	入力解像度を表示しています。
ビデオ信号方式	映像メニューのビデオ信号方式 の設定内容を表示しています。
リフレッシュレート	リフレッシュレート▶▶ を表示しています。
同期情報	映像信号の情報を表示しています。 お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
ステータス	本機に発生した異常についての情報です。 お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。
Event ID	ネットワークを介して本機とコンピューターを接続しているときにトラブルが生じると、トラブルの内容が番号(Event ID)で表示されます。Event IDの見方は、次を参照してください。 p.89

※1 累積使用時間が0～10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。



サブメニュー	機能
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 パスワードに関する項目、入力信号方式、ユーザーロゴ、マルチスクリーン、ネットワークメニューの全項目、ランプ点灯時間、言語は初期値に戻りません。
ランプ点灯時間初期化	ランプ点灯時間の累積をクリアし、「0H」に戻します。ランプを交換したときに行ってください。



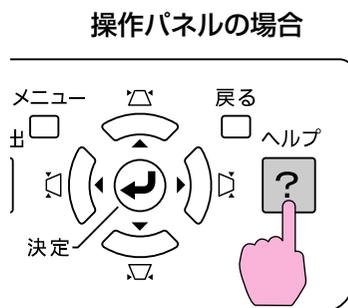
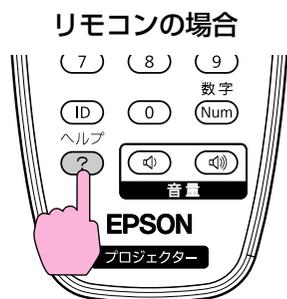
困ったときに

ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

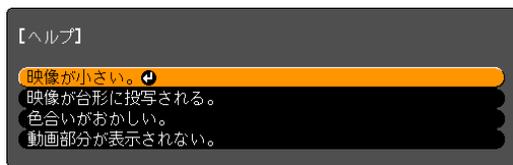
トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

操作

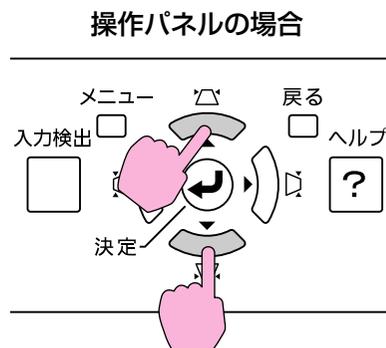
- 1 [ヘルプ]ボタンを押します。
ヘルプ画面が表示されます。



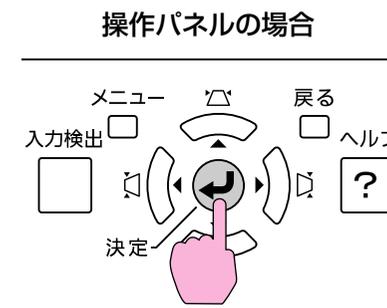
- 2 項目を選択します。



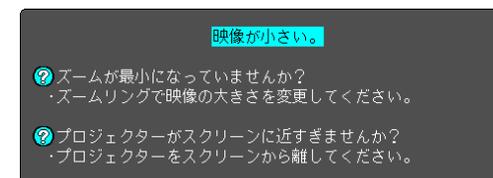
【↔】:選択 【決定】:決定 【ヘルプ】:終了



- 3 項目を決定します。



以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
[ヘルプ]ボタンを押すとヘルプは解除されます。



【戻る】:戻る 【ヘルプ】:終了

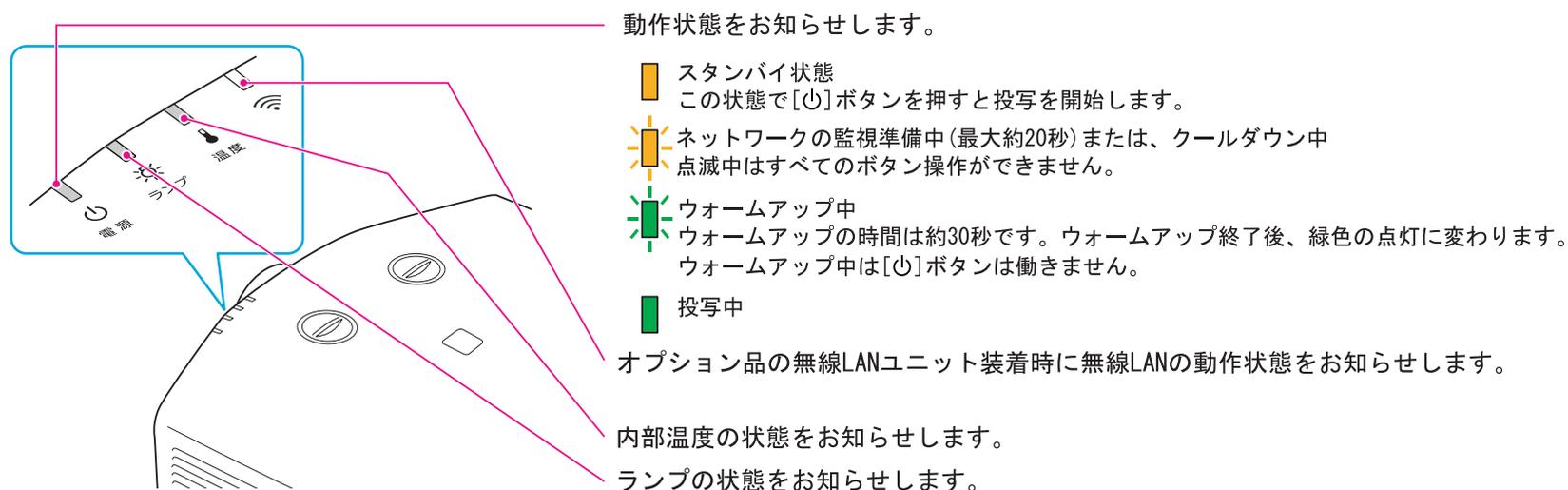


ヘルプ機能を使ってもわからないときは、「故障かなと思ったら」p.77をご覧ください。

故障かな?と思ったら、まず本機のインジケータをご覧になり下記の「インジケータの見方」で本機の状態をご確認ください。
インジケータをご覧になってもわからないときは、「インジケータを見てもわからないとき」を確認してください。  p.81

インジケータの見方

次の各インジケータが本機の状態をお知らせします。



インジケータの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

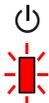
インジケータがすべて消灯している場合は、電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。

電源ケーブルを抜いてもインジケータがしばらく点灯したままになることがあります。故障ではありません。

④ インジケーターが赤色点灯/点滅時

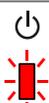
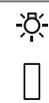
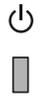
■ : 点灯 ■■■ : 点滅 □ : 消灯

状態	原因	処置または状態
     	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』
     	ファン異常 センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』
     	内部高温異常 (オーバーヒート)	<p>ランプが自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。☛ p.91, p.97 <p>上記を確認後もエラーになるときはご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』</p> <p>標高1500m以上の場所でお使いのときは、高地モードをオンにしてください。☛ p.57</p>
	エアフィルター風量低下異常	<p>次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。☛ p.91, p.97 <p>上記を確認後もエラーになるときはご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』</p>
     	ランプ異常 ランプ点灯失敗 ランプカバー開放状態	<p>次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ランプを取り出してランプが割れていないか確認します。☛ p.94 エアフィルターを掃除します。☛ p.91 <p>割れていないとき : ランプを再セットして、電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき : 新しいランプに交換してから電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき : ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』</p> <p>割れているとき : お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください(ランプを交換しないと映像を投写することはできません)。☛『お問い合わせ先』</p> <p>標高1500m以上の場所でお使いのときは、高地モードをオンにしてください。☛ p.57</p>

状態	原因	処置または状態
		ランプカバーやランプが確実に取り付けられているか確認してください。☞ p.94 ランプカバーとランプの取り付けが不完全なときはランプが点灯しません。
  	電源系異常(バラスト)	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☞ 『お問い合わせ先』

インジケータが点滅/点灯時

 : 点灯
  : 点滅
  : 消灯
  : 本機の状態により異なる場合

状態	原因	処置または状態
  	高温警告	(異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。) <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。☞ p.91, p.97
  	ランプ交換勧告	新しいランプに交換してください。☞ p.94 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。
  	エアフィルター風量低下	(異常ではありません。ただし、さらに風量低下の状態になると投写を自動停止します。) 「エアフィルターが目詰まりしています。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。以下の2点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。☞ p.91, p.97 エアフィルターを掃除しても頻繁にエアフィルター風量低下の状態になるときは新しいエアフィルターに交換してください。☞ p.97 上記を確認後もエラーになるときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☞ 『お問い合わせ先』
  	エアフィルター清掃通知	「エアフィルターの清掃時期です。エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」とメッセージも表示されます。エアフィルターの掃除をしてください。☞ p.91 エアフィルターがタバコのヤニなどで茶色く変色しているときは掃除をしてもきれいになりませんので、新しいエアフィルターに交換してください。 エアフィルター清掃通知のインジケータやメッセージは、環境設定メニューの 拡張設定メニュー - エアフィルター清掃通知 をオンに設定しているときに限り表示されます。☞ p.57



- インジケータは異常を示してないのに、投写映像が異常のときは、「インジケータを見てもわからないとき」をご覧ください。☞ p.81
- 各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☞ 『お問い合わせ先』

インジケータを見てもわからないとき

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

- 「映像が表示されない」👉 p.82
投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になるなど...
- 「動画が表示されない(動画の部分だけが黒くなる)」👉 p.82
コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない。
- 「自動的に投写が消える」👉 p.82
- 「「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される」👉 p.83
- 「「映像信号が入力されていません。」と表示される」👉 p.83
- 「ぼやける、ピントが合わない」👉 p.83
- 「ノイズが入る、乱れる」👉 p.84
ノイズが入る・乱れる・市松模様のようにモノクロのチェックになるなど...
- 「映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない」👉 p.84
映像の一部しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくないなど...
- 「色合いが違う」👉 p.85
全体が赤紫がかっている・緑色がかっている・モノクロになる・色がくすむなど... (コンピューターのモニターや液晶画面とは色の再現性が異なるため、プロジェクターでの投写映像とモニターでの表示の色合いは必ずしも一致しませんが、異常ではありません。)
- 「暗い」👉 p.85

投写開始時のトラブル

- 「電源が入らない」👉 p.86

その他のトラブル

- 「音が出ない・小さすぎる」👉 p.87
- 「リモコンで操作できない」👉 p.87
- 「外部モニターに表示されない」👉 p.88
- 「メッセージやメニューの言語を変更したい」👉 p.88
- 「プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない」👉 p.88

Event IDの見方

- 👉 p.89

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
[ON]ボタンを押しましたか？	[ON]ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。本機に電源ケーブルを正しく接続してください。☛『 セットアップガイド 』 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
AVミュートの状態になっていませんか？	リモコンの[AVミュート]ボタンを押してAVミュートを解除します。☛ p.34
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。☛ 初期化メニュー - 全初期化 p.74
入力映像そのものが真っ黒になっていませんか？ コンピューター投写時のみ	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53

動画が表示されない(動画の部分だけが黒くなる)

確認	対処法
コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていませんか？ ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ	映像信号を外部のみの出力に切り替えます。☛ コンピューターに添付の『取扱説明書』、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。

自動的に投写が消える

確認	対処法
スリープモードをオンにしていませんか？	[ON]ボタンを押して電源を入れます。スリープモードを働かせないときは設定を オフ にしてください。 ☛ 拡張設定メニュー - 動作設定 - スリープモード p.57

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53
映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか？ コンピューター投写時のみ	コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの『取扱説明書』などでご確認ください。☛ 「対応解像度一覧」 p.138

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ p.123, p.128
接続した入力端子を正しく選択していますか？	リモコンまたは操作パネルの[入力検出]ボタンを押して映像を切り替えます。☛ p.25
接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ	映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。☛ p.125 本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替えるFn(ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。

ぼやける、ピントが合わない

確認	対処法
ピントは正しく調整されていますか？	フォーカスリングでピントを合わせます。☛ 『セットアップガイド』
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。☛ p.136
台形補正の調整値を大きくしていませんか？	投写角度を小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。☛ p.23

確認	対処法
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ p.123, p.125
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。
解像度の選択は正しいですか？ コンピューター投写時のみ	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛ 「対応解像度一覧」 p.138 ☛ コンピューターの『取扱説明書』など
「同期▶▶・トラッキング▶▶」は正しく調整されていますか？ コンピューターのアナログRGB信号投写時のみ	リモコンの[自動調整]ボタンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューの同期、トラッキングで調整することもできます。 ☛ 映像メニュー - トラッキング、同期 p.53
入力解像度をマニュアルに設定していますか？ 2画面投写時のみ	環境設定メニューの入力解像度で設定している解像度と、投写している映像の入力解像度が異なるときは、映像が乱れることがあります。 映像が乱れるときは入力解像度をオートに設定してください。☛ 映像メニュー - 入力解像度 p.53

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない

確認	対処法
アスペクトは正しく設定されていますか？	リモコンの[アスペクト]ボタンを押して入力信号に合ったアスペクトを選択してください。☛ p.27
ワイドパネルのコンピューター映像を投写していますか？ コンピューター投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - 入力解像度 p.53
Eズームで拡大したままになっていませんか？	リモコンの[戻る]ボタンを押してEズーム機能を解除します。☛ p.35

確認	対処法
表示位置は正しく調整されていますか？	<p>コンピューターのアナログRGB信号投写時は、リモコンの[自動調整]ボタンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューの表示位置で調整することもできます。</p> <p>アナログRGB信号以外の信号を投写時は、環境設定メニューの表示位置で調整します。☛ 映像メニュー - 表示位置 p.53</p>
デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ コンピューター投写時のみ	<p>接続しているコンピューターのコントロールパネルの「画面のプロパティ」でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。☛ コンピューターのビデオドライバの『取扱説明書』</p>
解像度の選択は正しいですか？ コンピューター投写時のみ	<p>本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。</p> <p>☛ 「対応解像度一覧」 p.138 ☛ コンピューターの『取扱説明書』など</p>

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	<p>接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - 入力信号方式、ビデオ信号方式 p.53</p>
映像の明るさは正しく調整されていますか？	<p>環境設定メニューの明るさを調整してください。☛ 画質調整メニュー - 明るさ p.51</p>
ケーブル類が正しく接続されていますか？	<p>投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ p.123, p.125</p>
コントラスト は正しく調整されていますか？	<p>環境設定メニューのコントラストを調整してください。☛ 画質調整メニュー - コントラスト p.51</p>
適切なカラー調整に設定されていますか？	<p>環境設定メニューのカラー調整を調整してください。☛ 画質調整メニュー - カラー調整 p.51</p>
色の濃さ、色合い は正しく調整されていますか？ ビデオ機器投写時のみ	<p>環境設定メニューの色の濃さ、色合いを調整してください。☛ 画質調整メニュー - 色の濃さ、色合い p.51</p>

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	<p>環境設定メニューの明るさや明るさ切替を設定してください。</p> <p>☛ 画質調整メニュー - 明るさ p.51 ☛ 設定メニュー - 明るさ切替 p.55</p>

確認	対処法
コントラスト▶▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの コントラスト を調整してください。 ☛ 画質調整メニュー - コントラスト p.51
ランプの交換時期ではありませんか？	ランプの交換時期が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。☛ p.94

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
[⏻]ボタンを押しましたか？	[⏻]ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていないか、電気が供給されていません。 電源ケーブルを抜いて差し直してください。☛ 『セットアップガイド』 または、電気が供給されるようにブレーカーを確認してください。
電源ケーブルを触ると、インジケーターが点いたり消えたりしませんか？	電源ケーブルが接触不良を起こしているか、電源ケーブルが故障している可能性があります。電源ケーブルを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。☛ 『お問い合わせ先』
操作ボタンロックが 全ロック になっていませんか？	リモコンの[⏻]ボタンを押します。操作ボタンロックを働かせないときは設定を オフ にしてください。 ☛ 設定メニュー - 操作ボタンロック p.55
リモコン受光部の設定は正しいですか？	環境設定メニューの リモコン受光部 の設定を確認してください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55
ダイレクトパワーオフをした直後に電源ケーブルのプラグを挿し直したかブレーカーをオンにしていますか？	ダイレクトパワーオンをオン に設定しているときに左記の操作をすると電源が入らないことがあります。 [⏻]ボタンを押すと電源が入ります。
リモコン側面のIDスイッチが On になっていませんか？	OnになっているとIDが一致するプロジェクターだけが操作対象になります。IDスイッチを Off にしてください。☛ p.38

その他のトラブル

音が出ない・小さすぎる

確認	対処法
音声入力は正しく接続されていますか？	音声入力端子からケーブルを抜いて差し直してください。
音量調整が最小になっていませんか？	聞こえる音量に調整してください。☛『 セットアップガイド 』
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコンの[A/Vミュート]ボタンを押してA/Vミュートを解除します☛ p.34
オーディオケーブルの仕様は「抵抗なし」となっていますか？	市販のオーディオケーブルを使う場合は「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。
HDMIケーブルで接続していますか？	HDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、接続先の機器の設定をPCM出力にしてください。
LAN音声入力の設定は正しいですか？ 入力ソースがLANのときのみ	ネットワークを介して接続しているコンピューターの音が出ないときは、環境設定メニューのLAN音声入力の設定を確認してください。☛ 設定メニュー - 音声入力 - LAN音声入力 p.55

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。☛ p.17
本機から離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約15mです。☛ p.17
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。または、環境設定メニューの リモコン受光部 で光の影響を受けている方の受光部を オフ にしてください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55
リモコン受光部の設定は正しいですか？	環境設定メニューの リモコン受光部 の設定を確認してください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きにセットします。☛ p.15
リモコンIDはプロジェクターIDと一致していますか？	操作したいプロジェクターのIDとリモコンのIDを一致させてください。IDの設定に関わらずすべてのプロジェクターをリモコンで操作できるようにするには、リモコン側面のIDスイッチをOffにします。☛ p.37
リモコン種類の設定と使用しているリモコンは一致していますか？	環境設定メニューの リモコン種類 の設定を確認してください。☛ 拡張設定メニュー - 動作設定 - リモコン種類 p.57

確認	対処法
リモコン、または本機のリモート端子にオプションのリモコンケーブルを接続していませんか？	リモコンケーブルが差し込まれているとリモコン発光部や本機のリモコン受光部が動かなくなります。リモコンケーブルセットを使用しないときは、リモコンケーブルをリモコンやリモート端子から取り外してください。

外部モニターに表示されない

確認	対処法
コンピューター1入力端子、BNC入力端子以外から入力している映像を表示させようとしていませんか？	外部モニターに表示できる映像はコンピューター1入力端子、BNC入力端子からのRGB信号のみです。
2画面で投写していますか？	外部モニターに表示できる映像は、左画面で投写しているコンピューター1入力端子、BNC入力端子からのRGB信号のみです。  p.30

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。  拡張設定メニュー - 言語 p.57

プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない

確認	対処法
待機モードを通信オンに設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの待機モードを通信オンに設定します。  拡張設定メニュー - 待機モード p.57
致命的な異常が発生し、プロジェクターが瞬時に起動停止状態になっていませんか？	瞬時に起動停止したときはメール送信できません。 プロジェクターを確認しても異常状態が復帰しないときは、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。  『 お問い合わせ先 』
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメールが正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューのメールの設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。  ネットワークメニュー - メール p.70

Event IDの見方

番号を確認して以下のとおり対処してください。問題が解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、次に記載の連絡先にお問い合わせください。☛『[お問い合わせ先](#)』

Event ID	要因	対処法
0432 0435	EasyMP Network Projectionの起動に失敗しました。	プロジェクターを再起動してください。
0434 0481 0482 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。	ネットワークの通信状態を確認して、しばらくしてから再接続してください。
0433	転送された画像を再生できません。	EasyMP Network Projectionを再起動してください。
0484	コンピューターから通信が切断されました。	
04FE	EasyMP Network Projectionが予期せず終了しました。	ネットワークの通信状態を確認して、プロジェクターを再起動してください。
04FF	プロジェクターにシステムエラーが発生しました。	プロジェクターを再起動してください。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクターを同じSSIDに設定してください。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。	無線LANセキュリティの設定が正しいか確認してください。☛ ネットワークメニュー-セキュリティメニュー p.59
0893	WEP/TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。	
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。	ネットワーク管理者に確認して指示に従ってください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。	DHCPサーバーが正しく動作しているか、またはLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。DHCPを使用しないときは、DHCPの設定をオフにしてください。☛ ネットワークメニュー-無線LANメニュー p.62 、 有線LANメニュー p.69
0899	その他、接続に関するエラー	プロジェクターまたはEasyMP Network Projectionを再起動しても問題が解決しない場合は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。☛『 お問い合わせ先 』



メンテナンス

ここでは、本機を今後も長くお使いいただくためのメンテナンス方法について説明しています。

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

警告

本機のレンズやエアフィルターなどに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。
本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となります。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。
ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

エアフィルターの掃除

下記のメッセージが表示されたり、温度インジケーターが緑点減するときは、エアフィルターの掃除をしてください。

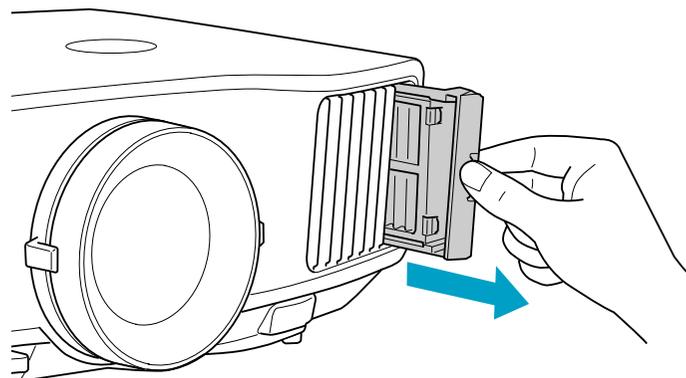
エアフィルターの清掃時期です。
エアフィルターの掃除、または交換をしてください。

注意

- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターがタバコのヤニなどで茶色く変色しているときは、掃除してもエアフィルターはきれいになりません。この場合は新しいエアフィルターに交換してください。  p.97
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- 掃除にブラシを使用するときは、毛先の長い柔らかいものを使用し、軽くなでるように掃除をしてください。強くこするとホコリがエアフィルター内部に入ってしまう取れなくなります。

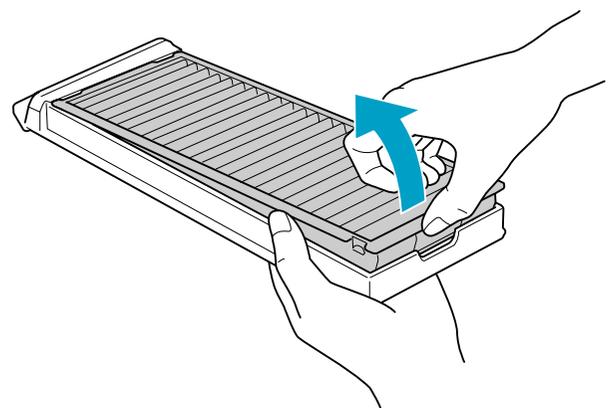
操作

- ① 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- ② エアフィルターカバーを取り出します。
エアフィルターカバーのタブに指をかけ、まっすぐに引き出します。



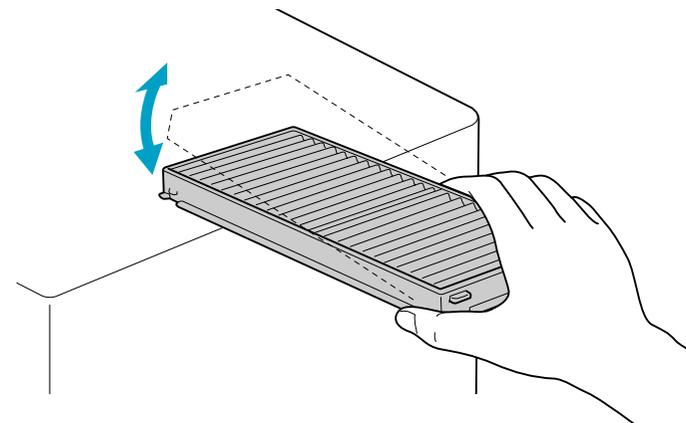
3 エアフィルターを取り出します。

下図のように、くぼみに指をかけてエアフィルターを取り外します。



4 エアフィルターの表側(取り出し用のツマミのある面)を下にして、4~5回たたいてホコリを落とします。

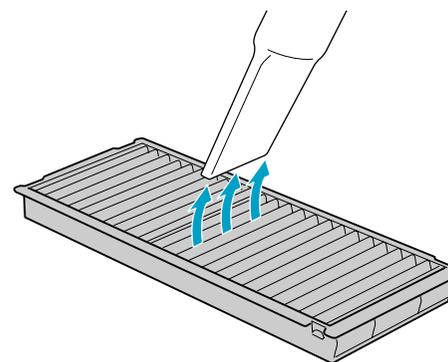
持ち替えて、手で持っていた方も同様にたたいてホコリを落とします。



注意

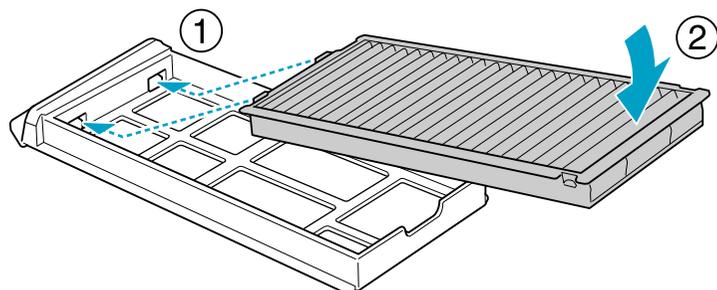
エアフィルターを強くたたきすぎると、変形したり割れたりして使用できなくなります。

5 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側から吸い取ります。

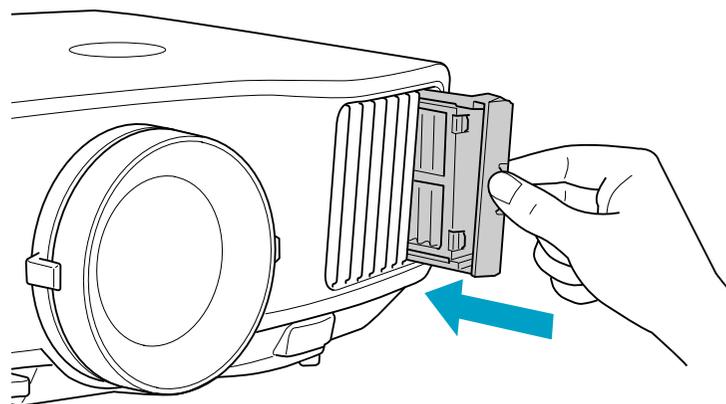


6 エアフィルターをエアフィルターカバーに取り付けます。

エアフィルターの突起をカバーの穴に差し込み、しっかり押し込みます。



- 7** エアフィルターカバーを取り付けます。
カチッと音がするまでカバーを押し込みます。



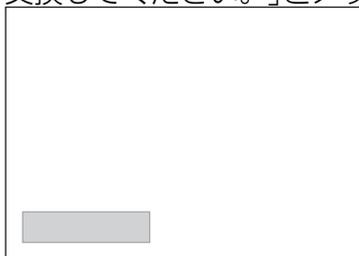
掃除をしても頻繁にメッセージが表示される時は交換時期です。
新しいエアフィルターに交換してください。  p.97

ランプの交換

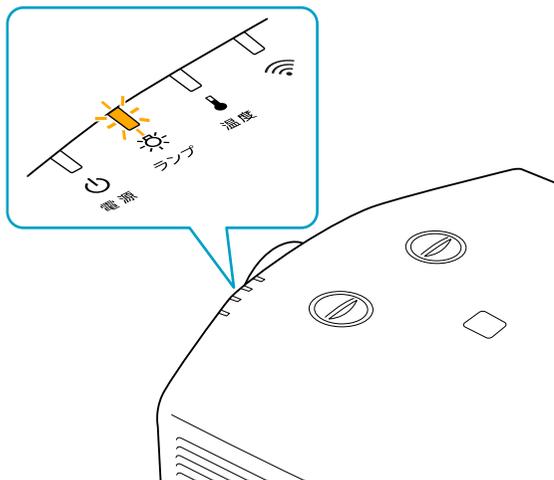
ランプの交換時期

次の場合は、ランプを交換してください。

- 投写を開始したときに下図のように投写画面の左下に「投写ランプを交換してください。」とメッセージが表示されたとき



- ランプインジケータがオレンジ色に点滅したとき



- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたとき

注意

- 交換メッセージは、初期の明るさや画質を維持するため、次の時間で表示されます。
明るさ切替をノーマルで使い続けた場合：約1900時間
明るさ切替をエコで使い続けた場合：約2900時間
- 電源オフ直後に電源をオンにする操作を繰り返さないでください。頻繁に電源オフ/オンを繰り返すと、ランプ寿命が短くなるおそれがあります。
- 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものがあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをおすすめします。



ランプを交換するときに、エアフィルターの掃除をおすすめします。

☞ p.91

エアフィルターが変色していたり、掃除をしてもメッセージが頻繁に表示される場合は、エアフィルターを交換してください。

☞ p.97

ランプの交換方法

本機は天吊り設置したままでもランプの交換ができます。



警告

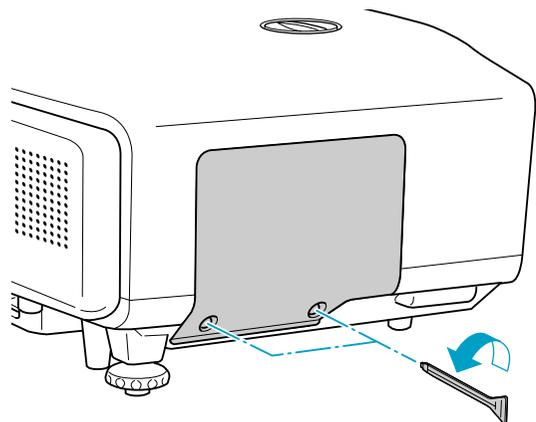
- ランプが点灯しなくなり交換するときは、ランプが割れている可能性があります。本機を天吊り設置していてランプ交換を行うときは、ランプが割れていることを想定しランプカバーの真下に立たずに横から作業してください。また、ランプカバーをそと取り外してください。
- ランプの分解・改造は、絶対にしないでください。分解・改造したランプをセットして本機を使用すると、火災・感電・事故の原因となります。

⚠ 注意

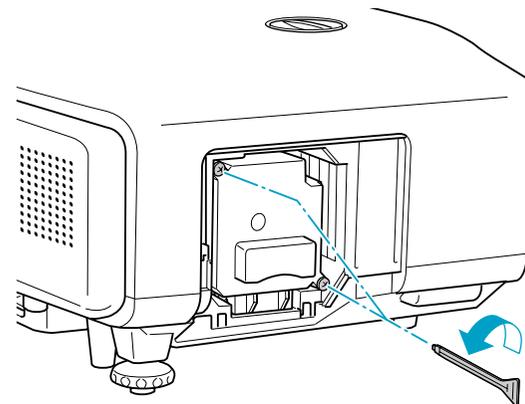
ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。熱で、やけど・けがの原因となることがあります。ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。

操作

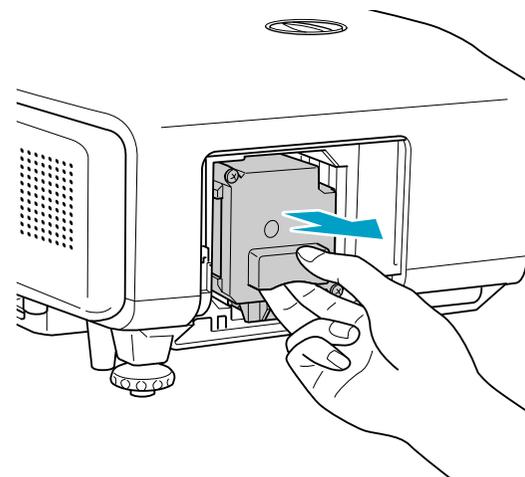
- ① 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- ② ランプが十分冷えてから、本機側面のランプカバーを外します。ランプカバーの固定ネジを交換用ランプに同梱のドライバー、または+のドライバーでゆるめ、ランプカバーを取り外します。ランプカバーには落下防止のひもがついていますので、天吊り時に交換する際も外れて落ちることはありません。



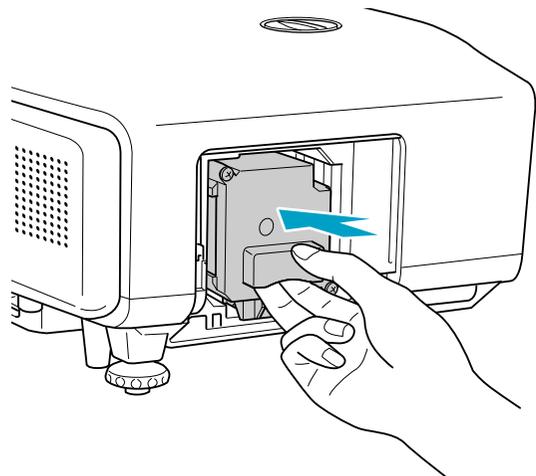
- ③ ランプ固定ねじ2本をゆるめます。



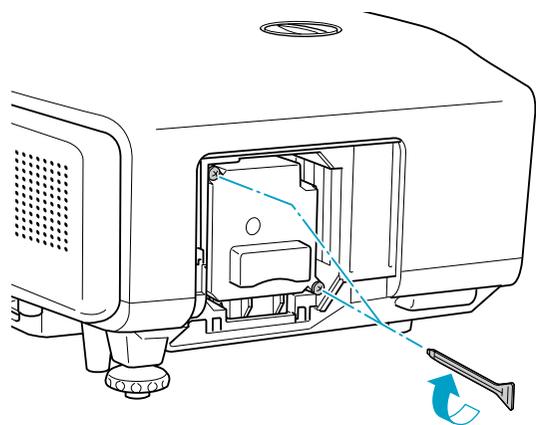
- ④ 古いランプをつまんで取り出します。ランプが割れているときは、お買い上げの販売店または本書に記載の連絡先にご相談ください。 [【お問い合わせ先】](#)



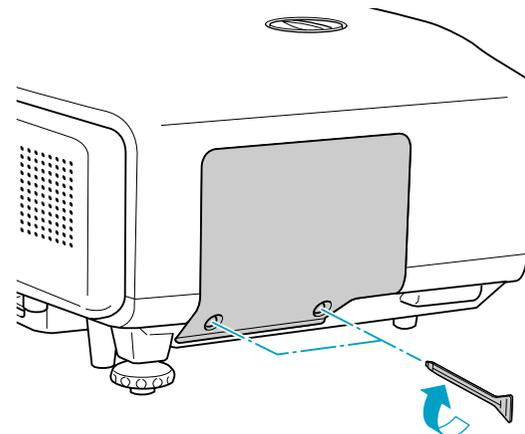
- ⑤ 新しいランプを取り付けます。ランプを収納部の形に合う向きでガイドレールに沿って入れ、しっかりと押し込みます。



⑥ ランプ固定ねじ2本を締めます。



⑦ ランプカバーを取り付けます。



注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを外すと自動的にランプが消灯します。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だと点灯しません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

ランプ点灯時間の初期化

本機はランプの点灯時間を記憶し、累計が交換時間に達するとメッセージやインジケータでお知らせします。ランプ交換を実施した後は、初期化メニューでランプ点灯時間の累計を初期化してください。

☛ p.74



ランプ点灯時間の初期化は、ランプを交換したとき以外は行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

エアフィルターの交換

エアフィルターの交換時期

次の場合はエアフィルターを交換してください。

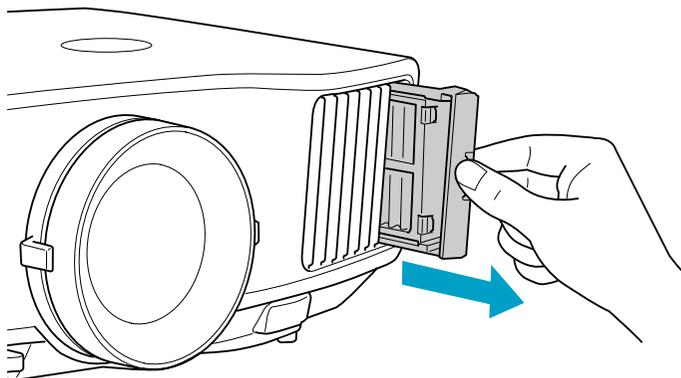
- エアフィルターが変色しているとき。
- エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるとき。

エアフィルターの交換方法

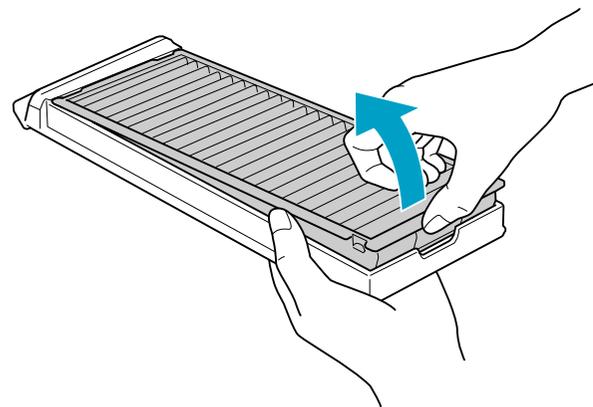
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

操作

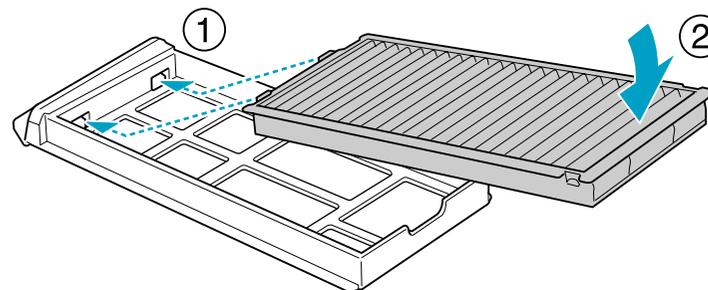
- ① 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- ② エアフィルターカバーを取り出します。
エアフィルターカバーのタブに指をかけ、まっすぐに引き出します。



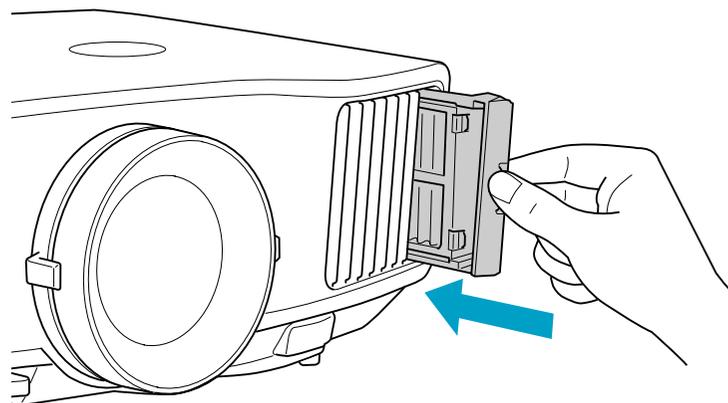
- ③ エアフィルターを取り出します。
下図のように、くぼみに指をかけてエアフィルターを取り外します。



- ④ 新しいエアフィルターをエアフィルタカバーに取り付けます。
エアフィルターの突起をカバーの穴に差し込み、しっかり押し込みます。



- ⑤ カチッと音がするまでカバーを押し込みます。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

枠部分の材質：ポリプロピレン

フィルター部分の材質：ポリプロピレン

本機内部にはガラス部品や精密部品が数多く使われています。輸送の際には、衝撃による故障防止のため、次のように取り扱ってください。

近くへの移動

以下の点を確認して、ハンドルを持って静かに移動してください。

- 本機の電源を切り、すべての配線を外してください。
- レンズにレンズカバーを取り付けてください。
- フット部を収納してください。

輸送する場合

梱包の準備

上記の「近くへの移動」の確認点に加えて、以下の準備を行ってから梱包してください。

- 上下レンズシフトを最下位置に設定してください。  [p.20](#)
- 購入時にセットされていたレンズ保護パッドを装着してください。

梱包と輸送の注意

運送業者(宅配業者他)にご相談のうえ、本機に衝撃が伝わらないように本機の周囲を保護し、堅固なダンボール箱に入れ、精密機器であることを告げて輸送を依頼してください。



監視と制御

ここでは、本機を監視・制御するための機能について説明しています。

EasyMP Monitorを使うと、ネットワーク上の複数のエプソンプロジェクターの状態をコンピューターのモニターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます。

EasyMP Monitorは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

<http://www.epson.jp/download/>

EasyMP Monitorでできる監視・制御の概要は次のとおりです。

● 監視・制御するプロジェクターの登録

ネットワーク上のプロジェクターを自動検索し、検出された中から登録するプロジェクターを選ぶことができます。
目的のプロジェクターのIPアドレスを入力し登録できます。

● 登録したプロジェクターのうち、一括して監視・制御するものをまとめてグループ登録できます。

● 登録したプロジェクターの状態監視

プロジェクターの電源の状態(オン/オフ)や異常・警告などの対処が必要な状態になっていないかなどをアイコンで視覚的に確認できます。
気になるグループまたは特定のプロジェクターを選択して、ランプの累積点灯時間や選択されている入力ソース、異常・警告の内容などの詳細情報を確認できます。

● 登録したプロジェクターの制御

グループ単位で一括して、あるいは特定のプロジェクターだけを選んで電源の状態(オン/オフ)を切り替えたり、入力ソースを切り替えたりできます。

Web制御機能を使いプロジェクターの環境設定メニューの設定を変更できます。

タイマー設定で決まった日時に定例の制御を行えます。

● メール通知機能の設定

登録したプロジェクターに異常などの対処が必要な状態が発生した場合に、それらの状態がメールで通知されるようにメールアドレスなどの設定ができます。

● 登録したプロジェクターへのメッセージ送信

EasyMP MonitorのプラグインMessage Broadcastingを使って、登録したプロジェクターへJPEGファイルを同時に送信できます。

Message Broadcastingは本章冒頭に表記のWebサイトよりダウンロードしてください。

プロジェクターとネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザを利用して、プロジェクターの環境設定メニューと同様の設定や制御が行えます。この機能を使えば、プロジェクターから離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。

Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降を使用してください。Mac OSをお使いの場合は、SafariやFirefoxを使用してください。



- 無線LANで接続するときは、マニュアルモードで接続してください。☞ p.62
- プロジェクターの環境設定メニューの**拡張設定 - 待機モードを通信オン**に設定しておく、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザを使った設定や制御ができます。☞ p.57

Webブラウザでは設定できない項目(環境設定メニューで設定可能)とWebブラウザでのみ設定できる項目があります。

Web ブラウザーで設定できない環境設定メニューの項目

- パスワードの設定に関する項目
- 初期化メニューの全項目
- 設定メニューの以下の項目
Quick Corner、ポインター形状、ユーザーボタン、テストパターン
- 拡張設定メニューの以下の項目
ユーザーロゴ、高地モード、BNC同期終端、リモコン種類、言語

Web ブラウザーでのみ設定できる項目

- コミュニティ名
- Monitorパスワード

Web制御を表示する

以下の手順で、Web制御を表示します。



ご使用のWebブラウザで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Web制御を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

操作



1 コンピューターでWebブラウザを起動します。



2 Webブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力し、コンピューターのキーボードの「Enter」キーを押します。

Web制御が表示されます。

プロジェクターの環境設定メニューのネットワークメニューでWeb制御パスワードを設定しているときは、パスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名には**EPSONWEB**と入力してください。パスワードにはWeb制御パスワードで設定した文字を入力してください。

Web Remoteを表示する

Web Remote機能では、プロジェクターのリモコンと同様の操作をWebブラウザで行うことができます。

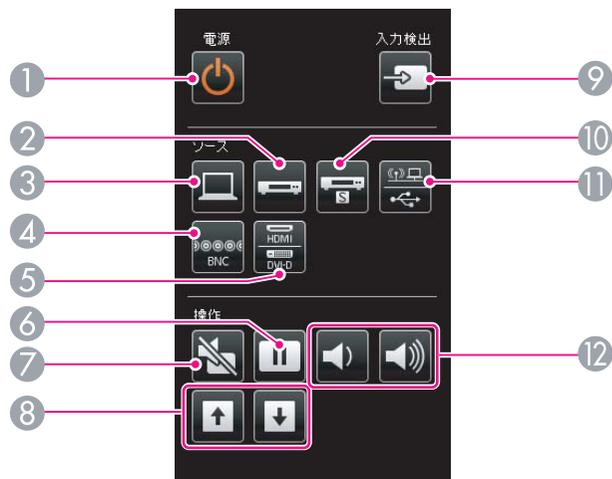
操作

① Web制御を表示します。☞「Web制御を表示する」 p.102

② Web Remoteをクリックします。



③ Web Remote画面が表示されます。



名称	働き
① [ON]ボタン	本機の電源をオン/オフします。
② [ビデオ1/2]ボタン	クリックするたびに入力ソースが、ビデオ1、ビデオ2に切り替わります。
③ [コンピューター1/2]ボタン	入力ソースがコンピューター1に切り替わります。

名称	働き
④ [BNC]ボタン	入力ソースが BNC に切り替わります。
⑤ [DVI-D/HDMI]ボタン	クリックするたびに入力ソースが DVI-D 、 HDMI に切り替わります。
⑥ [静止]ボタン	映像を一時停止/解除します。☞ p.34
⑦ [A/Vミュート]ボタン	映像と音声を一時的に消去/解除します。☞ p.34
⑧ [ページ]ボタン [↑][↓]	ネットワークを介して本機と接続しているコンピュータからの映像を投写しているときに、Page UP/Page Downの操作ができます。PC Freeで投写しているときは、画面の切り替え操作ができます。
⑨ [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替えます。☞ p.25
⑩ [S-ビデオ]ボタン	入力ソースが S-ビデオ に切り替わります。
⑪ [LAN/USB]ボタン	クリックするたびに入力ソースが、 LAN 、 USB に切り替わります。
⑫ [音量]ボタン (🔊)(🔇)	(🔊)音量を下げます。 (🔇)音量を上げます。

プロジェクターの環境設定メニューで**メール通知機能**の設定をしておく
と、プロジェクターが異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所
においてもプロジェクターの異常を知ることができます。☛ ネット
ワークメニュー - メールメニュー p.70



- 送信先(宛先)は最大3つまで記憶でき、一括して送ることができます。
- プロジェクターに致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
- プロジェクターの環境設定メニューで**拡張設定 - 待機モードを通信オン**に設定しておく、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、監視ができます。☛ p.57

異常通知メールの見方

メール通知機能を**オン**に設定していて本機が異常/警告状態になったときは、次のメールが送付されます。

メールタイトル：EPSON Projector

1行目：異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名

2行目：異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降：異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は次表のとおりです。異常/警告の対処方法は「インジケータの見方」
をご確認ください。☛ p.77

メッセージ	原因(異常/警告)
Clean Air Filter	エアフィルター清掃通知
Fan related error	ファン異常
High-speed cooling in progress	高温警告

メッセージ	原因(異常/警告)
Internal error	内部異常
Internal temperature error	内部高温異常 (オーバーヒート)
Lamp cover is open.	ランプカバー開放状態
Lamp out	ランプ異常
Lamp replacement notification	ランプ交換勧告
Lamp timer failure	ランプ点灯失敗
Low Air Flow	エアフィルター風量低下
Low Air Flow Error	フィルター風量低下異常
No-signal	ノーシグナル 本機に映像信号が入力されていません。 接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。
Power Err. (Ballast)	電源系異常(バラスト)
Sensor error	センサー異常

メッセージの最初に(+)や(-)が付きます。

(+)：本機に異常が発生した場合

(-)：本機の異常が対処された場合

プロジェクターの環境設定メニューで**SNMP**の設定をしておくと、プロジェクターが異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でもプロジェクターの異常を知ることができます。☛ [p.71](#)



- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使ってプロジェクターを監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。

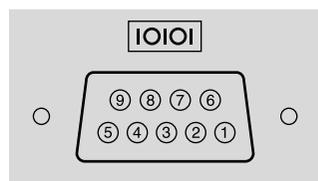
シリアル接続

- コネクタ形状：D-Sub 9pin(オス)
- プロジェクター入力端子名：RS-232C

<プロジェクター側>



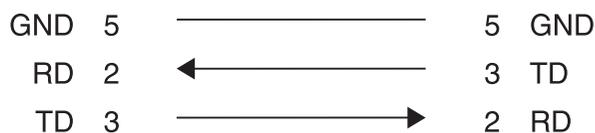
<コンピューター側>



<プロジェクター側>

(PCシリアルケーブル)

<コンピューター側>



信号名	機能
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

- データ長：8bit
- パリティ：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン ‘:’ (3Ah) を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後 ‘:’ を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に ‘:’ を返信しません。

項目			コマンド
電源のオン/オフ	オン		PWR ON
	オフ		PWR OFF
信号切り替え	コンピューター1	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	BNC	オート	SOURCE BF
		RGB	SOURCE B1
		コンポーネント	SOURCE B4
DVI-D		SOURCE A0	
HDMI		SOURCE 30	
ビデオ1		SOURCE 45	
ビデオ2		SOURCE 41	

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps

項 目		コマンド
	S-ビデオ	SOURCE 42
	USB	SOURCE 52
	LAN	SOURCE 53
A/Vミュート機能の オン/オフ	オン	MUTE ON
	オフ	MUTE OFF
A/Vミュート機能の 切り替え	黒	MSEL 00
	青	MSEL 01
	ユーザーロゴ	MSEL 02

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLink Class1が策定されました。

本機は、JBMIA が策定したPJLink Class1の規格に適合しています。

PJLink Class1で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

URL : <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

- 非対応コマンド

機能	PJLinkコマンド
映像ミュート設定	AVMT 11
音声ミュート設定	AVMT 21

- PJLinkで定義している入力名と本機の入カソースの対応

入カソース	PJLinkコマンド
コンピューター1	INPT 11
BNC	INPT 13
ビデオ1	INPT 23
ビデオ2	INPT 21
S-ビデオ	INPT 22
DVI-D	INPT 31
HDMI	INPT 32
USB	INPT 41
LAN	INPT 52

- 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名
EPSON

- 「機種情報問合せ」で表示する機種名
EB-G5750WU

Crestron RoomView®はCrestron®社が提供する統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視・制御できます。

本機はその制御用プロトコルに対応していますので、Crestron RoomView®で構築されたシステム環境下でご利用いただけます。

Crestron RoomView®の詳細は、Crestron®社のWebページを参照してください。(英語のみの表示となります。)

<http://www.crestron.com>

Crestron RoomView®の概要は次のとおりです。

● Webブラウザを利用した遠隔操作

コンピューターの画面上でリモコンと同様にプロジェクターを操作できます。

● アプリケーションソフトを利用した監視・制御

Crestron®社が提供するアプリケーションソフトCrestron RoomView® Express/Crestron RoomView® Server Editionでシステム内の機器の監視、ヘルプデスクとの通信、緊急時のメッセージ送信を行えます。詳細は以下のWebページを参照してください。

<http://www.crestron.com/getroomview>

本書では、Webブラウザを利用してコンピューターの画面上で本機を操作する方法を説明します。



- 文字入力に使用できるのは半角英数字と記号のみです。
- Crestron RoomView®使用中は、以下の機能はご利用になれません。
Web制御  p.102
Message Broadcasting (EasyMP Monitorのプラグイン)
- プロジェクターの環境設定メニューで**拡張設定 - 待機モードを通信オン**に設定しておく、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。  p.57

コンピューターの画面上でプロジェクターを操作する

操作画面を表示する

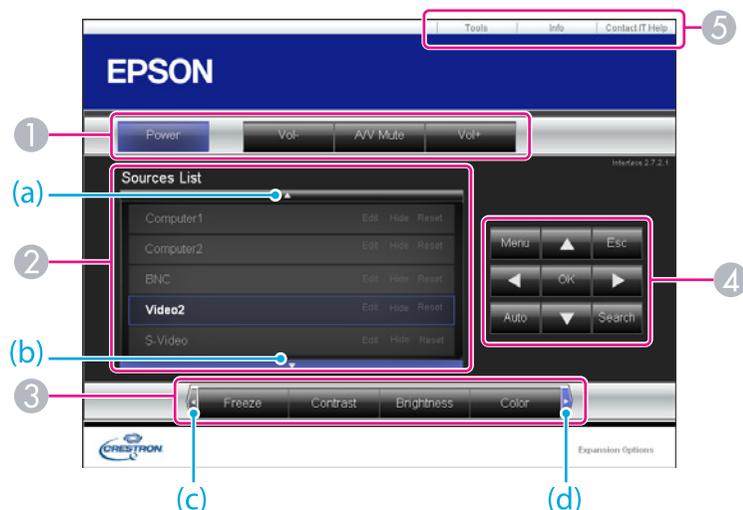
操作の前に以下の点をご確認ください。

- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。無線LANで接続するときは、マニュアルモードで接続してください。  p.62
- ネットワークメニューの**その他**メニューで**RoomViewをオン**に設定しておきます。設定の変更は、本機を再起動したときに有効になります。
 p.71

操作

- ① コンピューターでWebブラウザを起動します
- ② Webブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力して、キーボードの[ENTER]キーを押します。
操作画面が表示されます。

操作画面の使い方



- ① 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。

ボタン	機能
Power	電源をオン/オフします。
Vol-/Vol+	音量の調整を行います。
A/V Mute	映像と音声を一時的に消去/解除します。 🖱️ p.34

- ② クリックした入力ソースの映像に切り替わります。画面に表示されていない入力ソースは(a)、(b)をクリックして上下にスクロールすると表示されます。
- ③ 各ボタンをクリックすると、以下の操作を行えます。画面に表示されていないボタンは(c)、(d)をクリックして左右にスクロールすると表示されます。

ボタン	機能
Freeze	映像を一時停止/解除します。🖱️ p.34
Contrast	映像の明暗の差を調整します。
Brightness	映像の明るさを調整します。
Color	映像の色の濃さを調整します。
Sharpness	映像のシャープ感を調整します。
Zoom	[Ⓚ]ボタンをクリックすると、投写サイズを変えずに映像を拡大します。[Ⓚ]ボタンをクリックすると、[Ⓚ]ボタンで拡大した結果を縮小します。[▲][▼][◀][▶]ボタンで拡大表示する位置を移動します。🖱️ p.35

- ④ [▲][▼][◀][▶]ボタンをクリックするとリモコンの[Ⓚ]ボタンと同様の操作を行えます。その他のボタンをクリックすると以下の操作を行えます。

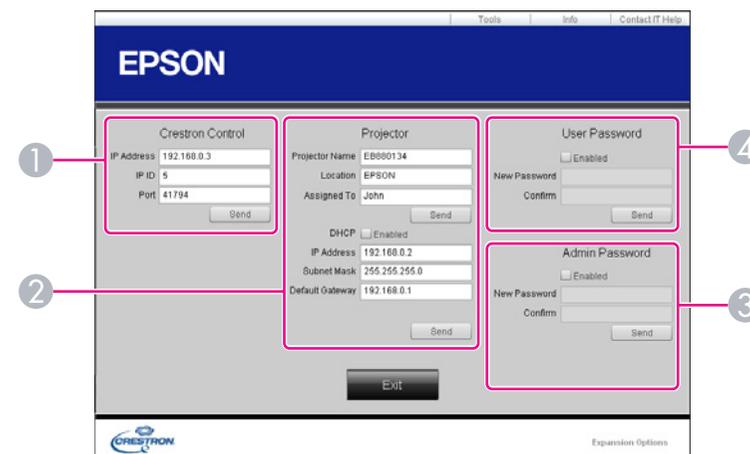
ボタン	機能
OK	リモコンの[決定]ボタンと同じ操作を行えます。 🖱️ p.14
Menu	環境設定メニューを表示/終了します。
Auto	コンピューターのアナログRGB信号を投写しているときにクリックすると、最適に映るようにトラッキング・同期・表示位置が自動調整されます。
Search	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。🖱️ p.25
Esc	リモコンの[戻る]ボタンと同じ操作を行えます。 🖱️ p.14

- ⑤ 各タブをクリックすると以下の操作を行えます。

タブ	機能
Contact IT Help	Help Deskウィンドウが表示されます。Crestron RoomView®Expressを利用する管理者に対して、メッセージの送受信を行えます。
Info	現在接続しているプロジェクターの情報を表示します。
Tools	現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行います。次項を参照してください。

Tools画面の使い方

操作画面で**Tools**タブをクリックすると以下の画面が表示されます。現在接続しているプロジェクターに対して設定の変更を行えます。



- 1 Crestron Control**
 Crestron® の集中制御コントローラーに対する各設定を行います。
- 2 Projector**
 以下の項目を設定できます。

項目名	機能
Projector Name	現在接続しているプロジェクターを、ネットワーク上で識別するための個別の名前を任意に入力します。(半角英数字15文字以内)
Location	現在接続しているプロジェクターの設置場所名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
Assigned To	プロジェクターの利用者名を任意で入力します。(半角英数字記号32文字以内)
DHCP	DHCPを使用するときは、 Enable にチェックを入れます。チェックを入れると以降のアドレスの設定はできなくなります。
IP Address	現在接続しているプロジェクターに割り当てるIPアドレスを入力します。

項目名	機能
Subnet Mask	現在接続しているプロジェクターのサブネットマスクを入力します。
Default Gateway	現在接続しているプロジェクターのゲートウェイアドレスを入力します。
Send	Projector で変更した内容を確定するときにクリックします。

項目名	機能
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	User Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

③ Admin Password

Tools画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enable**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

項目名	機能
New Password	Tools画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。(半角英数字26文字以内)
Confirm	New Password で入力したパスワードを入力します。一致しないときは、エラーが表示されます。
Send	Admin Password で変更した内容を確定するときにクリックします。

④ User Password

コンピューター上で操作画面を開くときにパスワードの入力を求めるときは、**Enable**にチェックを入れます。
以下の項目を設定できます。

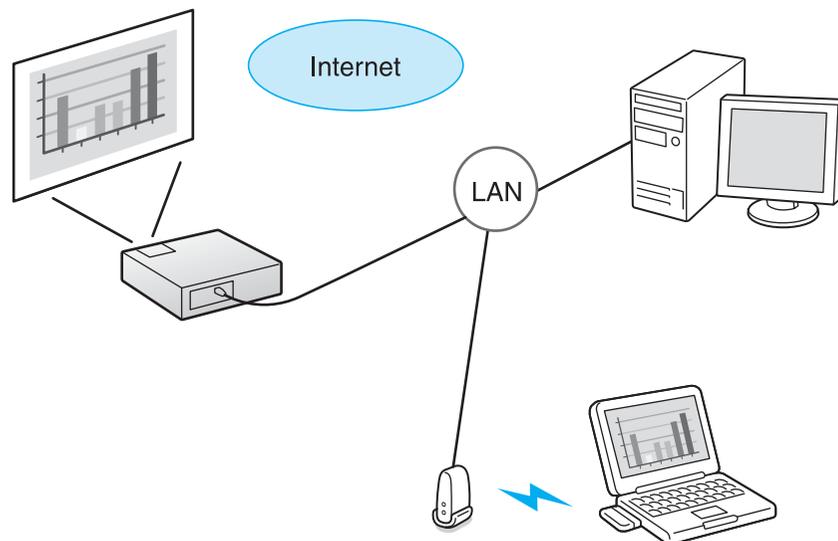
項目名	機能
New Password	操作画面を開くときに入力するパスワードを変更するときは、新しいパスワードを入力します。(半角英数字26文字以内)



ネットワーク関連機能

ここでは、ネットワークに関する補足的な機能について説明しています。

「ネットワークプロジェクターへの接続」はWindows Vista/Windows 7に標準搭載の機能です。特別なアプリケーションソフトをインストールしなくてもOSが持つ機能だけでネットワーク上のプロジェクターを検出してコンピューター画面の映像を投写できます。



対応OS

Windows Vista: Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate

Windows 7: Professional/Ultimate

ここでは、「ネットワークプロジェクターへの接続」の使い方を簡単に説明します。

本機とコンピューターがネットワークに接続されていることを確認して、以下の操作を行います。

操作

- 1 本機の電源を入れ、入力ソースをLANに切り替えます。☛「投写映像を切り替える」 p.25
- 2 コンピューターでWindowsを起動し、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「ネットワークプロジェクターへの接続」の順に選択します。
接続設定画面が表示されます。
自動でプロジェクターを検出する方法と、IPアドレスを入力して検出する方法があります。
- 3 検出結果から目的のプロジェクターを選択して「接続」をクリックします。
プロジェクターのパスワードを問い合わせる画面が表示されたときは、本機のLAN待機画面の下に表示されているキーワードを入力してください。



- 1台のコンピューターから接続できるプロジェクターは1台のみです。
- 音声は伝送されません。コンピューターの音声を本機から出力するときは、コンピューターの音声出力端子と本機の音声入力1端子/音声入力2端子/音声入力3端子のいずれかを、オーディオケーブル(市販品)で接続します。設定メニューのLAN音声入力で、オーディオケーブルを接続した端子に設定してください。☛ p.55
- Windowsミーティング スペースのオプションからネットワークプロジェクタを実行するときは、お使いのコンピューターの画面の色を最高(32ビット)に設定してください。32ビットになっていないとメッセージが表示され接続することができません。

WPSの設定には以下の2通りの方式があります。

● プッシュボタン方式

本機操作パネルの[決定]ボタンとアクセスポイント機器に搭載されている専用ボタンを押せば、SSIDとセキュリティの設定が自動的に行われます。プロジェクターとアクセスポイントが近くにあるときはこの方式が向いています。

● PINコード方式

プロジェクターにあらかじめ割り振られている8桁の数字をコンピューターを介してアクセスポイント機器へ入力することで、SSIDとセキュリティの設定が自動的に行われます。コンピューターとアクセスポイント間には、事前に接続設定しておきます。接続方法はアクセスポイント機器の取扱説明書でご確認ください。プロジェクターを天吊り設置しているときは、この方式が向いています。



WPS以外の接続方法は、アクセスポイント機器の取扱説明書、ならびに次を参照してください。☞「無線LANメニュー」 p.62

接続設定の方法

操作

- 1 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから「ネットワーク」-「ネットワーク設定画面へ」を選びます。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

ネットワーク設定画面が表示されます。

- 2 「無線LAN」 - 「設定ウィザードへ」を選びます。



以下の画面が表示されます。



プッシュボタン方式で接続するときは、続く手順に従って操作してください。

PINコード方式で接続するときは、「PINコード方式で接続する」に進んでください。  p.117

プッシュボタン方式で接続する

操作

- 1 「プッシュボタン方式」を選びます。



「プッシュボタン方式」画面が表示されます。

- 2 画面の指示に従って本機操作パネルの[決定]ボタンを押します。



引き続き「プッシュボタン方式」画面が表示されます。

- 3 画面の指示に従ってアクセスポイント機器のボタンを押します。



設定が完了します。

- 4 [決定]ボタンまたは[戻る]ボタンを押します。



無線LANメニューの画面に戻ります。

- 5 「設定完了」 - 「はい」を選びます。



以上でプロジェクターとアクセスポイント間の接続が完了しました。
[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

PINコード方式で接続する



PINコード方式で接続する前に、コンピューターとアクセスポイント機器の接続設定をしておきます。

操作



- 1 「PINコード方式」を選びます。



「PINコード方式」画面が表示されます。

- ② 「PINコード方式」画面に表示されているPINコードをコンピューターからアクセスポイント機器に入力し「設定スタート」を選びます。



進行状況が表示されます。



- ③ 「Wi-Fi Protected Setup による設定が完了しました。」と表示されたら「決定」ボタンまたは「戻る」ボタンを押します。



無線LANメニューの画面に戻ります。

- ④ 「設定完了」 - 「はい」を選びます。



以上でプロジェクターとアクセスポイント間の接続が完了しました。[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。



設置と接続

ここでは、本機の設置方法や、他の機器との接続方法について説明しています。

本機は、次の例のように天井に取り付ける天吊り設置や机上に設置して投写できます。

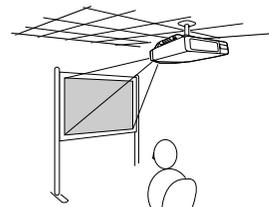
警告

- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下・転倒によりけがや事故の原因となります。お買い求めいただいた販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。☛『[お問い合わせ先](#)』
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。

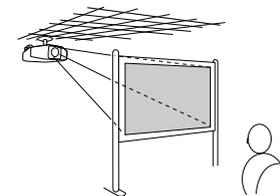
注意

- 本機を縦置き状態にして投写しないでください。故障の原因となります。

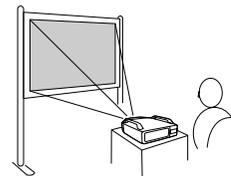
- 天吊りして正面から投写する(フロント・天吊り投写)



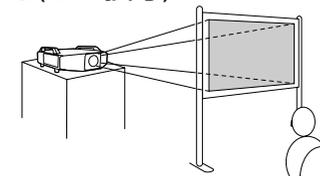
- 天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する(リア・天吊り投写)



- 正面から投写する(フロント投写)



- リアスクリーンへ裏側から投写する(リア投写)



- 天吊りするには、オプションの天吊り金具が必要です。☛『[オプション・消耗品一覧](#)』 p.134

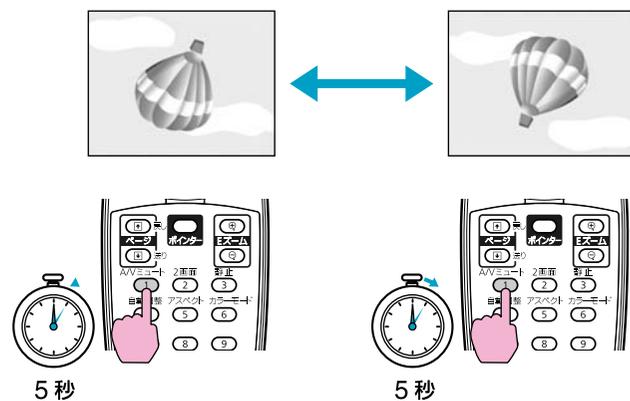
設置モードを切り替える

投写映像の向きが適切になるように、設置状態に合わせて**設置モード**を切り替えます。

操作

本機で投写中に、リモコンの[A/Vミュート]ボタンを約5秒間押し続けます。

約5秒間押し続ける操作をするたびに**設置モード**の設定が**フロント↔フロント・天吊り**に切り替わり、投写映像の向きが変わります。



リア、リア・天吊りへの切り替えは、**拡張設定メニュー**の**設置モード**で行います。☞ [p.57](#)



天吊り使用時は、本体操作パネルの[▲][▼][◀][▶]ボタンの操作と動作が一致するように、**拡張設定メニュー**の**方向ボタン反転**を**オン**に設定します。☞ **拡張設定メニュー - 動作設定 - 方向ボタン反転**
[p.57](#)

本機に外部機器を接続するときは、以下の点にご注意ください。また、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。

注意

- 本機と接続機器の電源を切ってください。電源が入った状態で接続すると、故障の原因になります。
- ケーブルのコネクター形状と端子の形状を確認して接続してください。向きや形状が異なっているものを無理に押し込むと故障や機器の破損の原因になります。

コンピューターとの接続

コンピューターと本機の接続例は以下のとおりです。コンピューターの端子名やケーブル名は、お使いのものと異なることがあります。



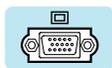
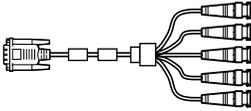
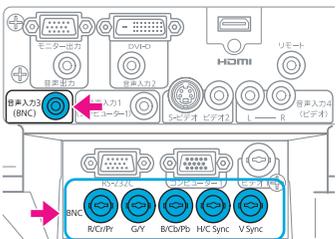
ネットワークを介して接続しているコンピューターの映像を投写するときは、次を参照してください。

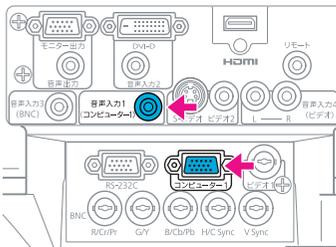
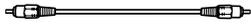
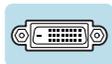
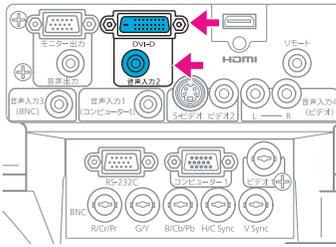
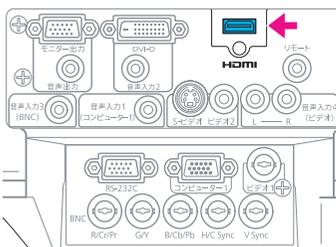
本機に添付のアプリケーションソフトEasyMP Network Projectionで投写する  『EasyMP Network Projection操作ガイド』

本機に添付のアプリケーションソフトEasyMP Multi PC Projectionで投写する  『EasyMP Multi PC Projection操作ガイド』

Windows Vista/Windows 7に搭載の「ネットワークプロジェクターへの接続」を使って投写する  p.114

オプション品のクイックワイヤレス用USBキーを使って、クイックワイヤレスで投写する  オプション品の取扱説明書

	コンピューターの端子	接続ケーブル	プロジェクターの端子
接続1	モニター出力端子 	5BNCディスプレイケーブル(市販品) 	BNC入力端子 音声入力3端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	

	コンピューターの端子	接続ケーブル	プロジェクターの端子
接続2	モニター出力端子 	コンピューターケーブル(同梱品) 	コンピューター1入力端子 音声入力1端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続3	DVI-D出力 	DVI-Dケーブル(市販品) 	DVI-D入力端子 音声入力2端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続4	HDMI出力 	HDMIケーブル(市販品) 	HDMI入力端子 



- HDMIケーブルは、HDMI規格に適合しているものをお使いください。
- Macintoshと接続するときは、市販の専用アダプターが必要な場合があります。

ノート型コンピューターの映像出力切り替え

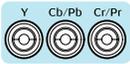
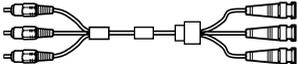
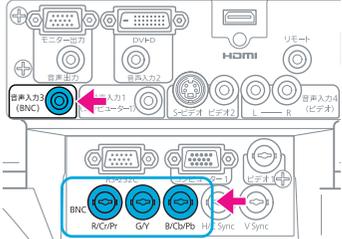
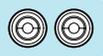
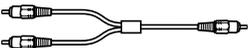
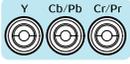
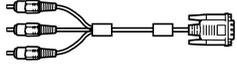
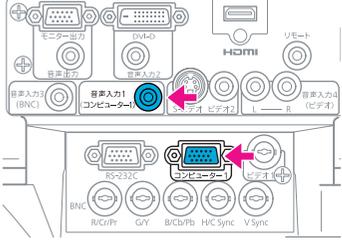
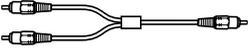
ノート型コンピューターをコンピューターケーブルで本機に接続して投写するときは、コンピューター側で映像信号の出力先を切り替えます。映像出力の切り替え方法は、お使いのコンピューターに添付の取扱説明書を参照してください。

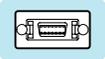
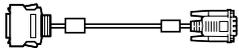
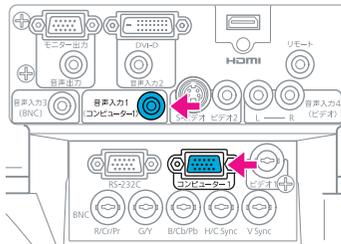
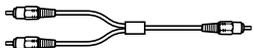
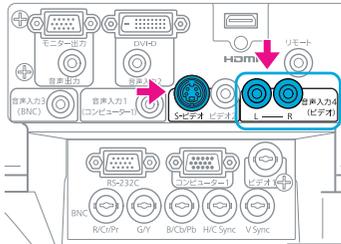
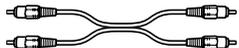
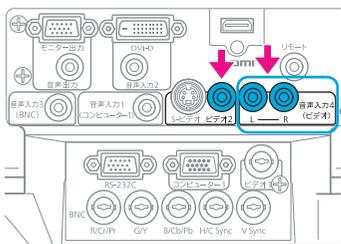
• 映像出力切り替えの例(Windows搭載のコンピューターの場合)

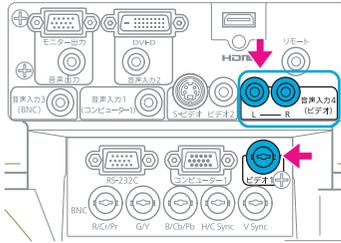
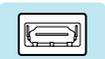
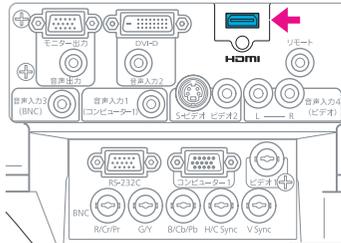
お使いのコンピューターの[Fn]キーを押したまま、CRT/LCDまたは 昌/□ などの表記のあるファンクションキーを押します。お使いのコンピューターのディスプレイに映像が表示されないときは、再び同じキー操作を行います。

ビデオ映像機器との接続

ビデオ映像機器と本機の接続例は以下のとおりです。映像機器の端子名やケーブル名は、お使いのものと異なることがあります。

	ビデオ映像機器の端子	接続ケーブル	プロジェクターの端子
接続1	コンポーネント出力 	コンポーネントビデオケーブル(RCA)(市販品)+BNC/RCAアダプター(市販品) 	BNC入力端子(R/Cr/Pr, G/Y, B/Cb/Pb) 音声入力3端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続2	コンポーネント出力 	コンポーネントケーブル(D-sub/コンポーネント変換)(オプション品) 	コンピューター1入力端子 音声入力1端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	

	ビデオ映像機器の端子	接続ケーブル	プロジェクターの端子
接続3	D1～D4出力 	D端子ケーブル(ミニD-Sub 15pin/D端子用) (オプション品) 	コンピューター1入力端子 音声入力1端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続4	S映像出力 	S-ビデオケーブル(市販品) 	S-ビデオ入力端子 音声入力4端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続5	映像出力 	ビデオケーブル(市販品) 	ビデオ2入力端子 音声入力4端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	

	ビデオ映像機器の端子	接続ケーブル	プロジェクターの端子
接続6	映像出力 	BNCビデオケーブル(市販品) 	ビデオ1入力端子 音声入力4端子 
	音声出力端子 	オーディオケーブル(市販品) 	
接続7	HDMI出力 	HDMIケーブル(市販品) 	HDMI入力端子 



- 接続している機器の信号に応じて、映像メニューの入力信号方式またはビデオ信号方式を設定してください。  p.53
- HDMIケーブルは、HDMI規格に適合しているものをお使いください。
- 市販の2RCA(L・R)/ステレオミニピンオーディオケーブルは、「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。

LANケーブルの接続

市販の100BASE-TXまたは10BASE-TタイプのLANケーブルで接続します。

接続機器	接続ケーブル	プロジェクターの端子
(ネットワークハブの)LAN端子	LANケーブル(市販品)	LAN端子  LAN

注意

LANケーブルは誤動作防止のために、カテゴリ5のシールド付をお使いください。

外部モニターとの接続

コンピューターの映像を、本機に接続した外部モニターとスクリーンに同時に表示できます。スクリーンから離れた位置でプレゼンテーションを行うときでも、外部モニターで映像を確認しながら行えます。接続は外部モニターに付属のケーブルで行います。



外部モニターに表示できるのは、コンピューター1入力端子、BNC入力端子に接続したコンピューターのアナログRGB信号のみです。その他の端子に接続した機器の映像や、コンポーネントビデオ信号は表示できません。

接続機器	接続ケーブル	プロジェクターの端子
モニター	モニターに付属のケーブル	モニター出力端子  モニター出力



- 台形補正などの設定ゲージや環境設定メニュー・ヘルプは外部モニターに出力されません。
- プロジェクターがスタンバイ状態のときは、外部モニターに映像を表示できません。

外部スピーカーとの接続

本機の音声出力端子と外付けのアンプ内蔵スピーカーを接続すると、迫力あるサウンドが楽しめます。接続は市販のオーディオケーブル(ピンプラグ⇔3.5mmステレオミニプラグなど)で行います。オーディオケーブルは、外部オーディオ機器のコネクター形状に合わせて購入してください。

接続機器	接続ケーブル	プロジェクターの端子
オーディオ機器	オーディオケーブル(市販品)	音声出力端子  音声出力



- 音声出力端子へオーディオケーブルのプラグを差し込むと、音声の出力先が外部に切り替わり本機の内蔵スピーカーからは音が出なくなります。
- 市販の2RCA(L・R)/ステレオミニピンオーディオケーブルは、「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。

投写レンズユニットの取り外しと取り付け

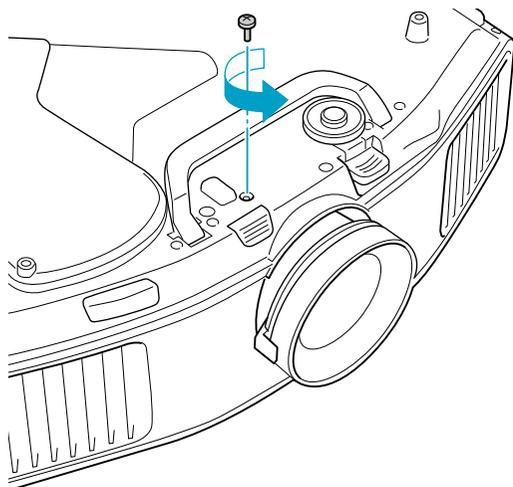
取り外し方

注意

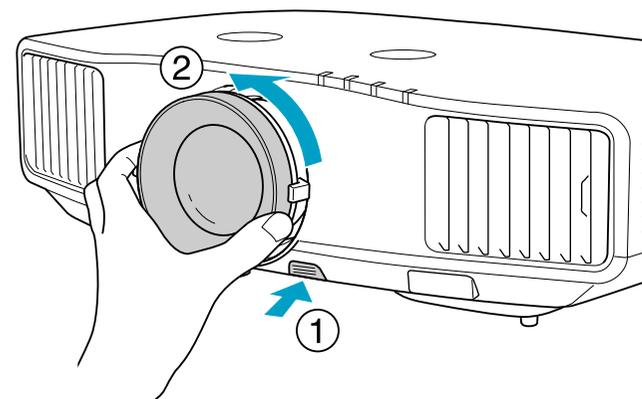
- レンズユニットは必要がないときは取り外さないでください。本機内部にホコリやゴミが入りこむと投写品質の劣化や故障の原因となります。
- レンズ部分に手や指が触れないように作業してください。レンズ面に指紋や皮脂が付くと投写品質が劣化します。
- レンズシフトを行っているときは、事前にシフト位置を中央に合わせてからレンズユニットを交換してください。  p.20

操作

- ① レンズユニット取り外しボタンをネジで固定しているときは、ネジを取り外します。



- ② レンズユニット取り外しボタンを押したままレンズユニットを反時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。



- ③ レンズユニットが外れますので、まっすぐに引き抜きます。

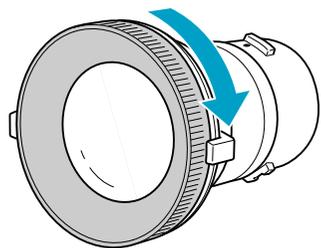
取り付け方

注意

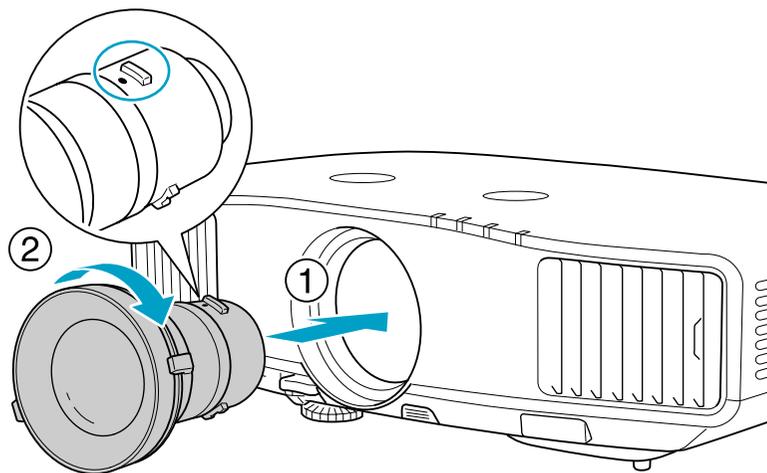
本機のレンズ挿入部を上に向けた状態でレンズユニットを装着しないでください。ホコリやゴミが入る原因となります。

操作

- ① フォーカスリングを動かなくなるまで時計回りに回します。



- ② レンズユニットの白い丸印を上に向けた状態でレンズ装着部にまっすぐ挿入し、突き当たったら時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。



- ③ レンズユニットを反時計回りに回してみても、外れないことを確認してください。

注意

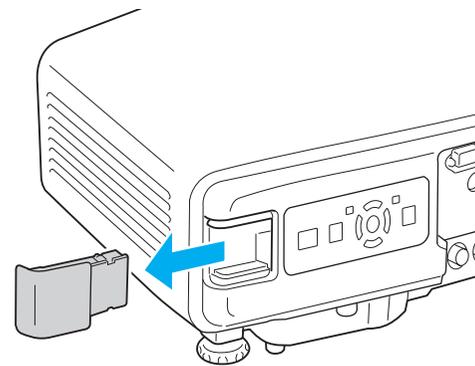
本機は必ずレンズユニットを装着した状態で保管してください。レンズユニットを外した状態で保管すると、本機内部にホコリやゴミが入り投写品質の劣化や故障の原因となります。

無線LANユニット(ELPAP03)の取り付け

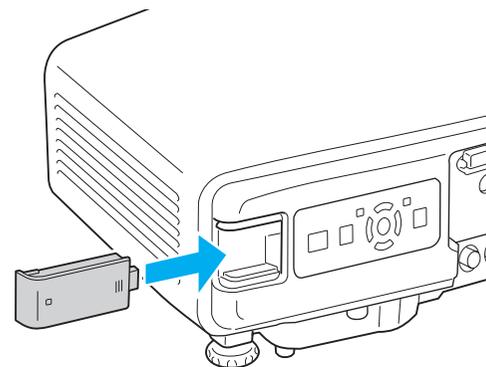
取り付け方

操作

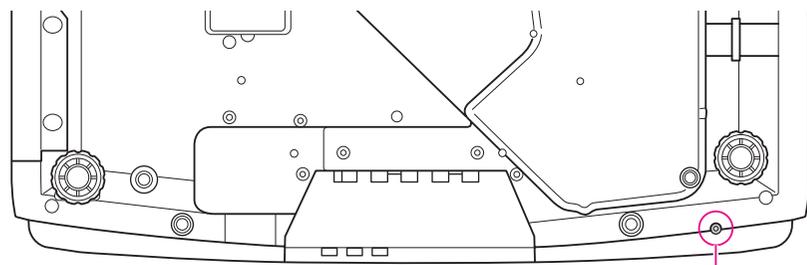
- ① プロジェクターの無線LAN ユニット装着部のカバーを取り外します。カバーは紛失しないように保管してください。



- ② 無線LANユニットを取り付けます。



- 3 無線LANユニットの紛失などを避けるために、添付のネジで固定します。



無線LANユニット固定ネジ穴

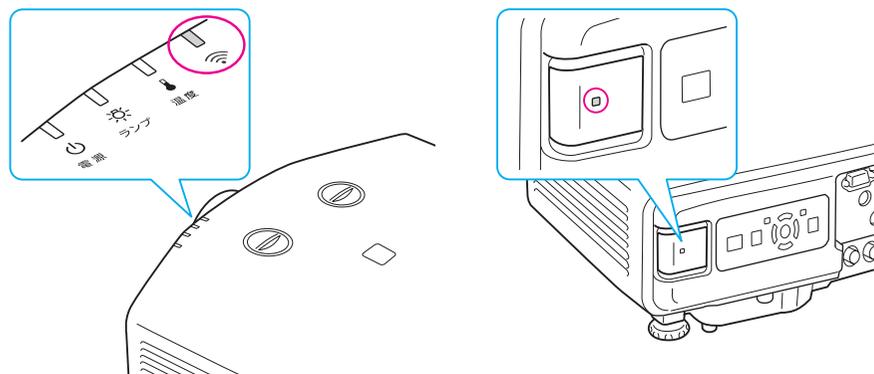
無線LANユニットを装着して本機とコンピューターを無線LANで接続するときは、無線LANメニューの無線LAN電源をオンに設定します。(初期値はオンに設定されています。) ➡ p.62

: 点滅 : 点灯 : 消灯

状態	プロジェクターのインジケータ	無線LANユニットのインジケータ
無線LANユニットが未装着、または無線LANメニューの無線LAN電源がオフ		
無線LANユニットがプロジェクターに装着されていてネットワークに未接続		
無線LANユニットがプロジェクターに装着されていてネットワークに接続している		
無線LANユニットがプロジェクターに装着されていてネットワークに接続して通信中		

無線LANインジケータの見方

無線LANインジケータはプロジェクターと無線LANユニットの2箇所にあります。



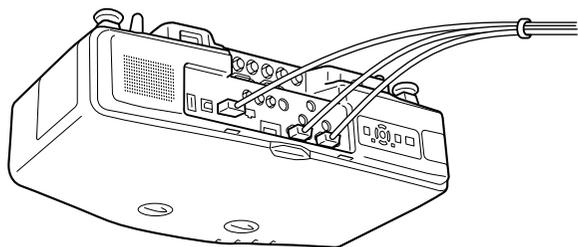
ケーブルカバーの取り付け、取り外し

ケーブルカバーを装着すると、雑然としたケーブル類をきれいに包み隠しスッキリした外観となります。(イラストは天吊り設置時のものです。)

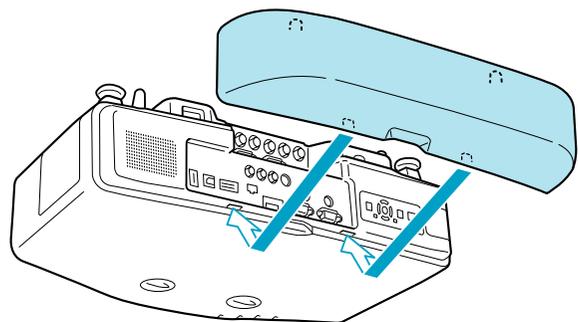
取り付け方

操作

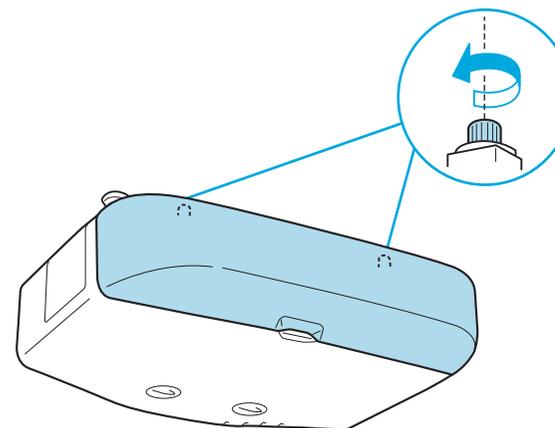
- 1 ケーブル類を結束バンド(市販品)で束ねます。



② ケーブルカバーの突起を、本機背面の差込口(2ヶ所)に差し込みます。



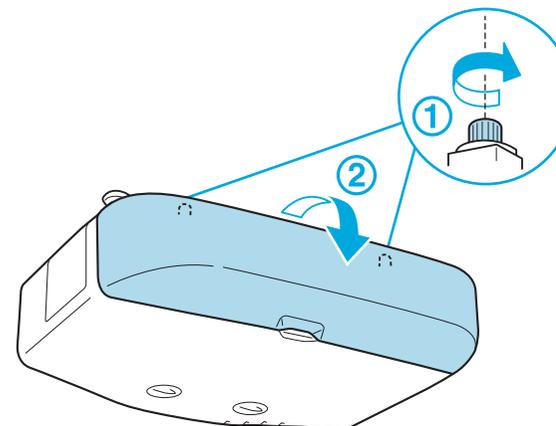
③ ケーブルカバーのネジ(2カ所)を締めます。(ネジは手で締められます。)



取り外し方

操作

ケーブルカバーのネジ(2ヶ所)をゆるめてから、取り外します。





各種一覽

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション品類は2010年10月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション品

<p>コンピューターケーブル ELPKC02 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 1.8m) 製品同梱のコンピューターケーブルと同等品です。</p>
<p>コンピューターケーブル ELPKC09 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m) コンピューターケーブル ELPKC10 (ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m) 製品同梱のコンピューターケーブルでは短いときの延長ケーブルです。</p>
<p>D端子ケーブル ELPKC22 (ミニD-Sub 15pin/D端子用 3m) BSデジタル放送チューナーと接続するときに使います。</p>
<p>コンポーネントビデオケーブル ELPKC19 (ミニD-Sub 15pin/RCAオス×3用 3m) コンポーネントビデオ▶▶を投写するときに使います。</p>
<p>リモコンケーブルセット ELPKC28 (10m、2本セット) 離れたところから確実にリモコンで操作したいときに使います。</p>
<p>ワイヤレスマウスレシーバー ELPST16 本機のリモコンでコンピューターのマウスポインターを操作したり、ページ送り/戻しの操作を行えます。</p>
<p>無線LANユニット ELPAP03 本機とコンピューターを無線LANで接続して投写するときに使います。</p>

<p>クイックワイヤレス用USBキー ELPAP08 このキーをWindows搭載のコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写できます。ただし、本機がネットワークに参加していることが前提条件です。</p>
<p>ハードトラベルケース ELPKS62 ハンドキャリングするときに使います。</p>
<p>長焦点ズームレンズ ELPLO6 (投写距離比：約4.7～6.7) 中焦点ズームレンズ ELPLM04 (投写距離比：約2.2～3.4) 中焦点ズームレンズ ELPLM05 (投写距離比：約3.2～5.0) 標準ズームレンズ ELPLS05 (投写距離比：約1.3～2.3) リアプロ用ワイドレンズ ELPLR03 (投写距離比：約0.77) 投写距離比=投写距離/投写画面の幅 値は設置の目安です。投写条件により変わります。</p>
<p>天吊り金具※ ELPMB22 本機を天井に取り付けるときに使います。</p>
<p>パイプ450(450mm)※ ELPFP13 パイプ700(700mm)※ ELPFP14 高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。</p>

※ 天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。▶▶ [お問い合わせ先](#)

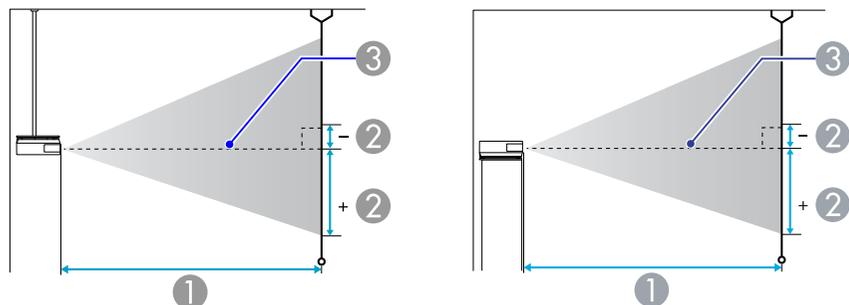
消耗品

<p>交換用ランプ ELPLP63 使用済みランプと交換します。</p>

エアフィルター ELPAF17

使用済みエアフィルターと交換します。

下表は、標準レンズを装着しているときの投写距離です。オプションレンズを装着しているときは、本製品に添付の『レンズ別投写距離表』で投写距離を確認してください。下表を参考にして、スクリーンに映像が最適な大きさに映るように設置してください。値は目安です。



- ① 投写距離
- ② は、レンズ中心から映像下端までの高さです。上下レンズシフトの設定により変わります。
- ③ レンズ中心

投写距離

単位：cm

4:3 スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	上下レンズシフト 最上~最下
50型	100x76	154 - 279	-6 - +83
60型	120x90	186 - 336	-8 - +99
80型	160x120	250 - 450	-10 - +132
100型	200x150	313 - 563	-13 - +165
120型	240x180	377 - 676	-15 - +198
150型	300x230	472 - 847	-19 - +248

4:3 スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	上下レンズシフト 最上~最下
200型	410x300	631 - 1130	-25 - +330
250型	510x380	790 - 1414	-32 - +413
265型	540x400	838 - 1499	-34 - +438

単位：cm

16:9 スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	上下レンズシフト 最上~最下
50型	110x62	139 - 253	-9 - +72
60型	130x75	168 - 305	-11 - +86
80型	180x100	226 - 408	-15 - +114
100型	220x120	284 - 511	-18 - +143
120型	270x150	342 - 614	-22 - +172
150型	330x190	428 - 768	-28 - +215
200型	440x250	573 - 1026	-37 - +286
250型	550x310	717 - 1283	-46 - +358
290型	640x360	833 - 1489	-54 - +415

単位：cm

16:10 スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	上下レンズシフト 最上~最下
50型	110x67	136 - 246	-6 - +73
60型	130x81	164 - 296	-7 - +88
80型	170x110	220 - 397	-9 - +117

16:10 スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	上下レンズシフト 最上~最下
100型	220x130	276 - 497	-11 - +146
120型	260x160	332 - 597	-13 - +175
150型	320x200	417 - 747	-17 - +219
200型	430x270	557 - 998	-22 - +292
250型	540x340	698 - 1248	-28 - +365
300型	640x400	838 - 1499	-34 - +438

対応解像度

コンピューター映像 (アナログRGB)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60/72/75/85	640x480
SVGA	56/60/72/75/85	800x600
XGA	60/70/75/85	1024x768
WXGA	60	1280x768
	60	1360x768
	60/75/85	1280x800
WXGA+	60/75/85	1440x900
WSXGA+※1	60	1680x1050
SXGA	70/75/85	1152x864
	60/75/85	1280x1024
	60/75/85	1280x960
SXGA+	60/75	1400x1050
UXGA	60	1600x1200
WUXGA※2	60	1920x1200
MAC13"	67	640x480
MAC16"	75	832x624
MAC19"	75	1024x768
	59	1024x768
MAC21"	75	1152x870

※1 環境設定メニューの入力解像度でワイドを選択した場合のみ

※2 VESA CVT-RB(Reduced Blanking) 信号のみ対応

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV(480i)	60	720x480
SDTV(576i)	50	720x576
SDTV(480p)	60	720x480
SDTV(576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080

コンポジットビデオ/s-ビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
TV(NTSC)	60	720x480
TV(PAL,SECAM)	50/60	720x576

DVI-D入力端子、HDMI入力端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SVGA	60	800x600
XGA	60	1024x768
WXGA	60	1280x800
SXGA	60	1280x960
	60	1280x1024
SXGA+	60	1400x1050
UXGA	60	1600x1200
WUXGA※	60	1920x1200
SDTV(480i)	60	720x480

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV(480p)	60	720x480
SDTV(576i)	50	720x576
SDTV(576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	24/30/50/60	1920x1080

※ VESA CVT-RB(Reduced Blanking) 信号のみ対応

本機仕様

商品名	EB-G5750WU	
外形サイズ	幅470×高さ135×奥行き311.5mm(フット・投写レンズ部含まず)	
パネルサイズ	0.76型ワイド	
表示方式	ポリシリコンTFTアクティブマトリクス	
画素数	2,304,000 個 WUXGA(横1920×縦1200 ドット)×3	
フォーカス調整	手動	
ズーム調整※1	手動(1-1.8)	
レンズシフト※1	手動(上下方向最大約58%、左右方向最大約9%)	
ランプ	UHE ランプ 定格330W 型番：ELPLP63	
音声最大出力	7Wモノラル	
スピーカー	1個	
電源	100-240V AC ±10%, 50/60 Hz 4.8-2.1A	
消費電力	100-120Vエリア	定格消費電力：477W 待機時消費電力(通信オン)：10W 待機時消費電力(通信オフ)：0.38W
	220-240Vエリア	定格消費電力：451W 待機時消費電力(通信オン)：11W 待機時消費電力(通信オフ)：0.47W
動作高度	標高 0～3000m	
動作温度範囲	0～+40℃※2(結露しないこと)	
保存温度範囲	-10～+60℃(結露しないこと)	
質量※1	約6.8kg	

※1 標準レンズを装着しているときの仕様です。他のオプションレンズを装着しているときは、レンズに添付の取扱説明書をご参照ください。

※2 標高1500m～3000mの環境で、明るさ切替をノーマルに設定しているときは0～+35℃

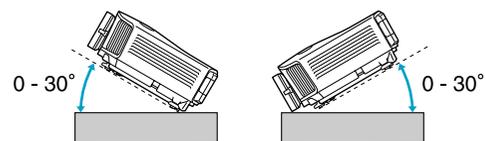
商品名			EB-G5750WU
接続端子	コンピューター1入力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス) 青
	音声入力1端子	1系統	ステレオミニピンジャック
	DVI-D入力端子	1系統	DVI-D 24pin シングルリンク HDCP対応
	音声入力2端子	1系統	ステレオミニピンジャック
	BNC入力端子	1系統	5BNC(メス)
	音声入力3端子	1系統	ステレオミニピンジャック
	ビデオ1入力端子	1系統	1BNC(メス)
	ビデオ2入力端子	1系統	RCAピンジャック
	S-ビデオ入力端子	1系統	ミニDIN 4pin
	音声入力4端子	1系統	RCAピンジャック×2(L,R)
	HDMI入力端子	1系統	HDMI HDCP対応 (音声はPCMのみに対応)
	モニター出力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス) 黒
	音声出力端子	1系統	ステレオミニピンジャック
	USB(TypeA)端子※	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)
	USB端子 (無線LANユニット専用)※	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)
	LAN端子	1系統	RJ-45
	RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin(オス)
リモート端子	1系統	ステレオミニピンジャック	

※ USB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

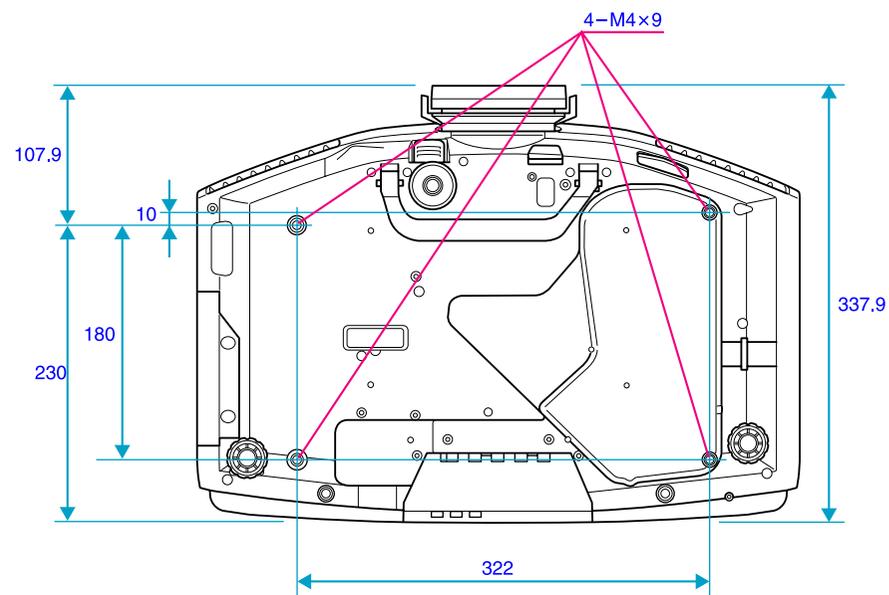
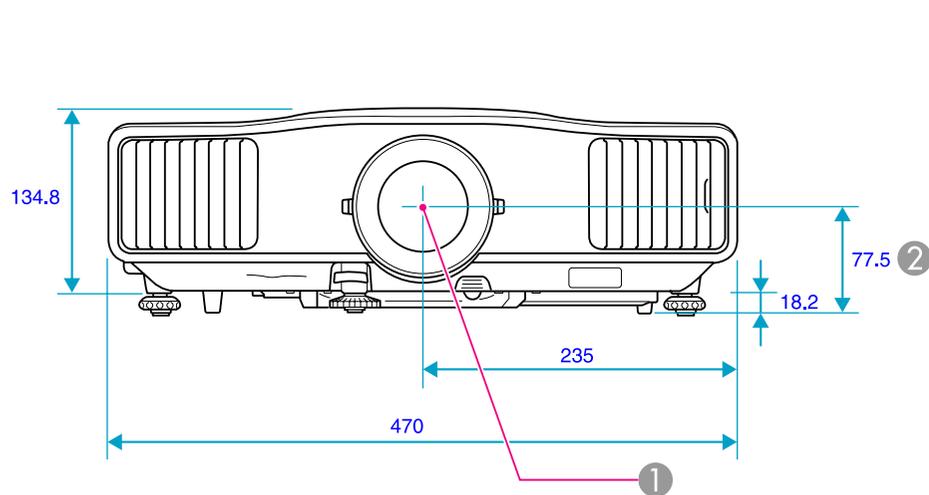


本機にはPixelworks DNX™のICが搭載されています。

傾斜角度



上記以外の角度でお使いになると、故障や事故の原因となります。



- ① レンズの中心
- ② レンズの中心から天吊固定部までの寸法

単位：mm

本書で使用している用語で本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効(ON)にできる設定を用意しました。詳細に関しては、AMX社のWEBサイトを参照してください。 URL http://www.amx.com/
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、 IPアドレス を自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DICOM	Digital Imaging and Communication in Medicineの略称です。医用画像の画像規格及び通信プロトコルを定義した世界標準規格です。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略でDVIやHDMI入力端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術です。本機のHDMI端子はHDCPに対応しているためHDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 垂直解像度720p、1080i以上(pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査) • 画面のアスペクト比は16:9
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
S-ビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 Y(輝度信号)C(色信号)の2つの独立した信号からできている映像をいいます。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、 HDTV の条件を満たさない標準テレビジョン放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルータやコンピューター、端末などネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SVGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横800ドット×縦600ドットのもの呼びます。
SXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,280ドット×縦1,024ドットのもの呼びます。
VGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横640ドット×縦480ドットのもの呼びます。
WPS(Wi-Fi Protected Setup)	Wi-Fi Allianceで無線LANの設定や暗号化が簡単にできるように策定した規格です。
XGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,024ドット×縦768ドットのもの呼びます。

アスペクト比	画面の縦と横の比率をいいます。縦横の比率が16：9と横長になっている画面をワイド画面といいます。標準画面のアスペクト比は4：3です。
アドホックモード	無線LANの通信方式の一つで、アクセスポイントを経由せずに機器同士が直接通信を行なう方式です。同時に2台以上の機器と通信することはできません。
インターレース	1つの画面を表示するときに情報を横方向に細かい線に分け、左から右へ、上から下へ順次表示させます。このとき偶数線分と奇数線分を交互に表示する方法をいいます。
インフラストラクチャーモード	無線LANの通信方式の一つで、各機器がアクセスポイントを経由して通信を行います。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスク▶▶によって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバー(ルーター)のことです。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 ハイビジョンにおいて、Y(輝度信号)Pb、Pr(色差信号)の3つの独立した信号からできている映像をいいます。
コンポジットビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を混合した、一般的な家庭用ビデオ信号(NTSC、PAL、SECAM)です。カラーバー信号の中の伝送用信号Y(輝度信号)とクロマ(色)信号を重ねて1つの信号にしています。
サブネットマスク	IPアドレス▶▶から、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数に本機の周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレス▶▶のことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を上から下へ順次走らせて一画面を構成する方式をいいます。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ(Hz)で表します。

本製品について

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

Microsoft® Windows® 2000 operating system
Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
Microsoft® Windows Vista® operating system
Microsoft® Windows® 7 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」、「Windows 7」と表記しています。また、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7を総称する場合はWindows、複数のWindowsを併記する場合はWindows 2000/XP/Vistaのように、Windowsの表記を省略することがあります。

Mac OS X 10.3.x
Mac OS X 10.4.x
Mac OS X 10.5.x
Mac OS X 10.6.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Mac OS X 10.3.9」、「Mac OS X 10.4.x」、「Mac OS X 10.5.x」、「Mac OS X 10.6.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac OS」と表記します。

商標について

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows 7、PowerPoint、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM、DOS/V、XGAは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMacは、Apple Inc.の商標です。

Pixelworks、DNXはPixelworks社の商標です。

本製品は、RSA Security Inc.のRSA、BSAFE™ソフトウェアを搭載しています。RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEはRSA Security Inc.の米国および他の国における登録商標です。

本製品では、東芝情報システム株式会社の **NetNucleus**® **WPA** ソフトウェアを搭載しています。

NetNucleus は、日本における東芝情報システム株式会社の登録商標です。

WPA™、WPA2™、Wi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの登録商標です。

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標または登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。 

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ソフトウェアの著作権について

本装置は当社が権利を有するソフトウェアの他にフリーソフトウェアを利用しています。

本装置に利用にされているフリーソフトウェアに関する情報は下記のとおりです。

1. LGPL

- (1) 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となるフリーソフトウェアを本装置に利用しています。

LGPLの全文は以下のWebサイトでご覧いただけます。

[LGPL]<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

当社は、本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアについてLGPLに基づきソースコードを開示しています。

当該フリーソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、最寄りのサポート窓口までご連絡ください。

なお、当該フリーソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はLGPLの条件に従ってください。

また、当該フリーソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1) のとおり、本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

- (3) 本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアおよびその著作者は(1)にて開示するソースコード内に記載してあります。

2. その他フリーソフトウェア

当社は、**LGPL**の適用対象となるフリーソフトウェア以外に以下のフリーソフトウェアを本装置に利用しています。

以下、それぞれの著作者および条件等を原文にて記載します。なお、これらのフリーソフトウェアはその性格上フリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

(1) libpng

Copyright© 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson

Copyright© 1996-1997 Andreas Dilger

Copyright© 1995-1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

(2) zlib

Copyright© 1995-2003 Jean-loup Gailly and Mark Adler

GNU GPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「GPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをGPLの条件に従い本製品に利用しています。

当社は、本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カラリオインフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。

なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はGPLの条件に従ってください。

また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよび**LGPL**の適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

GPL適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox-1.7.2

libgcc1(gcc-4.2.3)

linux-2.6.20

patches

udhcp 0.9.8

uvc rev.219

wireless_tools 29

Pixelworks 社 PWC950 SDK drivers

GPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
 - a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LGPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをLGPLの条件に従い本製品に利用しています。

当社は、本製品に含まれるLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてLGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カラリオインフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。

なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はLGPLの条件に従ってください。

また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。
- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

LGPL適用ソフトウェアパッケージリスト

uClibc-0.9.29

SDL-1.2.13

LGPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

LGPL : <http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) The modified work must itself be a software library.
 - b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
 - a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
 - b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail. You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

University of California, Berkeley(UCB)によるBSDライセンス適用ソフトウェアについて

当社は、University of California, BerkeleyによるBSDライセンス(以下「UCB BSDライセンス」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアを当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件に従い本製品に利用しています。

なお、当該オープンソースソフトウェアはその性格上、当該オープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox_1.7.2

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (c) The Regents of the University of California. All rights reserved. This code is derived from software contributed to Berkeley by Kenneth Almquist.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

libjpegについて

当社はオープンソースソフトウェア「libjpeg」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libjpegライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libjpeg」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libjpeg」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libjpeg」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libjpeg」に起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libjpegライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libjpeg-6b

libjpegライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1994-1997, Thomas G. Lane. This file is part of the Independent JPEG Group's software. For conditions of distribution and use, see the accompanying README file.

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group's free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

LEGAL ISSUES

=====

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

- (1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
- (2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
- (3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

libpngについて

当社はオープンソースソフトウェア「libpng」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libpngライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libpng」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libpng」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libpng」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libpng」に起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libpngライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libpng-1.2.7

libpngライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

For conditions of distribution and use, see copyright notice in png.h Copyright (c) 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson (Version 0.96 Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger) (Version 0.88 Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.)

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

libpng version 1.2.6, September 12, 2004, is Copyright (c) 2004 Glenn Randers-Pehrson, and is distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux

Eric S. Raymond

Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane

Glenn Randers-Pehrson

Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler

Kevin BraceySam Bushell

Sam Bushell

Magnus Holmgren

Greg Roelofs

Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger

Dave Martindale

Guy Eric Schalnat

Paul Schmidt

Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp@users.sourceforge.net
September 12, 2004

zlibについて

当社はオープンソースソフトウェア「zlib」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「zlibライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「zlib」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「zlib」はオープンソースソフトウェアという性格上、「zlib」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「zlib」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

zlibライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

zlib-1.1.4

zlibライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright notice:

(C) 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly
jloup@gzip.org

Mark Adler
madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes.

libmd5-rfcについて

当社はオープンソースソフトウェア「libmd5-rfc」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libmd5-rfcライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libmd5-rfc」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libmd5-rfc」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libmd5-rfc」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libmd5-rfc」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libmd5-rfc

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1999, 2002 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

L. Peter Deutsch ghost@aladdin.com

Independent implementation of MD5 (RFC 1321).

This code implements the MD5 Algorithm defined in RFC 1321, whose text is available at

<http://www.ietf.org/rfc/rfc1321.txt>

The code is derived from the text of the RFC, including the test suite (section A.5) but excluding the rest of Appendix A. It does not include any code or documentation that is identified in the RFC as being copyrighted.

The original and principal author of md5.h is L. Peter Deutsch <ghost@aladdin.com>. Other authors are noted in the change history that follows (in reverse chronological order):

2002-04-13 lpd Removed support for non-ANSI compilers; removed

references to Ghostscript; clarified derivation from RFC 1321; now handles byte order either statically or dynamically.

1999-11-04 lpd Edited comments slightly for automatic TOC extraction.

1999-10-18 lpd Fixed typo in header comment (ansi2knr rather than md5); added conditionalization for C++ compilation from Martin Purschke <purschke@bnl.gov>.

1999-05-03 lpd Original version.

ncursesについて

当社はオープンソースソフトウェア「ncurses」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者であるFree Software Foundationから提示された条件(以下「ncursesライセンス」)に従い本製品に利用しています。

なお、「ncurses」はオープンソースソフトウェアという性格上、「ncurses」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「ncurses」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

ncursesライセンス適用ソフトウェアパッケージ

ncurses-5.6

ncursesライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (c) 1998-2002,2003 Free Software Foundation, Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, distribute with modifications, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE ABOVE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name(s) of the above copyright holders shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization.

For embedded multimedia software:

This product contains embedded multimedia software licensed from Ingenient Technologies, Inc. (www.ingenient.com).

Copyright© 2000-2007 Ingenient Technologies, Inc. All rights reserved.

For MPEG-4 ASP:

With respect to a Licensee offering MPEG-4 Video Decoders and/or Encoders the following notice shall be given: THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i) ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUAL STANDARD ("MPEG-4 VIDEO") AND/OR (ii) DECODING MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, LLC. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM).

For MPEG-4 AVC:

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

For WMV/WMA (Microsoft):

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft.

Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

o インジケータ 77

数字・アルファベット

2-2プルダウン 54
 2画面 30, 55
 2画面設定 30
 A/Vミュート 14, 34
 AMX Device Discovery 71
 BNC同期終端 58
 BNC入力端子 12
 Crestron RoomView 109
 DHCP 69
 DICOM SIM 29
 DVI/HDMIビデオレベル 54
 DVI-D入力端子 13
 EAP-Fast 68
 EAP-TLS 67
 EAP-TTLS 68
 EasyMP Monitor 101
 ESC/VP21 106
 Event ID 73, 89
 Eズーム 35
 HDMI入力端子 12
 IPアドレス 69
 LAN音声入力 55
 LAN端子 12
 LEAP 68
 MACアドレス 69
 Message Broadcasting 101
 PEAP 68
 PJLink 108
 PJLinkパスワード 61
 Quick Corner 20, 55

RoomView 71, 109
 RS-232C端子 12, 106
 SMTPサーバー 70
 sRGB 29
 S-ビデオ入力端子 13
 USB(TypeA)端子 12
 USBインジケータ 12
 Web Remote 102
 Web制御 59, 102
 Web制御パスワード 61
 WEP 65
 WPA2-PSK 66
 WPA-PSK 66

ア

明るさ 51
 明るさ切替 55
 アスペクト 27, 54
 色合い 51
 色の濃さ 51
 インジケータ 77
 エアフィルター清掃通知 58
 エアフィルタータブ 10
 エアフィルターの交換時期 97
 エアフィルターの交換方法 97
 エアフィルターの掃除 91
 映像メニュー 53
 エコ 55
 オーバースキャン 54
 オーバーヒート 78
 オプション品 134
 音声出力端子 12
 音声入力1端子 12

音声入力2端子 13
 音声入力3端子 12
 音声入力4端子 12
 温度インジケータ 77, 91
 音量ボタン 15

カ

解像度 138
 拡張設定メニュー 57
 各部の名称と働き 10
 画質調整メニュー 51
 カスタム 29
 画面サイズ 31
 カラー調整 51
 カラーモード 29, 51
 環境設定メニュー 50
 基本設定メニュー 61
 傾斜角度 142
 ゲートウェイアドレス 63, 69
 ケーブルカバー 131
 言語 58
 高地モード 58
 故障かなと思ったら 77
 コントラスト 51
 コンピュータ1入力端子 12

サ

サブネットマスク 69
 左右画面入替 31
 左右レンズシフトダイヤル 10, 20
 シアター 29
 自動調整 53
 シャープネス 51

仕様一覧	140
上下レンズシフトダイヤル	10, 20
状態インジケータ	10
情報メニュー	73
消耗品	134
初期化メニュー	72, 74
ズーム	27
ズームリング	10
スクリーンサイズ	136
スタートアップスクリーン	57
スポーツ	29
スリープモード	58
静止	34
セキュリティメニュー	64
絶対色温度	51
設置と接続	120
設置モード	57, 121
設定メニュー	55
全初期化	74
全ロック	46
操作パネル	13
操作ボタンロック	46, 55
操作ロック	46
その他メニュー	71
ソフトキーボード	60

タ

ターゲットスコープ	36
対応解像度	138
待機モード	58
台形補正	23, 55
ダイナミック	29
ダイレクトパワーオン	58

タテヨコ補正	23
通知イベントの指定	70
テストパターン	19, 56
電源投入時	44
電子証明書	67
問い合わせコード	46
同期	53
同期情報	73
動作温度範囲	140
動作設定	58
投写距離	136
投写レンズ	129
トラッキング	53
トラップIPアドレス1/2	71

ナ

入力解像度	73
入力検出	13, 15, 25
入力信号	73
入力信号方式	54
入力ソース	73
ネットワーク設定画面	59
ネットワークプロジェクターへの接続	114
ネットワーク保護	45
ネットワークメニュー	59
ノイズリダクション	53
ノーマル	55

ハ

排気口	10
背景表示	57
パスワードプロテクト	44, 59

パスワードプロテクトシール	45
左画面入力ソース	31
ビデオ1入力端子	12
ビデオ2入力端子	12
ビデオ信号方式	54, 73
表示位置	53
表示設定	57
フォーカスリング	10
フォト	29
フットレバー	10
フル	27
プレゼンテーション	29
プログレッシブ変換	53
プロジェクターID	37
プロジェクターキーワード	61
プロジェクター名	61
フロント・天吊り投写	121
フロント投写	121
フロントフット	10
ポインター	34
ポインター形状	55
方向ボタン反転	58
ポート番号	70
保存温度範囲	140
本機の掃除	91

マ

マルチスクリーン	58
マルチスクリーンカラーアジャストメント	40
右画面入力ソース	31
無線LANインジケータ	10, 131
無線LAN電源	62

無線LANメニュー	62
無線LANユニット	130
メールアドレス1/2/3	70
メール通知機能	70, 104
メールメニュー	70
メッセージ表示	57
メニュー	50
モニター出力端子	12

ヤ

ユーザーロゴ	42
ユーザーロゴ保護	44
有線LANメニュー	69
優先ゲートウェイ	71

ラ

ランプインジケータ	77, 94
ランプ点灯時間	73
ランプ点灯時間の初期化	96
ランプの交換時期	94
ランプの交換方法	94
リア・天吊り投写	121
リア投写	121
リアフット	11
リアル	27
リフレッシュレート	73
リモート端子	12
リモコン	14
リモコン受光部	10
リモコンID	38
レンズシフト	20
レンズユニット取外しボタン	10, 11